鞠智城跡

― 第35・36次調査報告 ―

深迫門跡周辺の調査

2022

熊本県立装飾古墳館分館
歴史公園鞠智城・温故創生館

鞠智城跡

― 第35・36次調査報告 ―

深迫門跡周辺の調査

2022

熊本県立装飾古墳館分館
歴史公園鞠智城・温故創生館

序文

鞠智城跡は、東アジア情勢が緊迫した７世紀後半に、ヤマト王権により築城された古代山城の一つです。『続日本紀』文武天皇２年（６９８）の条の修繕記事を初見とし、その後、『日本文徳天皇実録』、『日本三代実録』など「六国史」に記述がある全国でも有数の重要な遺跡として、平成１６年２月２７日付けで国史跡に指定されました。

熊本県教育委員会では、昭和４２年度から日本古代史上の重要性からその構造解明に向けた発掘調査を実施し、これまでに八角形建物跡をはじめとする７２棟の建物跡や３つの城門跡、貯水池跡などの重要な遺構を検出しています。

また、土器や瓦片などの遺物に加え百済系銅造菩薩立像や木簡など、鞠智城の築城や役割に迫る貴重な遺物も相次いで発見されました。

本報告は、平成２８年３月に策定した『第３次鞠智城保存整備基本計画』に基づいて深迫門跡の構造解明を目的に実施した第３５,３６次調査の概要についての記録です。今後は、これまでの調査成果を基に当該門跡の構造解明に向けた研究を推進し、併せて整備の在り方についても検討をしていくことと致します。

なお、これらの調査成果が学術的資料としてのみならず、多くの県民の皆様の、埋蔵文化財保護に対する理解を深めていただくための資料となれば幸いです。

最後に、調査の円滑な実施に御理解と御協力を頂いた関係各機関、調査に対する指導、助言を頂いた諸先生方、並びに地元の方々に対して心より感謝申し上げます。

令和４年（２０２２年）３月３１日

熊本県教育長　古閑　陽一

例　言

1　本書は、熊本県教育委員会が令和２、３年度に文化庁国庫補助事業として実施した鞠智城跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　本遺跡の調査は、熊本県立装飾古墳館分館歴史公園鞠智城・温故創生館が実施した。

3　発掘調査を実施した地点は、行政区分上、熊本県菊池市字深迫に所在する。

4　発掘調査は令和 3 年（2021 年）1 月 14 日から令和 3 年（2021 年）3 月 30 日まで（第 35 次）、令和 3 年（2021 年）6 月 8 日から令和 4 年（2022 年）1 月 21 日まで（第 36 次）実施し、岡本真也、亀田 学が担当した。

5　発掘調査現場における遺構実測は（株）埋蔵文化財サポートシステムに委託した。ドローンによる航空写真の撮影は、ヤマガ空撮が実施した。3D 撮影は、埋蔵文化財サポートシステムと装飾古墳館が実施している。その他の写真撮影は調査担当者が行った。
　遺構の埋戻し、保護については、（社）菊池市シルバー人材センターに委託して実施した。

6　本書で用いる地形図は、国土地理院の 2 万 5 千分の 1 及び熊本 GP マップ、山鹿市都市計画図（５千分の１）をもとに作成した。

7　遺跡の基準点測量及び水準測量は（株）埋蔵文化財サポートシステムに委託した。

8　トレース及び遺構のデジタルトレースは（株）埋蔵文化財サポートシステムに委託し、編集は亀田が行った。

9　本遺跡の遺物及び写真、図面などの資料は、すべて熊本県立装飾古墳館分館歴史公園鞠智城・温故創生館にて保管している。

10　本書の執筆は、第１章第３節を岡本、第２章を廣田、その外を亀田が担当した。

11　本書の編集は、熊本県立装飾古墳館分館歴史公園鞠智城・温故創生館で行い、北本　裕子・田中　ゆみ・松岡　佐和子の補助を得て、亀田が担当した。

凡　例

1　平面直角座標は、日本測地系を使用している。方位は、座標軸を基準とした座標北を示している。
2　本書が使用したレベル（L ＝）標高を示す。
3　本書に掲載している遺構図及び地形図は、それぞれ任意の縮尺で掲載している。挿図中のスケールを参照されたい。
4　本書に掲載している遺物は、土器を 1/3 の縮尺で掲載している。なお、須恵器の実測図断面図は黒塗りしている。
5　各層位の土色及び土器の胎土の色調は、『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所票監修）による。

目　　次

序文・例言・凡例
第１章　調査の概要---------- 1
　第１節　調査に至る経緯…… 1
　第２節　調査及び整理の組織…… 1
　第３節　調査の過程…… 2
第２章　遺跡の位置と環境---------- 4
　第１節　地理的環境…… 4
　第２節　歴史的環境…… 4
第３章　調査の方法と成果---------- 6
　第１節　調査の方法…… 6
　第２節　深迫門跡におけるこれまでの調査概要…… 6
　　第１項　第１～２次調査の概要…… 6
　　第２項　第３次調査…… 6
　　第３項　第 16 次調査 …… 7
　　第４項　第 28 次調査 …… 8
　第３節　令和 2・3 年度（2020・2021 年度）調査の概要 …… 8
　　第１項　目的と方法…… 8
　　第２項　基本土層…… 8
　　第３項　門周辺における土塁構造の調査（35 トレンチの調査）…… 8
　　１　門北側の土塁…… 8
　　（１）35 トレンチ上層（16 次調査北西壁面）…… 8
　　（２）35-2 トレンチ …… 9
　　（３）35-3 トレンチ …… 9
　　２　門南側の土塁…… 9
　　（１）28-6（35-4）トレンチ …… 9
　　３　門周辺で検出した遺構……10
　　（１）35-3 トレンチ ……10
　　（２）28-6（35-4）トレンチ ……10
　　（３）35 トレンチ上層で検出した遺構 ……10
　　第４項　３段目で検出した土塁（28-5 トレンチの調査）……10
　　１　28-5 トレンチの調査
　　（１）門北側の土塁 ……10
　　（２）門南側の土塁 ……11
　　（３）登城道 ……12
第４章　まとめと課題----------13
　第１節　土塁の規模と構造……13
　第２節　門周辺の構造と土塁技術……13
　第３節　門推定地周辺の土坑状遺構の性格について……13
　第４節　登城道について……14
付章　鞠智城跡第 35・36 次調査における放射性炭素年代（AMS 測定）……15
図面
写真図版
報告書抄録・奥付

図面目次

図１　鞠智城跡　周辺主要遺跡分布図(1/50,000)…17
図２　城門跡　位置図　(1/6,000)……18
図３　深迫門跡　周辺地形図（1/400）……19
図４　深迫門跡 門礎石（「鞠智城跡Ⅱ」2012 第317図）（S=1/40）……20
図５　深迫門跡 出土遺物（1/3）（「鞠智城跡Ⅱ」2012 第323図）……20
図６　深迫門跡 版築土塁土層断面図１（S=1/150）（「鞠智城跡Ⅱ」2012 第318図）…21
図７　深迫門跡 版築土塁土層断面図２（S=1/50）（「鞠智城跡Ⅱ」2012 第319図））……22
図８　深迫門跡 版築土塁土層断面図3（S=1/50）（「鞠智城跡Ⅱ」2012 第320図））……23
図９　深迫門跡 石列･柱穴･土層断面図（S=1/80）（「鞠智城跡Ⅱ」2012 第321図））……24
図10　深迫門跡 28-4・5トレンチ土層断面図（S=1/80）（「鞠智城跡Ⅱ」2012 第322図））…25
図11　深迫門跡 周辺第35・第36 次調査時現況とトレンチ配置図（S=1/400)……26
図12　深迫門跡　35・28-5 トレンチ平面図（S=1/100）……27
図13　35-1・35-2トレンチ土層断面図（S=1/80）…28
図14　35トレンチ上層土層断面図（S=1/80）……28
図15　35-2トレンチ東壁土層断面図（S=1/50）……29
図16　35-3トレンチ東壁土層断面図（S=1/50）……29
図17　35-3トレンチ西壁土層断面図（S=1/50）……30
図17-2　35-3トレンチ南壁土層断面図（S=1/50）……30
図18　28-6（35-4）トレンチ東壁土層断面図（S=1/50）……31
図19　28-6（35-4）トレンチ西壁土層断面図（S=1/50）……32
図20　深迫門跡 28-5トレンチ平面図（S=1/50）…33
図21　16次調査　集石遺構（集石①）平面図・断面図・断面見通し図（S ＝1/25）……34
図22　28-5トレンチ北壁土層断面図（S ＝1/50）…34
図23　28-5トレンチ西壁土層断面図（S=1/50）……35
図24　28-5トレンチ東壁土層断面図（S=1/50）……36

表目次

表1　深迫門跡 出土土器一覧表 ……20

写真図版目次

写１　上空から深迫門・長者原広場を望み、不動岩を遠望する（南東より）……37
写２　35トレンチ（2段目土層断面）全景（南より)…37
写３　35トレンチ（2段目）集石遺構（登城道）検出状況 近景（東より）……38
写４　35－3トレンチ（2段目）版築土層断面近景（南より）……38
写５　35－3トレンチ（2段目）01-SX 検出状況（南西より）……39
写６　35-3トレンチ内の列石検出状況遠景（南西より）……39
写７　35-3トレンチ内の列石検出状況近景（南西より）……39
写８　28-6（35-4トレンチ）（2段目）土層状況（南西より）……40
写９　28-6（35-4トレンチ）（2段目）土層状況（北東より）……40
写10　28-5トレンチ（3段目） 近景（南より）……41
写11　28-5トレンチ（3段目） 全景（南西より）……41
写12　28-5トレンチ（3段目） 北側版築土塁（南東より）……41
写13　28-5トレンチ（3段目） 集石遺構検出状況（北東より）……42
写14　28-5トレンチ北側土塁前面敷石検出全景（南東より）……42
写15　28-5トレンチ(3段目） 北西側状況(東より)…42
写16　28-5トレンチ（3段目） 南東側断面・南側版築土塁検出状況（北より）……43
写17　28-5トレンチ（3段目） 北西側断面・南側版築土塁検出状況（南東より）……43
写18　16次調査　北側土塁検出状況（南東より）……44
写19　28次調査28-4トレンチ（3段目） 基底石・敷石検出状況（南より）……44
写20　28次調査28-4トレンチ（3段目） 基底石・敷石検出状況（東より）……44

第１章　調査の概要

第１節　調査に至る経緯

鞠智城跡は熊本県の北部、山鹿市菊鹿町南部から菊池市北西部にかけて所在する古代山城である。『続日本紀』文武天皇２（698）年５月の条にみえる「令大宰府繕治大野・基肄・鞠智三城」という修繕記事を初見とし、『日本文徳天皇実録』天安２（858）年２月、６月の条、『日本三大実録』元慶３（879）年３月の条にも城名の記載がみられる。所謂「朝鮮式山城」である。現在は、熊本県が平成６年度から始めた保存整備事業により、八角形鼓楼、米倉、兵舎、板倉が復元され、平成14年度にはガイダンス施設「温故創生館」が併設され歴史公園として県民に親しまれている。また、平成16年２月27日に国の史跡に指定された。

この鞠智城跡の本格的な発掘調査は、熊本県教育委員会が昭和42～44年度に実施した第１～４次調査に始まる。これは当時、熊本女子大学教授であった乙益重隆を団長とする「鞠智城調査団」によるものであった。その後、昭和62年度の第10次調査からは、文化庁国庫補助事業として毎年度継続的に調査を実施してきた。その結果、国内の古代山城では類例をみない「八角形建物跡」をはじめとする72棟の建物跡や、約5,300㎡という広大な面積をもつ貯水池跡、版築盛土による土塁、そして通水溝を伴う石塁など城の構造解明に係る貴重なデータが蓄積されてきた。さらに平成20年度には、貯水池跡池尻部から百済系銅造菩薩立像が出土し、築城時期を考える上で重要な資料を提供した。

現在の発掘調査は、貯水池跡、城門跡、土塁線の構造解明を目的とする調査方針に基づき、概ね20年間の事業期間を念頭に年次計画を掲げた『第３次鞠智城跡保存整備基本計画』（平成28年３月策定）に基づき実施している。しかし、平成28年４月に熊本地震が発生したことから同計画の開始年度を平成30年度に変更し、堀切門跡の調査を実施した。その後、本計画に基づき今回報告を行う第35次及び第36次調査を、深迫門跡の構造把握を目的として令和２年度～令和３年度の２ヵ年に亘って鞠智城跡保存整備検討委員会の審議・了承を得て実施することとなった。

第２節　調査及び整理の組織

調査及び整理作業は下記の組織で行った。

発掘調査

第３５次調査（令和２年度【２０２０年度】）

調査主体者　熊本県教育委員会
調査責任者　村﨑 孝宏（熊本県立装飾古墳館長）
調査総括　　上村 修治（同分館歴史公園鞠智城・温故創生館長）
調査事務　　八並 健児（熊本県立装飾古墳館総務課長）、釜崎 裕子（同参事）
　　服部 雄一郎（同歴史公園鞠智城・温故創生館主任主事）、米田 愛実（同主事）
調査担当者　岡本 真也（同主幹兼文化財整備交流課長）
　　亀田 学（同参事）
発掘調査作業員（順不同・敬称略）
　　河津 祐太郎、宮本 清、小川 一雄、堀野 素子

第３６次調査（令和３年度【２０２１年度】）

調査・整理主体者　熊本県教育委員会
調査・整理責任者　村﨑 孝宏（熊本県立装飾古墳館長）
調査・整理総括　　廣田 静学（同分館歴史公園鞠智城・温故創生館長）
調査・整理事務　　八並 健児（熊本県立装飾古墳館総務課長）、米田 愛実（同主任主事）
　　服部 雄一郎（同歴史公園鞠智城・温故創生館参事）、島田 真帆（同主事）
調査・整理担当者　岡本 真也（同主幹兼文化財整備交流課長）
　　亀田 学（同参事）
発掘調査作業員（順不同・敬称略）
　　河津 祐太郎、宮本 清、小川 一雄、堀野 素子、坂本 春雄
鞠智城跡保存整備検討委員会（令和２・３年度、50音順・敬称略）
　　小田 富士雄（福岡大学名誉教授）、小畑 弘己（熊本大学院教授）、亀田 修一（岡山理科大学教授）、小西龍三郎（元九州造形短期大学教授）、坂上 康俊（九州大学名誉教授）、佐藤 信（東京大学名誉教授）、田中哲雄（元東北芸術工科大学教授）、山尾 敏孝（熊本大学名誉教授）、長谷 義隆（天草市立御所浦白亜紀資

料館館長）

調査指導指導及び協力者（順不同・敬称略）

堀江 潔（佐世保工業高等学校専門学校教授）、宮縁 育夫（熊本大学くまもと水循環･減災研究教育センター教授）、西住 欣一郎・阿南 享（菊池市教育委員会）、中原 康文（菊池市堀切地区）、高木 謙二（山鹿市米原地区）、山口 健剛（元山鹿市教育委員会、現山鹿市商工観光課）、宮崎 歩・佐治 建一・牛島 桃子（山鹿市教育委員会）、長谷部 善一・矢野 裕介・木村 龍生、花田 杜綺、藤森 あやの（熊本県文化課）、坂口 圭太郎・村上 光浩（熊本県立装飾古墳館）

第３節　調査の過程

第１項　第３５次調査

第 35 次発掘調査は、第 16 次調査（平成 6 年度：1994 年）で実施した 2 段目の壁面の実測図を完成させることを主目的として、令和 3 年（2021 年）1 月 14 日（木）から令和 3 年（2021 年）3 月 30 日（火）まで実施した。

まず、第 16 次調査で実施した 2 段目の壁面と 2 段目のテラス部分及び、第 28 次調査（平成 18 年度：2006 年）で実施した 28 次－ 6 トレンチの再発掘を行った。次に既存の調査で版築土塁の基底面まで確認されていなかったため、土塁の構造･築造技術の確認を行うため、必要最小限度の部分的トレンチ（35 次－ 1Tr ～ 35 次－ 4Tr）を設定･掘削を行った。

1 月 14 日（木）2 段目の壁面清掃及び 2 段目のテラス部分の 16 次トレンチの再発掘を開始。

1 月 15 日（金）～ 29 日（金）35 次－ 1,2 トレンチの掘削を実施した。

2 月　3 日（水）～ 25 日（木）35 次－ 3 トレンチの掘削を実施　南側の掘削で阿蘇溶結凝灰岩が土壌化した白色粘質土が主体となる土坑状不明遺構の掘り込みを確認した。また、両拳大の安山岩を主体とする河原石を敷き詰めた登城道と推定される遺構を再確認した。

2 月　3 日（水）～ 3 月 30 日（火）35 次－ 1 ～ 3 トレンチの平面図、断面図の実測を（株）埋蔵文化財サポートシステムに委託した。

2 月 18 日（木）長谷義隆氏（天草市立御所浦白亜紀資料館館長）来跡、阿蘇溶結凝灰岩の風化土壌については、この地域の岩質は非溶結の軽石凝灰岩であり、軽石の大きさは、一般に径 5cm 以下で、時に 10cm 程度のものも認められる。露出面で風化を受けていなければ灰色で溶結はしていないが固結している。風化により灰白色化し、固結度は弱くなるとの説明を受ける。軸摺穴を有する唐居敷については、花崗岩巨礫の平坦な面には岩体の中の節理に晶出する珪酸鉱物（石英質）が認められることから、平面は加工によるものではなく、花崗岩の節理面で割れたものを利用しているとの見解を示された。

3 月　8 日（月）小畑弘己委員来跡、土坑状不明遺構（01-SX）の断面についてはさらに掘削をして柱穴か否かの確認が必要であることと、模式的な門と土塁及び整地層の復元図を作成して検討するように指導を受けた。

3 月　2 日（火）～ 30 日（火）35 次－ 3 トレンチ南側の更なる掘削により、3 段積の列石を確認。その断面から少なくとも 3 段階の埋設工程を確認した。更に南側の 28 次－ 6 トレンチの再発掘も行い、門周辺の遺構の存在を検証した。その結果、28 次－ 6 トレンチの断面からも土坑状の掘り込みを確認した。

3 月　4 日（木）宮縁育夫氏（熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター教授）来跡。

3 月 14 日（日）深迫門跡発掘調査現地説明会を実施した（参加者 84 名）。

3 月 22 日（月）小畑弘己委員来跡、土塁基底部の裾石列の検証のためにトレンチを東側と南側へ拡張し、地山まで掘削を行う必要があるとの助言を得た。

3 月 29 日（月）亀田修一委員来跡、35 次－ 3 トレンチで確認された 3 段積の列石は城門の一部の可能性が高い。次年度以降の調査において、この列石との繋がりを検証するために以前の調査トレンチを再発掘し、確認することが必要との助言を得た。

3 月 30 日（火）ヤマガ空撮による空中写真撮影次年度の発掘調査に向けての仮養生を行い、35 次調査の全作業を終了した。

第２項　第３６次調査

第 36 次発掘調査は、35 次－ 3 トレンチで確認された 3 段積の列石が付近で検出された土塁とどうつながり、構造や築造技術の違いがあるのか等の検証を主目的として、28 次－ 5 トレンチの再発掘を実施した。発掘作業は、令和 3 年（2021 年）6 月 5 日（土）から令和 3 年（2021 年）8 月 31 日（火）まで行った。

4 月 15 日（木）調査現場を動画により撮影し、小田富士雄委員長宅において調査概要を説明・指導を受ける。現地での確認が必要であるが、3 段積の列石は土塁の基底石の可能性が高いとの指摘を受けた。

6 月　5 日（土）～ 7 月 29 日（木）28 次－ 5 トレンチの掘削を実施した。

7 月　6 日（火）～ 8 月 31 日（火）28 次－ 5,6 トレンチ平面図、断面図の実測を（株）埋蔵文化財サポートシステムに委託した。

7 月 26 日（月）佐藤副委員長来跡、門推定付近の 2 箇所の土坑状の掘り込み（01-SX ～ 05-SX）は排水目的ではないかとの指摘を受けた。

8 月　2 日（月）～ 31 日（火）酷暑の中、28 次－ 5 トレンチの掘削を実施した。

8 月　4 日（水）山尾敏孝委員来跡、両門隅に集水桝のような穴は、排水路の役目をしていた可能性がある。登城道と水路では目的が違うため、更に詳細な調査が必要との指導を受けた。

8 月 31 日（火）小畑弘己委員来跡、28 次－ 5 トレンチ南側での基底石や敷石上の石群の検出を目指すとともに、地山面までの各層中で炭化物を検出、収集して年代測定を実施するよう指導を受けた。ヤマガ空撮による空中写真撮影、熊本県文化課藤森　あきの氏・山鹿市教育委員会宮崎　歩・佐治　健一氏が来跡した。

＊令和 4 年（2022 年）1 月 12 日（水）、14 日（金）、19 日（水）、21 日（金）の 4 日間公益社団法人菊池市シルバー人材センターへ委託し、埋戻し作業を実施した。次年度、再発掘しやすいようにすべてのトレンチを土嚢袋で埋め戻した。

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境（図１・２）

鞠智城跡は、阿蘇外輪山麓から有明海へと西流する全長71kmを測る菊池川の中流域に所在する。菊池川の中流域には肥沃な菊鹿盆地が広がり、北東部には八方ヶ岳（標高1,052ｍ）がそびえる。鞠智城跡は筑肥山地の最高峰八方ヶ岳から南西に延びる丘陵の先端部に形成された「米原台地」と呼ばれる標高約145ｍの台地上に位置する。この米原台地の南側には菊鹿盆地が広がり、西側は初田川の浸食作用によってできた谷地形に面しているため、周辺の地形から独立した様相を呈している。そのため、標高は約145ｍと微高地ながらも周辺の眺望は開けており、南側は菊鹿盆地から遠くは熊本市、南西側は金峰山系から雲仙普賢岳、東側は阿蘇外輪山を望むことができる。西側約30kmには有明海が広がるが、その間を金峰山系に阻まれ、直接有明海を望むことはできない。また、北側には八方ヶ岳を主峰とする1,000ｍ級の山々からなる筑肥山地が横たわっており、地形的に鞠智城跡は北側の山々を背後として、南側を望むロケーションにあるといえる。なお、大宰府政庁から鞠智城跡までは南東の方向に直線距離で約62km離れている。

当該地域の基盤層は、菊池川流域の西～北側に位置する筑肥山地では筑後変成岩や花崗岩を基盤として鮮新世から更新世の火山岩類が覆い、標高200ｍ前後の丘陵には主にAso-4と呼ばれる阿蘇火砕流が堆積している。菊鹿盆地には砂礫や粘土で形成する沖積層が分布し、菊池川下流部には沖積平野（玉名平野）が広がっている。

鞠智城は、土塁線や崖線など地形を巧みに利用した外郭線によって囲繞され、その周長は約3.5kmに及ぶ。城内には迫地形を利用した３つの門跡が確認されている。

今回の第35次・36次調査を実施した深迫門跡は、鞠智城跡の南東に位置し、東西に延びる舌状丘陵から南東方向に開いた浅い谷地形に所在する。城域の南側に堀切門が所在し、その西側には狭隘な谷部が所在し、南側土塁線と西側土塁線の尾根状地形が切れる場所に池ノ尾門跡が所在する。この谷部は、鞠智城跡の中で最も低い位置にあり、標高は約90ｍをはかる。谷部の南西側には南側土塁線の尾根の斜面裾に沿って幅１ｍほどの小河川「塩井川」が流れ、北側には水路が流れる。北側の水路は谷の最狭部で塩井川と合流し、その後塩井川は西流し、池ノ尾門跡から約600ｍ先で内田川水系の初田川に注ぐ。塩井川が初田川に合流する地点には「大門」という地名が残っており、鞠智城に関連する地名であると考えられている。塩井川に沿って現在、市道下本分・堀切線が通っており、池ノ尾門跡が所在する谷の北側斜面裾を通り、鞠智城内へと至る。大門から池ノ尾門跡までは狭隘な谷地形が続くが、池ノ尾門跡を通り城内に入ると、米原台地と南側土塁線の尾根に囲まれた盆地状地形が広がる。

第２節　歴史的環境（図１）

鞠智城跡が所在する地域には数多くの遺跡が残されている。ここでは、鞠智城跡と関わりの深い遺跡を中心に概観する。

鞠智城跡周辺の古代の遺跡としては、竹ノ上原遺跡、十蓮寺跡、西寺遺跡（菊池市）御宇田遺跡群（山鹿市）、うてな（台）遺跡、上鶴頭遺跡などがある（第１図）。

竹ノ上原遺跡は、鞠智城に隣接する袈裟尾に所在する。奈良時代から平安時代を中心とする集落である。竪穴建物のほか、掘立柱建物も確認され、７世紀後半～末の土器が出土することから、当該期の集落跡と考えられる。鞠智城の築造に関わる集落である可能性が考えられる。製塩土器の破片と思われる遺物も出土している。

十連寺跡は、鞠智城跡から真南に約2.5km離れた台（うてな）台地の南側斜面に位置する。これまでの踏査や1965年に実施された発掘調査によって、奈良時代中期の鴻臚館式瓦の特徴をもつ軒丸瓦２種、軒平瓦２種が確認されており、菊池郡家に付属する菊池郡寺と考えられている。また、伽藍配置は、古代肥後国のほかの郡寺と同様に法起寺式と想定される。

西寺遺跡は、鞠智城跡から真南に約4km離れた菊池川右岸の菊池平野部に位置する。遺跡が所在する西寺地区の北側と西側には、幅５～６ｍ、高さ1.5ｍの土塁が確認されている。また、南西約300ｍに位置する南園地区からは８世紀末～９世紀初頭の多量の布目瓦が出土しており、この周辺一帯を菊池郡家に比定する説もある。

赤星石道遺跡は、鞠智城跡から約5km南側に位置する。３間×３間の総柱建物３棟、２×３間の総柱建物、２間×３間以上の東西棟３棟以上、３間×４間以上の南北棟等が検出されている。金属器模倣型杯、墨書土器（「伝麻呂」）、耳杯形土器、緑釉陶器、越州窯青磁などが出土した。当該地域の開発や経営に関わった有力者が居住していた官衙的機能を持つものと推定される。

御宇田遺跡群は、鞠智城跡の西側約4.5kmの御宇田台地上に位置する。昭和60～61年にかけて発掘調査が実施され、そのうち妙見第Ⅱ区の調査では８世紀～９世紀のものと考えられる３間×５間の庇付き建物などの掘立柱建物群が中

央広場を挟んで規則的に配列されて検出された。また、石製巡方や円面硯など官衙遺跡から出土することが多いとされる遺物や、越州窯青磁などの当時貴重とされた貿易陶磁器などが出土しており、山鹿郡家であった可能性も指摘されている。

うてな（台）遺跡は、鞠智城跡の南西 2.5kmの台（うてな）台地西側端部に位置する。これまで 3 次にわたる調査が実施されており、七ツ枝Ⅱ区からは 8 世紀後半～ 9 世紀前半の規則的な配置をする掘立柱建物群が検出された。また、三彩片や銅椀片、墨書土器などが出土しており、官衙に関連する遺跡ではないかと考えられている。

上鶴頭遺跡は、鞠智城跡の南西約 6.5kmの洪積台地上に位置する。昭和 57 年に調査が実施され、30 m四方の中央広場を囲むように 9 世紀前半を中心とする 16 棟の庇付き大型建物跡が検出された。また、「正」「西正」等の文字が書かれた墨書土器が 20 数点出土しており、官衙に関連する遺跡ではないかと考えられている。

このほか、菊池川流域や内田川流域には、大規模な条里の地割りが遺存している。また、台台地には延喜式以前の「車路」が南北に走り官道として利用されたと考えられる。そのルートは、大水駅（熊本県玉名郡南関町）から御宇田遺跡群を通って、台（うてな）台地に至り、そこを斜めに通過しながら西寺遺跡に至るものである。官道は、西寺遺跡からさらに南東へ進み、花房台地で肥後国府方面へと通じるルートと阿蘇を経由して豊前、日向の国府へと通じるルートと分岐する。

鞠智城跡の周辺には、古墳時代後期の古墳も多く見られる。石人が出土している全長約 65m の前方後円墳で木柑子フタツカサン古墳や木柑子高塚古墳が菊池川右岸に分布している。

鞠智城の東側には、黄金塚古墳が西側には尾迫古墳等の横穴式石室を主体部に持つ古墳が分布し、西側には、陣の内古墳、徳塚古墳等巨石を使った横穴式石室を主体部に持つ古墳が分布している。木野川や上内田川が造る段丘上や扇状地に勢力を持つ人々によって古墳が築造されていると推定でき、鞠智城の造営に携わった集団の祖先の墓とも考えられる。

また城の周辺には横穴墓群が点在する。南側には、ヒジュウ谷横穴群・大井樋横穴群・大井樋谷横穴群・山田横穴群が分布し、南西側には、8 世紀代にも追葬がなされていることが判明している瀬戸内横穴群が分布している。西側にはスズメ迫横穴群が分布している。鞠智城造営には、そうした造墓をした勢力が関わった可能性も考えられる。

なお、鞠智城跡の地理的、歴史的環境については、これまで刊行された鞠智城跡の発掘調査報告書でも詳しく述べられているので、併せて参照いただきたい。

第３章　調査の方法と成果

第１節 調査の方法

第16次調査で確認されたトレンチ北東壁にあっては土塁の基底部まで掘削が及んでおらず版築や積土の確認が十分になされていなかったため、トレンチを再発掘し土層堆積を観察、断面図を作成し、当該門跡と両側に繋がる土塁等の構造を解明することを目的に発掘調査を実施した。

現況では切土して段々畑に利用されていたため土層堆積の確認にあたっては、壁面を5cm程度削り断面を確認した。壁面を緑のネットの土嚢袋等により養生していた部分については除去し、壁面を5cm程削り壁面の観察を行った。また、調査中は断面が乾燥しないよう、適宜、水を散布しながら確認を行い、地山や自然堆積層と人為的な積土の状態を観察しながら分層を行なった。

また、土層断面は、フルサイズのデジタルカメラ（NIKOND610）を用い、一部中判（MamiyaRB67Z:6 × 7 インチ:ブローニー版）での記録を行った。

断面図の記録作成は、（株）埋蔵文化財サポートシステムに委託した。一部をTOPCONにより実測し、35トレンチ下層や28 － 5トレンチ東壁の一部については、SONYミラーレス一眼カメラ α 6000で、近接した場所はiphone等で撮影して3D計測図化したものをトレースし、一部を手実測により補正した。

16次調査で確認されたトレンチの北東壁の断面については、壁面より1m手前に一部トレンチを設定し、版築盛土と土塁の構造を確認した。

35-1トレンチでは地山まで削平されていたが、地山の傾斜や堆積の状況を調べるために、また、35-2トレンチでは階段状に整形された地形を丘陵の傾斜に合わせて幅50cm程のトレンチを設定し、段構造の確認を行った。28-3トレンチについては、平面図の作成が未了であったことから、精査を行ったうえで写真撮影、断面図を作成した。28-5トレンチについては平面図作成と土塁構造の記録を主とし、下層への掘削による確認は行っていない。

28-3トレンチについては、土塁の版築の状況がわかるような図面を南側と西側を中心に、断面図の基準線を設定し直し作成した。記録写真は、フルサイズのデジタルカメラ（NIKOND610）の他、中判（MamiyaRB67Z: 6 × 7 インチ;ブローニー版）とAPSサイズのセンサーを持つデジタルカメラNIKOND3200で撮影した。

調査状況については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から鞠智城跡保存整備検討委員会が書面での開催となったため、委員全体による現地指導の機会が設定できなかった。そのため第35次調査では、小畑 弘己熊本大学大学院教授・亀田 修一岡山理科大学教授に考古学の立場から専門的指導を仰ぎ、第36次調査においては佐藤 信くまもと文学歴史館館長（東京大学名誉教授：日本古代史）、山尾 敏孝熊本大学名誉教授（土木工学）に現地での指導をお願いした。

なお、実測図を作成した後、土嚢袋により簡易に埋め戻し作業を行った。35トレンチ断面については、乾燥を防ぐため、シートにより養生を行っている。

第２節　深迫門跡におけるこれまでの調査概要（図３）

深迫門跡の調査は、これまで第1・2次調査（1967年度）と第3次調査（1968年度）第16次調査（平成6年度）、第28次調査の5次にわたって実施されている。

第１項　第１～２次調査の概要（1967年度）（図３・４）

第1次調査では、周辺の測量（1/200）と、唐居敷の測量調査並びに埋没している唐居敷の探索が行われた。石材は花崗岩（地元では「コメ石」という。）、長径2.68m、短径2.26m, 厚さ約80cm以上を測ることが確認された。上面は加工痕跡が見られないが平滑で、軸摺穴は一方に偏る。その規格は短径18cm、長径20cmのほぼ円形で、穴の深さは約14cmで2段に穿たれ、その形状は同心円ではなく偏りが認められ、孔の内部も西側の面の磨滅が強いことが確認された。このことから内側に開く門構造であると推定される。この唐居敷は根石が除去され動いているものの、反対側から持ち起こされたことによる傾斜がある程度と判断され、原位置に近いと推定された。

第２項　第３次調査（1968年度）

第3次調査では、唐居敷の軸受け穴の中心から5.8m西側で集石が検出され、唐居敷の根石と判断された。唐居敷の北側上部に幅約2.8mの深さ50cm程度の凹字状の平坦面を検出、道路遺構の可能性を指摘している。また、径45cm ～ 50cm、深さ55cm ～ 100cm以上のピットを2基（柱間距離3.3m）検出している。

第３項　第 16 次調査（1994 年度）

第 16 次調査では、現況で段々畑になっている部分の壁面での断面調査と、平面的に鞠智城時代の遺構面の検出を行なっている。

（1）登城道　（図 21、写 3）

2 段目の部分で拳大の礫による集石状の遺構を検出した（第 16 次調査図 21）が、これは後世に登城道の路面の石が集められたものと推定された。また、その下部（南東側の下がっている部分）に溝状の痕跡と長軸 50cm 程度の楕円形の掘り込みが 50cm 程度の間隔で 8 基以上検出され「波板状圧痕」と考えられる遺構の存在から第 16 次発掘調査の報告者により登城道である可能性が指摘された。

第 16 次調査報告書 P16 第 13 図上の 3 段目の断面の 11 から右側 12（図 6 参照）にかけての土層断面から、版築の上に堆積した土が窪み部に堆積していると考えられ、土塁が構築された後のものであることがわかる。第 16 次報告書調査第 12 図の 4 段目（図 7 参照）からは、版築が北側に向かって傾斜する堆積層の上を切って窪みが形成されているように見えることから新しい時期に使用された登城道と推察できる。

それに対して南側の窪みは、第 16 次調査報告書の第 12 図の 4 段目断面 18-19（図 7 参照）の両側に明らかにほぼ水平で層厚が 5cm ～ 20cm の丁寧な別の版築盛土が見られることからそれより古い時期の登城道と考えられる。

（2）土塁 (図３・６～８、写 18)

版築の仕方は箇所ごとに違いが見られることが、断面の観察から判明した。

①　門北側の土塁

3 段目の北側土塁部分で丁寧な版築を検出した。基底部近くに茶褐色土を強く叩きしめた層を検出しており、叩きしめの状況から土塁の基底部を形成する層と判断された。

また、第 16 次調査報告第 13 図の版築（図 8 参照）について観察を行なった。東西方向に切られた断面観察ではあるが、5cm ～ 10cm の丁寧な版築が確認された。凝灰岩の風化した下層の土のため、強度を増すために版築技法が採用されたと考えられる。土色は、茶白色、灰茶色･橙褐色、黒茶色など多色に及ぶものである。また、樹痕のように見える断面で縦方向のラインは地震によるズレの可能性もあることを示唆している。

4 段目は、凝灰岩の岩肌に取り付くように、オリーブ色を基準として全体的にまだら文様が混じる積土が見られる。

以上のように、第 16 次調査 2 段目第 11・12 図等の土層から版築の傾斜角度や厚みも場所によって異なることから場所ごとの違いが見られた。

②　門南側の土塁

断面では 3 段目の断面では約 60cm の厚さで、黒色と茶色の粘質土を基調とした層厚約 5cm ～ 10cm の版築による積土が観察された。4 段目の断面の南側（山側）では黒色と灰色の完全な版築で、北側（通路側）では茶色の粘質土による谷に向かって傾斜する積土が確認されている。

（3）土塁築造関連の遺構 (柱列)

検出した平面的な遺構としては門南側の土塁において、4 段目で方形の一辺 0.8m ～ 1.1m 程の掘り方を持つ柱間が 1.8m（6 尺）の柱列を検出している。版築土塁の中から検出された集石は、登城道もしくは、土塁の基底部に敷いたものか登城道関連のものと考えられる。

また、4 段目には長軸 2.3m ～ 3.5m の土坑が 4 基検出されている。現況では、谷の狭い部分からは大きく開く地形であるが、新しい段階の登城道からすると土塁が構築されていれば、位置的には、門がある可能性がある地点で、門の柱を受ける礎石や唐居敷を据えた痕跡の可能性もあると考えられることから詳細な検討がなされた。

（4）唐居敷（門礎石）関連の遺構

第 3 次調査で門礎石の地業穴とされた SK01 は、壁面がオーバーハングして輪郭がはっきりせず、埋土も版築ではなかったため、地業穴とは考えにくい。

SK02 は埋土から近世、SK03 も底面・形状が不明確・SK04 は下から深さは 20cm ～ 30cm で石列が出る等、いずれも根石や人為的に埋められた痕跡とは考えられない。門礎石や唐居敷が据えられた穴とは考えられないことから、門の位置は今回調査された位置より上方にある可能性が示唆された。

（5）深迫門築造及び機能の時期について

深迫門周辺から出土している土器は、7 世紀後半の外は、中世・近世以降の土器であることから、鞠智築第Ⅰ期に築造された可能性が高い。

第４項　第 28 次調査（2006 年度）

第 28 次調査は、第 16 次調査を受けて登城道の確認と、集石の機能の確認、土塁の版築の範囲や構造の確認などを目的に実施した。結果として土塁構造の確認にとどまっている。

（1）門南側の土塁 (図３・9)

28-3, 8 トレンチでは、安山岩系の集石（20cm ～ 30cm 大）が土塁前面に幅 1.2m の範囲で谷側に 16° 傾斜して敷かれている状況や土塁下部に基底石（30cm ～ 50cm）を並べている状況が確認された。図面の観察からは、石敷きが基底石の下部に潜っている状況がみられることから、石敷きを敷設した後に版築を行なって土塁を造成していると考えられる。

また、周辺の精査により、基底石前面に柱列が 1.8m の間隔で 7 基並ぶことや、柱の掘り方には石敷きが確認されず石敷きは土塁構築に伴うものではあるが石敷きを敷設後に堰板留めの柱穴が掘削されたことが判明した。

（2） 門北側の土塁（図 10、写 19・20）

28-2 トレンチにより北側土塁上部に黒褐色土を中心とする版築を確認し、28-4, 5 トレンチにより基底石及び土塁前面に幅約 80cm の石敷き、また柱穴も検出したが、やはり南側土塁と同様に掘り方の部分に石敷きは見られなかった。石敷きの敷設の高さは、南側土塁と異なり、基底石よりやや高い。基底石を置いて整地してから石敷きを敷設していると考えられる。また石敷きは南側土塁に比べて平坦に敷設されている。

第３節　令和２・３年度（2020・2021 年度）調査の概要（第７・12・13・19 ～ 23 図）

第１項　目的と方法

深迫門跡のこれまでの調査で不明確であった尾根上部から登城道付近までの土塁構造と登城道の時期的変遷等を解明することを目的に実施した。

深迫門跡の推定地に近い第 28 次調査北西壁断面について再検証し、土塁の構造を解明するため、西壁面の再調査と併せて土塁基底部の確認も行なった。

第２項　基本土層

表層地質図によると凝灰岩阿蘇火砕流堆積物（ASO-4）を基盤とする区域である。

基本土層は地山と考えられる北側部分の堆積は、北側から谷部にかけて傾斜を持って堆積している。南側の断面も同様な堆積と考えられる。しかしながら、版築や積土から見てⅡ層上部に褐色系から黄褐色系の土が存在していたと考えられるが、その基本土層が上部まで観察できる地点はない。35 トレンチ上層（図 14）と地山に幅 50cm, 深さ 40cm で設定した 35-1 トレンチ（図 13）を参考に記述する。

Ⅰ層：表土層
Ⅱ層：黒褐色ブロック土（Hue10YR3/2　35 トレンチ上層土層断面 E）
Ⅱ‘層：明黒褐色ブロック土（Hue10YR3/3 同 A）
Ⅲ層：黄褐色粘質土（同 h）
Ⅲ‘層：明褐色ブロック土　(Hue5YR 3/6)　粘土質
Ⅲ”層：灰白色粘質土　(Hue10YR 4/3)
Ⅳ層：灰白色シルト層　(Hue10YR 4/3)

第３項　門跡周辺における土塁構造の調査（35 トレンチの調査）

１　門北側の土塁（図 12・14・15・16・17, 写 1）

（1）35 トレンチ上層（16 次調査北西壁面）(図 11・12・13・14,)

第 16 次調査の 2 段目の北西側壁面の再調査を行なった。版築を含めた積土が地山を階段状に加工して積土及び版築を施し、谷部を狭めている断面を検出している（図 14)。黒褐色の地山と推定した斜面堆積層（①層）の下部に、35-2 トレンチからも幅 30cm 程度 3 段以上の平坦面を造っていることが平面的にも確認でき、地山を改変して、階段状に整形したものと考えられる（図 12)。また、上部は削平していることからさらにその上部の断面観察から 6 段以上段を造成していることが観察できる（図 14)。

地形に沿ったトレンチでは、3 段しか確認できていないが山側上部及び谷部に近い部分では 20cm 未満の幅で段が形成されていた可能性が看取される。

この上層は、土塁側の積土と谷側の積土は異なる。前後関係については、当該地点が斜面であり直行する断面

が段々畑と壁際のトレンチで途切れていることから、明確な土層のつながり・対応関係は断定できない（図 12）。

山側は、白色砂質土（粘土混）（Hue5YR3/2）（35 トレンチ上層 c 層）がメルクマールになる。基本土層Ⅳ層に対応する層を中心とする積土である。明褐色ブロック土（Hue5YR 3/6） 粘土質（d 層）と併せて山側への最初の積土なる。（②範囲）地山（①範囲）に併せて傾斜を持つのが特徴である。

山側ではさらに上部に a 層から 21 ～ 25 層までの積土（③範囲）が施される。

その内側に黄色褐色を若干含む褐色系の積土 10 層から 20’層の範囲（④範囲）、またイと表示している亀裂のような縦に入る層があり、樹痕若しくは地震によるクラックかもしれないが、その内側に 35 層～ 40 層の範囲（④‘層がある。）この層は、固くしまった層ではあるが、水平に版築された土層は観察できない。この④’層の上面には、第 16 次調査時に検出された登城道に伴う 20cm ～ 30cm の丸石が集積した面が存在する。④‘層は、黒褐色土のブロックを 30% 程含む層である。⑤層は、時期の検討は必要であるが、黒色粒のブロックを含むブロック土を中心に積土をしている。

さらに、その上に黒褐色の粘質土が堆積している（⑥）。この層から、黒色土器片が出土している。

第 16 次調査で検出された集石の間から凸面は丁寧にナデ調整をしているが、凹面に模骨痕跡を残す瓦片が出土している。

（2） 35-２トレンチ（図 12・13・15）

白色の凝灰岩の風化した砂質土を含む褐色と黒褐色の粘質土による 5cm 程の厚さの版築土である。黒褐色土が階段状に削り出されるのが観察できる。トレンチを入れた最下層には白色の砂質土（凝灰岩の風化した砂質土）の下は黒褐色粘質土でそこまで掘削して、下層は確認していない。35-3 トレンチの A 層に対応する。

（3）35-3 トレンチ（図 12・16・17、写４・５・６・7）

35-3 トレンチは、35 トレンチ上層の壁面で観察された段差のある地形の傾斜を確認するために黒褐色土を追って掘削した。地形に沿ってセクションを残すために、掘削する部分は 35-2 トレンチからセクション幅で約 80cm 離れている。

第 16 次調査で確認された版築面の基底部の構造を確認するために掘削を行なった。

35-3 トレンチの上面は、第 16 次調査で検出された黄褐色土を含む褐色粘質土を基調に厚さ 10cm 程を単位として積まれた、やや谷側に向かって傾斜を持つ層厚 60cm 程の版築である（図 16・17 の A)。その下層は、5cm 程の厚みを単位とした白色混じりの褐色土と暗褐色粘質土の非常にしまった版築である（図 16・17 の B)。谷側は、白色の砂質土（凝灰岩の風化土壌を多く含む）と褐色シルトを 5cm ～ 10cm の単位で積み重ねた層である。締まりが弱く、堆積も波打っている。東壁は一部に崩落している状況がみられる（図 16・17 の C）（01-SX)。その層を支えているのが土塁状に積土された版築盛土である。この基部には、谷側に向けて花崗岩と安山岩を用いた 3 段の石積みが積まれている。最上部の石材は花崗岩で長軸の長さは約 60cm である（写真 6・7)。背後（山側）には黄色粘質土がみられるが掘り方は観察できない。版築などの積土の可能性も考えられる。

その積石を積石最上部から高さ 30cm、基底部の石から 60cm の高さで隠すように白色砂質土と褐色シルト層を 5cm ～ 30cm の単位で台形状に積土されている（図 16・17 の F；図 16・17a ～ d、101’から 103)。

その上層にも同様に 60cm 程の高さの台形状の積土（図 16・17 の G；図 16・17 の 78 ～ 99・102）がなされている。それを起点として両側に図 14,15 図の D･E の積土がなされている。山側の D 層は、D1 層（図 17 の 78 から 83）は、5cm ～ 10cm の単位で白色混じりの褐色粘質土と褐色粘質土をほぼ水平に、D2 層（図 17 の 84 から 88）は白色混じりの褐色粘質土と暗褐色粘質土を 5cm ～ 20cm 単位とする水平な版築が観察できる。

土塁上の積土（F・G 層）との層境には、樹痕状に縦位に間層が観察できる。平面的には、トレンチに直交してトレンチの幅で検出できる。また、南側の土塁へ向かうところの谷底付近には、白色が混じる褐色粘質土と暗褐色粘質土の版築である（図 16・17 の H(401 ～ 410)）がある。D 層にも類似する。

C 層との層界にも樹痕状の縦位の間層が観察できる。平面は土坑状の境界として観察できる。

2 門南側の土塁

（1） 28-6(35-4) トレンチ（図 12・18・19、写８・９）

門南側の土塁の版築は、凝灰岩の白色砂質土の地山（基本土層Ⅳ層）を直に切り出して行っている。図 16・17 の暗褐色粘質土系の 5cm ～ 10cm の厚みの 0a 層～ 1 層（⑥層）、の褐色粘質土系の 5cm ～ 10cm の厚みの 2 層～ 4 層の⑦‘層、黄白色系の土を含みながら、暗褐色系の粘質土と褐色系の粘質土を 5cm ～ 10cm の厚みで丁寧な締まりのある版築が観察できる。

また、その土塁のトレンチの底面は、凝灰岩の白色砂質土の地山をベースとするものであるが褐色土がわずかに混入しており、20cm 程の厚さの版築を構成している可能性が高い。

3　門周辺で検出した遺構

（1）　35-3 トレンチ（図 12・15・16・17、写 6・7）

①01-SX(図 12・16・17)

土塁の項で記述しているが、図 14,15 の C 層の断面の解釈について述べておく。山側に A・B 層の締まった版築があり、谷側には H 層の締まった版築が認められるが C 層の締まりはやや弱い。

平面プランでは、土坑及び溝状にも検出できる。位置的には門推定地の範囲にあるため、谷を狭めるための造成土とも考えられるが、土坑の可能性も考えられる。仮に 01-SX と呼称しておく。

土坑とするとやや不定形の長軸約 1.6m、深さ 1.0m 程の規模と考えられる。

（2）　28-6(35-4) トレンチ（図 18・19、写 8・9）

断面では 3 基の土坑ないし、造成土が重なっている状況である。

①02-SK

02-SK は、トレンチ東側のみで断面が観察できる（土層①）。断面にかかっている部分の幅は約 2.0m で、トレンチの幅が約 1m であることから、長軸は 2m 以上で東側に伸び、深さが 1.2m 以上の土坑と考えられる。

②03-SX

03-SX は､東側の断面の②層に相当する。③層が埋土であれば長さ 3.2m 以上で深さ 60 ～ 80m の規模になるが、土層のつながりが追えないため、2m 程度で深さ 60cm 以上 80cm までの土坑である可能性も考えられる。

③04-SX

トレンチ西側及び東側で断面が観察できる 03-SX の下層に見られるものである。土層②’層、④・⑤層がそれに対応する。形状等から 03-SX とは別遺構と判断した。②層は水平に層厚 5cm ～ 15cm で丁寧に積まれている。④層は、黄褐色粘質土を落とし込み埋め込んでおり、いずれも固くしまる。

肩部の立ち上がりは、ほぼ直であり、長さは 2m 以上で上層は深さ約 80cm、下層までは深さ約 1.4m である。下層は埋め込み、上層は積む。版築の内側を狭めるための造成土の可能性もある。

④05-SX

西側断面の 04-SX の外側に見える輪郭の掘り込み、もしくは造成土である。深さ約 1.6m、長さ 3m 以上の造成土の可能性がある。底面は、門南側の土塁下層の白色シルト層と考えられる。

（3）　３５トレンチ上層で検出した遺構

①集石遺構 (第 16 次調査集石①) （図 21、写 3）

第 16 次調査で登城道の上層で、崩れて集まってきたと推定された集石を検出した。後述するが、28-5 トレンチの南側よりの上層で丸石が集まった状態を検出した。

再発掘のために石を集めた可能性もあるが、原位置を保っているものも確認できている。

第 16 次調査の成果によると、図 16・17 に見られる集石はこの辺りのみであり、周辺に散らばっていたようである。そのことから登城道に使用された石が集められたものと推定している。

検出された集石は、10cm ～ 25cm の丸石で、迫間川など近辺で採取できる河原石と考えられる。

集石の下部（南東側の下がっている部分）に一部溝状の痕跡と長軸 50cm 程度の楕円形の掘り込みが 50cm 程度の間隔で 8 基以上検出されている。「波板状圧痕」と考えられ、登城道に伴う遺構であると推定されている。

集石の並びを観察すると､南西方向から北東方向 (B-B’) に列が揃っている。標高約 126.6m にほぼ水平に並び、下層の登城道推定方向に直交する。断面の A-A’もほぼ標高約 126.6m で、水平に集石が並ぶ。

西側断面に顕著に集石がかかっていないことや第 16 次調査で谷側に少ししか続いていないが、今回の観察から意図的に置かれた可能性を指摘しておきたい。

第４項　３段目で検出した土塁（28-5 トレンチの調査）

１　２８－５トレンチの調査（図 20・22・23・24、写 10 ～ 18）

（1）　門北側の土塁

第 28 次調査で柱穴､土塁を検出している (図 21)。土塁の傾斜は､トレンチまでが 70° 以上､上部では 60° である。高さは約 2.4m である。

この段には、第16次調査で3段目（図3の13）の典型的に5cm程度の黄褐色粘質土と白色砂質土を重ねて版築した土塁断面が観察できる。それに対してこのトレンチの土塁は、黒褐色粘質土を中心とし、黄色粘質土を少し混ぜた土を版築する良くしまったものである（図21 の1～29層）。

土塁の前面で検出された柱穴の掘り方は（図22）、第28次調査時に掘削されており不明な点があるが、土塁前面に被覆した上の面（図22の21層）から掘削された可能性が高い。

同様に北側土塁でも（図10）に示すように北側土塁に設定した。28-4トレンチで基底石の前面のやや高い位置に整地して敷石が施されていることが確認できている。

今回の28-5トレンチでは、柱列（06-SA）のうち、P-01で柱の堀方は推定約1m程であろう。柱の長さは、1.2m以上で掘り方の深さは、まだ底面を出していないため不明である。

東への拡張トレンチで柱間距離推定2.4m～2.5mで掘り方約80cmのP-02を再検出した。

柱痕跡と推定できる部分を検出している。約35cmである。（今回は埋め戻した埋土を再発掘していない。）

28-5トレンチでは、柱穴があるために土塁基底部までの北側土塁前面の敷石全体を確認するためのサブトレンチを入れておらず、基底石は確認できていない。

土塁前面には、15cm～40cmの凝灰岩系の角礫を中心とした敷石（07-SX）が検出されている。

土塁前面に被覆した土（（図23の20層～44層）は、土塁の「保護盛土」（外皮盛土）と考えられる。北側土塁の東側保護盛土と考えられる土層の観察は難しい。

西側の土層は、版築のための堰板を支える柱穴が検出された。また、北側で上層から検出できる柱痕跡を持つ柱掘り方を検出している。痕跡（28-5区拡張区）を見つけたことから、基礎盛土は、削平されている上面まで45°～30°で谷側に向かって傾斜を持って積まれていると考えられる。特に南側の盛土はU字状に堆積している。土層の単位はU字状の窪みが埋められている。

古い整地面には、34層の褐色粘質土がみられ、水平に整地されている面が見られる。

U字状の窪みについては、土嚢状に土を積んだ痕跡を示すものと考えるA案と、窪みを通路に利用したとするB案などが考えられる。B案とした場合は、硬化面が明瞭ではないことから硬化面がなかなか形成されにくい要因、土壌の性質などを考慮する必要がある。

東側の壁の観察では、基礎盛土は6層～9層では明瞭であるが、上位までの基礎盛土にかかる土層堆積を観察するのは難しかった。

敢えて上までの基礎盛土のラインを検討するなら、▲の部分にラインを推定して上層にあげるラインが想定されるが、再度検討が必要である。また、図24の30層から34層を通り40層へ行くような盛土ラインも可能性として考えられるが明確ではない。北側の堆積については、谷側からも埋められていることから、その堆積の意味を考える必要があろう。

1つには積み方の問題があろうが､門南側の土塁はそのような積土が見られない。幅は実質1～1.2m程度であり、道であれば管理用道路程度、また排水溝等であれば流水を示す痕跡が顕著でなければならないたため、積土の痕跡の可能性も考えられる。

（2） 門南側の土塁

28-5トレンチでは、南側の土塁を検出している。5cm～10cmの暗褐色粘質土をベースに黄褐色や白色砂質土が混入する土を版築している。高さ1mで角度は60°である。

土塁前面には、図23の79層～101層はいわゆる「保護盛土」（「外皮盛土」）と考えられる。谷側に向かって15°程傾斜して堆積しているが、3～4回の大きな単位で積んでいるものと考えられる。

西側の断面では、図23の79層から83層は黄色系粘質土で窪みに積んでいると考えられる。

門南側の土塁の前面には、図9の第28次調査の28-3,8トレンチの平面図・断面図が示すように土塁基底石の前面に16°ほど谷側に傾斜して敷石が検出されている。断面図から見ると石敷きの土塁側の石が基底石の下に潜っているように記録されている。石敷きをしてから土塁の基底石を据えて土塁を版築しているように見受けられる。

また、28-8トレンチでは、土塁前面の石敷や基底石の約30cm上に石の並びが確認でき幅約30cmの平坦面を持つ2段の版築が確認されている。

28-5トレンチの中央にやや深く掘ったトレンチの底、標高約123.9m付近で20～30cm程の凝灰岩系の角礫が3点並んで出土している（図20）。

このことから28-5トレンチでは上層での石列が検出されたと考えられ、下層には30cm程下に基底石が検出できる可能性がある。

ただ、そうすると土塁前面約 2.4m の幅があり、28-3・8 トレンチで検出した土塁前面の石敷きと同様な性格であるか検討する必要がある。

（3）登城道

硬化面や明確な「波板状圧痕」等の道の痕跡は検出できていないが、標高約 124m の所に幅約 50cm 程で深さ約 35cm の等間隔に連続する複数の溝の痕跡が確認されている。

また、前述したように東側の断面の上層では、20 ～ 30cm 程の円礫が数点検出されている。原位置から動いている可能性も高いが、35 トレンチ上層で検出した集石の続きとも考えられ、時期の特定は困難であるが、鞠智城の終わりもしくは、廃絶後の道路状遺構の可能性がある。

また、門北側の土塁の保護盛土のある段の上面、例えば　図 23 の 34 層や土層で窪んだ部分が道として利用された可能性もある。また、南側土塁では、下層のサブトレンチで検出した角礫等の上層が土塁造成のための作業道や石敷きの一部が登城道として利用された可能性も考えられる。

第４章　まとめと課題

第１節　土塁の規模と構造

第１項　規模

今回の調査で２段目の 35 上層トレンチで土塁の積土の再確認を行った。また、版築の基底部の構造を確認するために下層にトレンチを入れた。

その結果、標高 125.2m 付近で石積みが検出され、ボーリングステッキにより下層に石があることが確認できたために、サブトレンチを入れ、３段の石積を検出した。底面の高さが、標高 124.5m、35 トレンチの上層で積土が確認できる高さは標高約 129.5m である。その比高差約 5m であることで、高さ 5m の土塁が確認できたことになる。

また、現在、深迫門への案内看板が設置されている箇所付近の北側上方においても、木の根の間から互層に堆積する硬くしまった版築状の土層が目視できたことや、地形的に削平されていることが明らかである点を考慮すると推定であと 2m 以上高かった可能性がある。少なくとも 6m 以上の城壁があったことは確実であろうと推量される。

第２項　築造技術

深迫門跡の土塁は、３段目の黄色粘質土と白色砂質土の互層になった版築が代表的であるが、今回検出した土塁の版築は、脆弱な白色砂質土を強固にするためにその上層の黒褐色粘質土を使用して、黄色粘質土や白色砂質土を混ぜながら、固く締まった土塁を構築していたことが判明した（図 14 ～ 17 図）。このことは、利用される土質の特徴を生かして築造されていることを示唆するものである。

南側土塁では黒褐色を中心とした上層の版築の確認の他（図 18・19）白色土を中心とした下層の版築と推定できるものも検出できた。分析試料②の C14 年代測定年代が門周辺の版築の造成年代の推定につながると考えられ、鞠智城の創建年代を考える際の参考資料となろう。

門推定地の東側においてもトレンチより 6m 程下った北側と南側の土塁ではいずれも黒褐色粘質土を基調とする版築を確認した。

①　基底石と敷石

構築方法は、基底石を土塁版築の前段階に据えている。ただし、方向はきっちり並べているが隙間なく整然と並べている状況ではない。基準として置かれているような状況と考えられる。土塁前面には、門南側の土塁については敷石を土塁基底石が置かれる前に敷設している。一方、門北側の土塁では土塁基底石が敷石より下がっていることから　敷石が整地して敷設されていること等を考慮すれば一連の工程と考えられよう。

また､上部まで土塁を守るために盛土しているかは　門南側の土塁の 28-3,8 トレンチの断面では判然としない。北側でも 28-4 トレンチでは基部のみ保護盛土（外皮盛土）が施されているように観察できるが、一方で今回再調査した 28-5 トレンチでは、柱穴の掘り方は南側の土塁の堰板を支える柱穴（1m ～ 1.2m の規模）と比べて 70cm 程度と規模が小さく、掘削していることもあって基礎盛土から掘られた柱穴があるかは判然としなかった。柱穴が約 2.7m の距離で検出されており、柱の掘方と柱痕跡のように検出されていることから、保護（外皮）盛土から掘削された柱穴もあったものと考えられる。柱穴の規模が小さいことからある程度版築をしたらこまめに柱を打ち込んで堰板を横に渡して版築していた可能性も考えられよう。いずれにしても、門の南側と北側の土塁構築方法は基本的には共通するが、施工集団は違っていた可能性があろう。

第２節　門周辺の構造と土塁技術

今回 35 トレンチで検出した３段の石積みを土塁の基底石と考えるかについては議論があるが、上記に記した土塁とは石積の石の大きさが 60cm 以上と明らかに異なる。

また、３段に積んでおり幅は狭く、詳細は不明であるが整然と積まれたことが看取できる。

このことから明らかに丁寧であり、門周辺の地業と推定できる。

その工程を復元すれば、まず、石積を隠す土塁を構築して両側に版築を施す（１段階）。その後、山側は黒褐色粘質土と褐色粘質土の丁寧な 5cm から 10cm の版築を行なって（２段階）、その上に黒褐色系の粘質土（３段階）、ブロック状の塊土に黄色粘質土を張って（４段階）、階段状に黒色粘質ブロック土を削り谷に向けて傾斜を持った白色砂質土を張って積土する（５段階）という段階が推定される。

第３節　門推定地周辺の土坑状遺構の性格について

35-3，28-6 トレンチで検出された 01-SX は、非常に丁寧に埋めて版築しているが、外側の版築に比べて弱い。

03-SX は水平には埋められていないが、黄色粘質土等強度が高い粘質土を使って埋められている。門の幅を狭めるために行った地業とも考えられるが、丁寧な版築を行っておらず、掘り込みに見える。門周辺で「掘り込み地業」を行うものとすれば唐居敷がある。

唐居敷（長軸 2.68m、短軸 2.26m、厚さ約 0.8m ともう 1 つのセットとなる唐居敷）を据えるために深めに穴を掘って、整地するために埋めた積土と、門を改修や廃絶するにあたり唐居敷を谷側に移動するための抜き取り穴を埋めるために丁寧に積土された痕跡と解釈する案を提示したい。

また、35-3 トレンチの 01-SX については、門を狭めるための整地土で 28-6（34-4）トレンチの 02・03・04・05-SX を排水等のために掘られた穴と解釈することも可能と考えられる。

01-SX については、特に平面を広げるなどして土坑であるか、整地土であるか遺構の性格を明確化することで門構造に迫れるものと考えられる。

01-SX 内の埋土（分析試料③）の C14 年代測定年代では、2 つの年代幅を示している。1 つは、665 年から 708 年の幅で、鞠智城の年代に当てはめる 1 期から 2 期であり、創建期から修繕時期に当たる。2 つ目は、729 年から 775 年にあたり、3 期にあたる。

可能性として、当初の門を改修した可能性もある年代測定結果であることは付け加えたい。

第４節　登城道について

門を考えるには、登城道のルートが重要である。今回、28-5 トレンチの中央付近で清掃時に凝灰岩の角礫を検出した。これが門南側の土塁の前面の敷石であるかは別として、登城道に関わる地業の可能性も考えられようか。

土塁の前面に敷石をして作業道に使用されたと考えられるが、保護盛土をすれば敷石が隠れてしまう。その前面に門北側の土塁及び南側にルートを推定できる可能性があろう。28-5 トレンチ等土塁裾部にあるトレンチの断面についても再考する必要があろう。

付章　鞠智城跡第 35・36 次調査における放射性炭素年代（AMS 測定）

（株）加速器分析研究所

1　測定対象試料

鞠智城跡は熊本県北部の菊池川中流域、山鹿市と菊池市にまたがって所在する。第 36 次発掘調査の測定対象試料は、トレンチの壁面から採取された炭化物 3 点である（表 1）。

2　化学処理工程

(1) メス・ピンセットを使い、付着物を取り除く。

(2) 酸－アルカリ－酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 1mol/ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には「AAA」、1M 未満の場合は「AaA」と表 1 に記載する。

(3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO2）を発生させる。

(4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。

(5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。

(6) グラファイトを内径 1mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

3　測定方法

加速器をベースとした 14C-AMS 専用装置（NEC 社製）を使用し、14C の計数、13C 濃度（13C/12C）、14C 濃度（14C/12C）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx Ⅱ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

4　算出方法

(1) δ 13C は、試料炭素の 13C 濃度（13C/12C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（表 1）。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。

(2) 14C 年代（Libby Age:yrBP）は、過去の大気中 14C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期（5568 年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。14C 年代は δ 13C によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。14C 年代と誤差は、下 1 桁を丸めて 10 年単位で表示される。また、14C 年代の誤差（± 1 σ）は、試料の 14C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2％であることを意味する。

(3) pMC（percent Modern Carbon）は、標準現代炭素に対する試料炭素の 14C 濃度の割合である。pMC が小さい（14C が少ない）ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上（14C の量が標準現代炭素と同等以上）の場合 Modern とする。この値も δ 13C によって補正する必要があるため、補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。

(4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の 14C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の 14C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、14C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差（1 σ = 68.3％）あるいは 2 標準偏差（2 σ = 95.4％）で表示される。グラフの縦軸が 14C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、δ 13C 補正を行い、下 1 桁を丸めない 14C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal20 較正曲線（Reimer et al. 2020）を用い、OxCalv4.4 較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正年代については、特定の較正曲線、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表 2 に示した。暦年較正年代は、14C 年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」または「cal BP」という単位で表される。

5　測定結果

測定結果を表 1、2 に示す。

試料の 14C 年代は、カーボン①が 1610 ± 20yrBP、カーボン②が 1380 ± 20yrBP、カーボン③が 1310 ± 20yrBP である。暦年較正年代（1 σ）は、カーボン①が 419 ～ 532cal AD の間に 3 つの範囲、カーボン②が 645 ～ 662cal AD の範囲、カーボン③が 665 ～ 772cal AD の間に 2 つの範囲で示される。

試料の炭素含有率はいずれも 60％を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51(1), 337-360

Reimer, P.J. et al. 2020 The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP), Radiocarbon 62(4), 725-757

Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of 14C data, Radiocarbon 19(3), 355-363

表１　放射性炭素年代測定結果（δ ^{13}C 補正値）

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ ^{13}C (‰) (AMS)	δ ^{13}C 補正あり	
						Libby Age（yrBP）	pMC (%)
IAAA-211433	カーボン①	35-3Tr　南壁　登城道の直下層(25～30 ㎝下の層)	炭化物	AAA	**-24.30 ± 0.21**	**1,610 ± 20**	**81.81 ± 0.23**
IAAA-211434	カーボン②	35-4Tr　東壁　北断面　221 層	炭化物	AAA	**-25.40 ± 0.22**	**1,380 ± 20**	**84.19 ± 0.23**
IAAA-211435	カーボン③	35-3Tr　西壁　西断面　210 層	炭化物	AaA	**-26.41 ± 0.28**	**1,310 ± 20**	**84.93 ± 0.24**

[IAA 登録番号：#B015]

表２　放射性炭素年代測定結果（δ ^{13}C 未補正値、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代）

測定番号	δ ^{13}C 補正なし		暦年較正用(yrBP)	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-211433	1,600 ± 20	81.93 ± 0.22	1,612 ± 22	419calAD - 438calAD (20.5%) 463calAD - 477calAD (14.5%) 499calAD - 532calAD (33.3%)	416calAD - 538calAD (95.4%)
IAAA-211434	1,390 ± 20	84.12 ± 0.23	1,382 ± 22	645calAD - 662calAD (68.3%)	606calAD - 625calAD (9.6%) 636calAD - 671calAD (85.8%)
IAAA-211435	1,330 ± 20	84.69 ± 0.23	1,311 ± 22	665calAD - 685calAD (28.2%) 744calAD - 772calAD (40.1%)	658calAD - 708calAD (48.2%) 729calAD - 775calAD (47.3%)

［参考値］

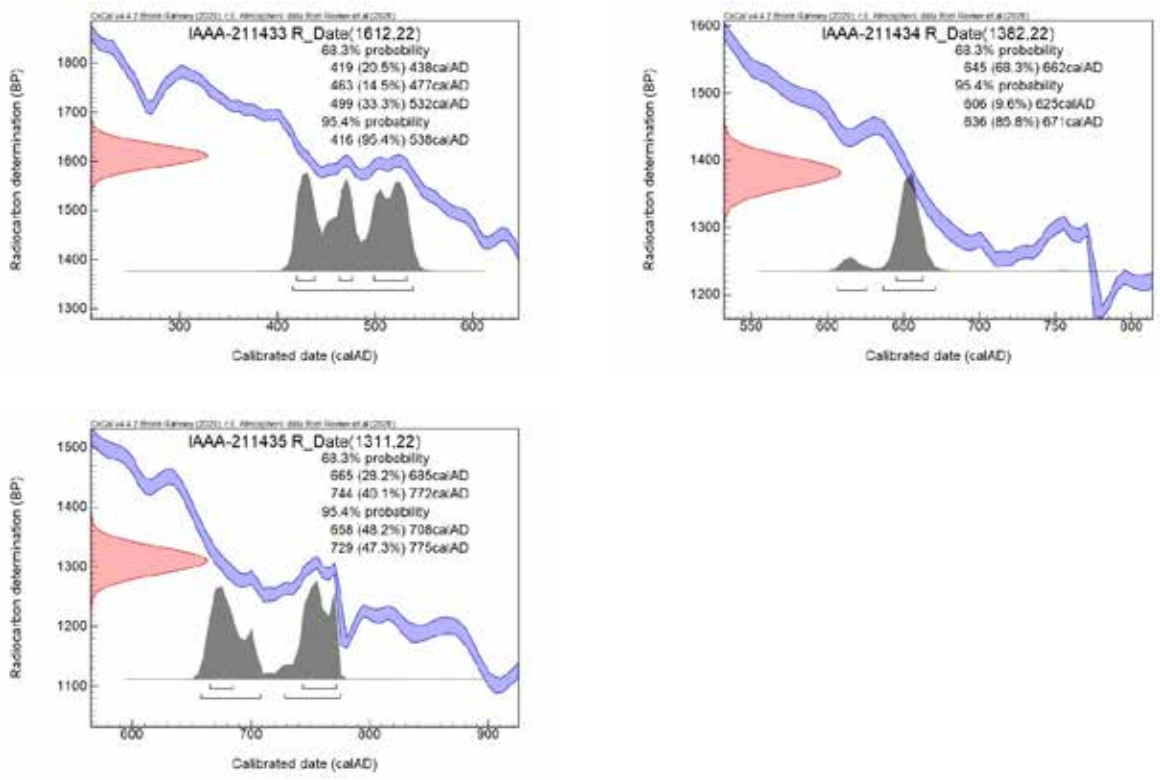


図１　暦年較正年代グラフ（参考）

図　面　・　表

1．鞠智城跡　2．津袋古墳群　3．袈裟尾高塚古墳　4．木柑子フタツカサン古墳　5．木柑子高塚古墳
6．御霊塚古墳　7．瀬戸口横穴群　8．御宇田遺跡群　9．上鶴頭遺跡　10．うてな遺跡　11．十蓮寺跡
12．西寺遺跡（郡家）　13．篠原遺跡　14.鐘掛松古墳　15．黄金塚古墳　16．腰掛松遺跡
17．頭合古墳　18．山田横穴群　19．樋画之口遺跡　20．大井樋横穴群　21．大井樋谷横穴群
22．架裟尾丸山古墳　23．架裟尾茶臼塚古墳　24．神来遺跡　25．条里跡　26．阿高礎石群　27．阿高横穴群
28．ヒジュウ谷横穴群　29．堀切横穴群

図1　鞠智城跡 周辺主要遺跡分布図（S=1/50,000）

図2　城門跡 位置図（S=1/6,000）

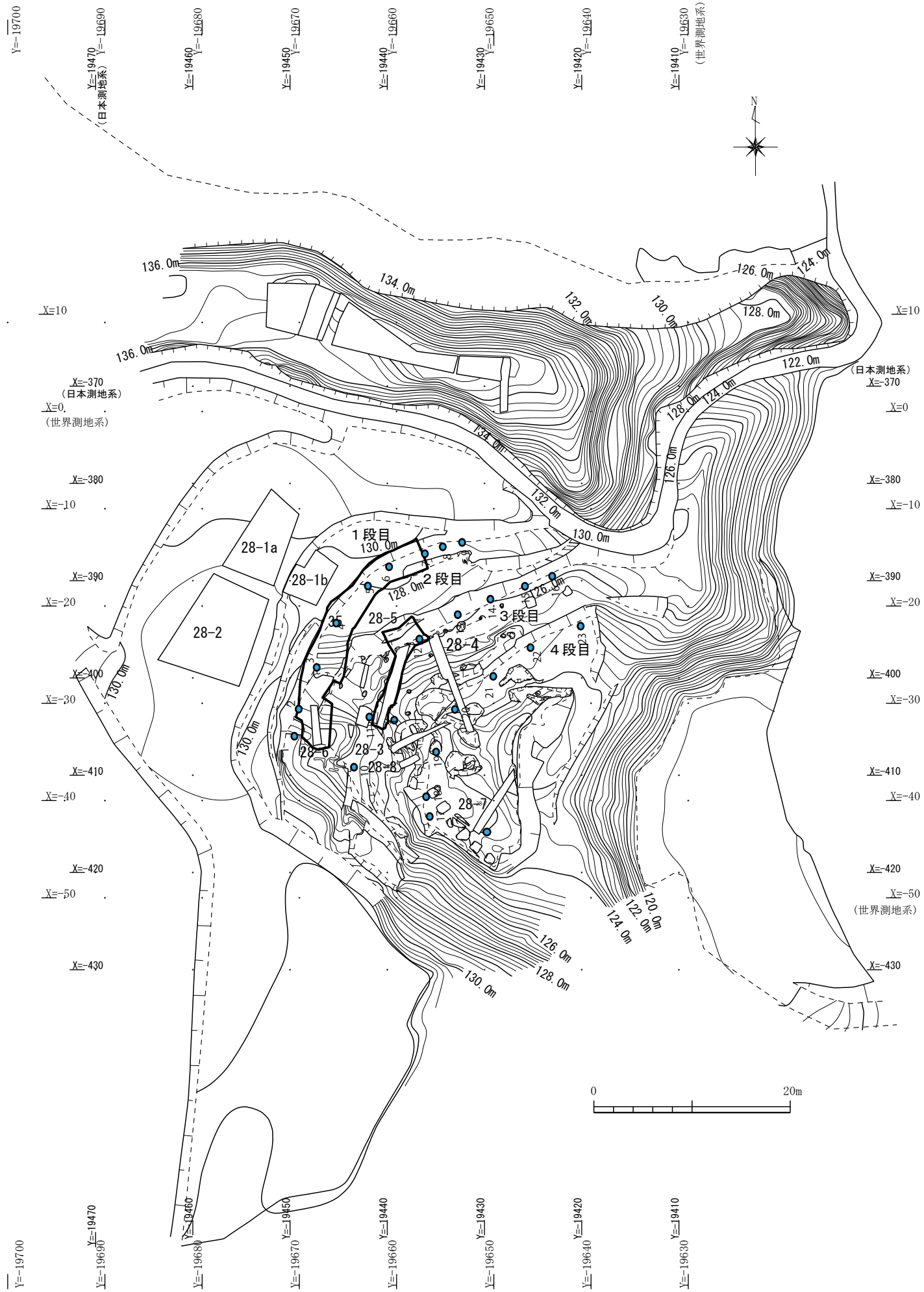
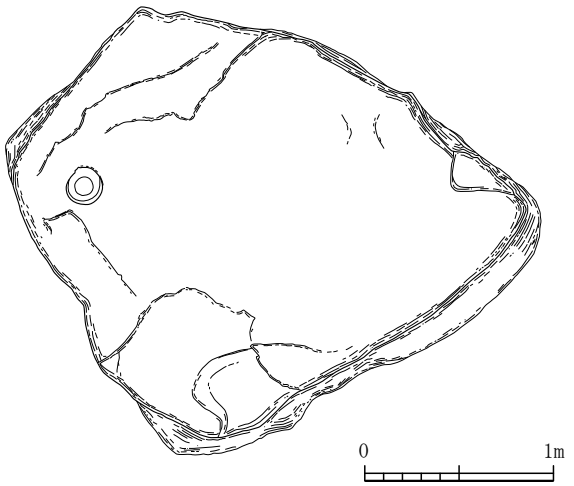


図3　深迫門跡 周辺地形図（S=1/500）



法量・・・長軸　268cm, 短軸　226cm, 厚さ約 80cm

石材・・・花崗岩

節理面を利用しており、表面に加工痕跡はなし。

軸受穴・・長径約 20cm, 短径約 18cm, 深さ約 14cm

図4　深迫門跡 門礎石（「鞠智城跡Ⅱ」2012 第317図）(S=1/40)

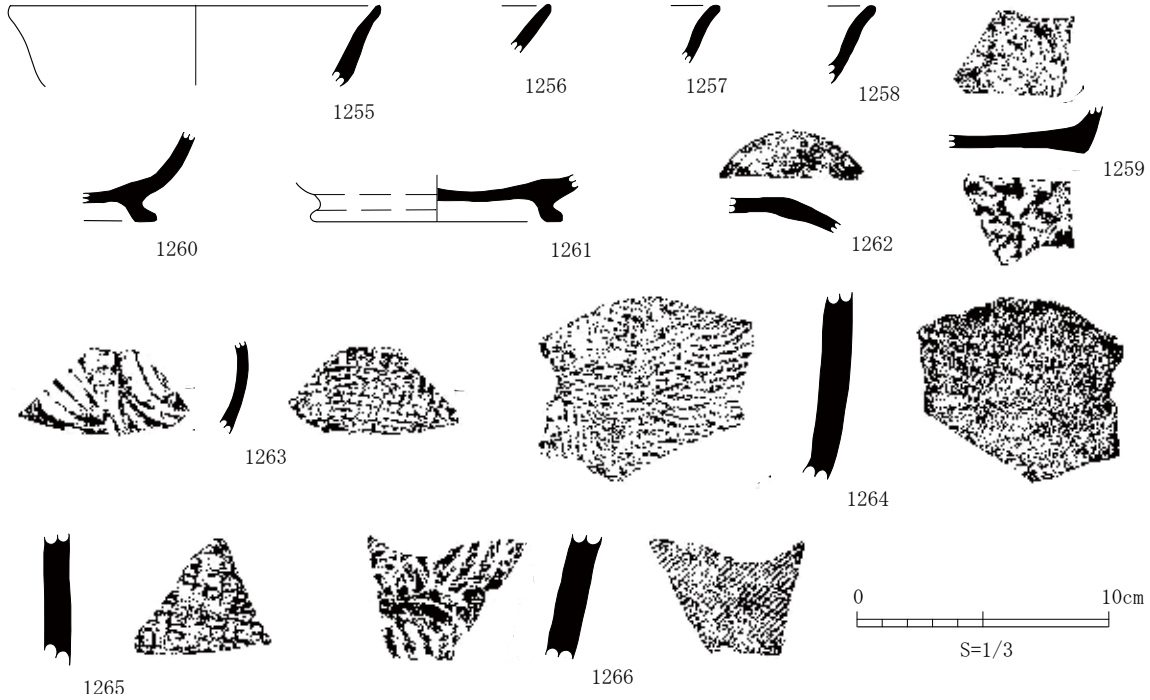


図5　深迫門跡 出土遺物（S=1/3）（「鞠智城跡Ⅱ」2012 第323図）

表1　深迫門跡出土土器一覧表

No.	種別	出土地点	法量(cm)			胎土	焼成	色調	調整		掲載報告書		
			口径	底径	器高				外器面	内器面	報告書名	挿図	遺物No.
1255	須恵器 坏身	深迫門跡	14.6		3.8	砂粒を含む	良好 硬質	外:灰黒色 内:灰黒色	回転ナデ	回転ナデ	第16次調査	第22図	1
1256	須恵器 坏身	深迫門跡			2.2	緻密	良好 硬質	外:灰色 内:灰色	回転ナデ	回転ナデ	第16次調査	第22図	2
1257	須恵器 坏身	深迫門跡			2.7	砂粒を含む	良好	外:灰黒色 内:灰色	回転ナデ	回転ナデ	第16次調査	第22図	3
1258	須恵器 坏身	深迫門跡			3.5	砂粒を含む	良好	外:灰黒色 内:灰黒色	回転ナデ	回転ナデ	第16次調査	第22図	4
1259	須恵器 坏身	深迫門跡			1.8	砂粒を含む	良好	外:灰色 内:黒灰色	外底面は凸凹が目立つ	回転ナデ	第16次調査	第22図	11
1260	須恵器 高台付坏	深迫門跡			4.2	砂粒を含む	良好 硬質	外:灰黒青色 内:灰黒青色	回転ナデ	回転ナデ 仕上げナデ	第16次調査	第22図	6
1261	須恵器 高台付坏	深迫門跡		10.0	2.2	砂粒を含む	良好 硬質	外:灰色 内:灰色	回転ナデ	回転ナデ 仕上げナデ	第16次調査	第22図	7
1262	須恵器 坏蓋	深迫門跡			1.6	砂粒を含む	良好	外:灰黒色 内:灰白色	回転ナデ	回転ナデ	第16次調査	第22図	5
1263	須恵器 甕	深迫門跡			4.2	白色粒の混入砂粒を含む	良好	外:灰黒色 内:灰黒色	格子目タタキ	同心円文当て具痕	第16次調査	第22図	10
1264	須恵器 甕	深迫門跡			8.4	砂粒を含む	良好	外:黒灰色 内:黒灰色	ナデ	同心円文当て具痕	第16次調査	第22図	17
1265	須恵器 甕	深迫門跡			5.6	砂粒を含む	良好 硬質	外:灰白色 内:灰色	格子目タタキ		第16次調査	第22図	16
1266	須恵器 甕	深迫門跡			5.6	砂粒を含む	良好	外:灰色 内:灰白色	格子目タタキ	同心円文当て具痕	第16次調査	第22図	18

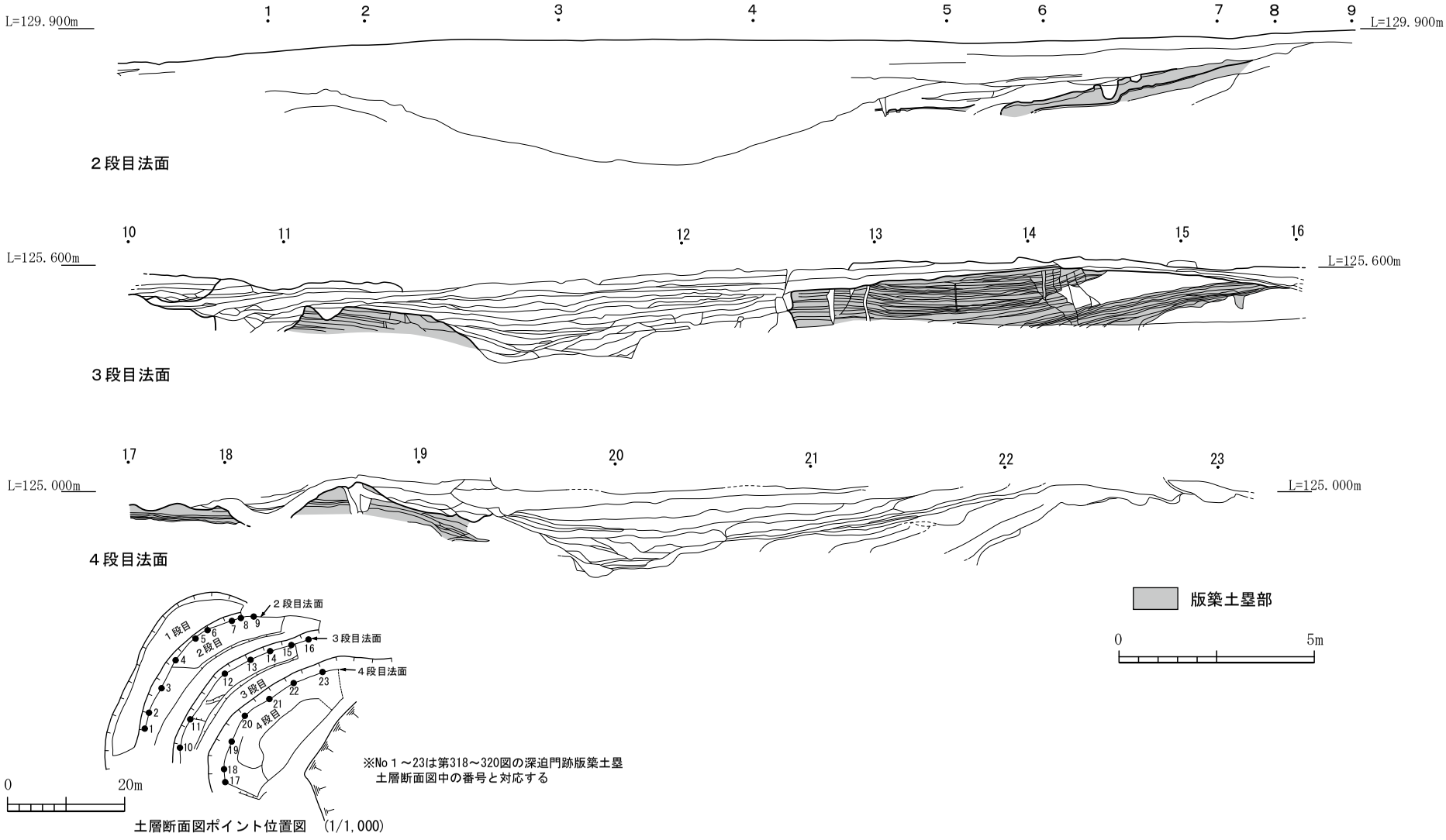
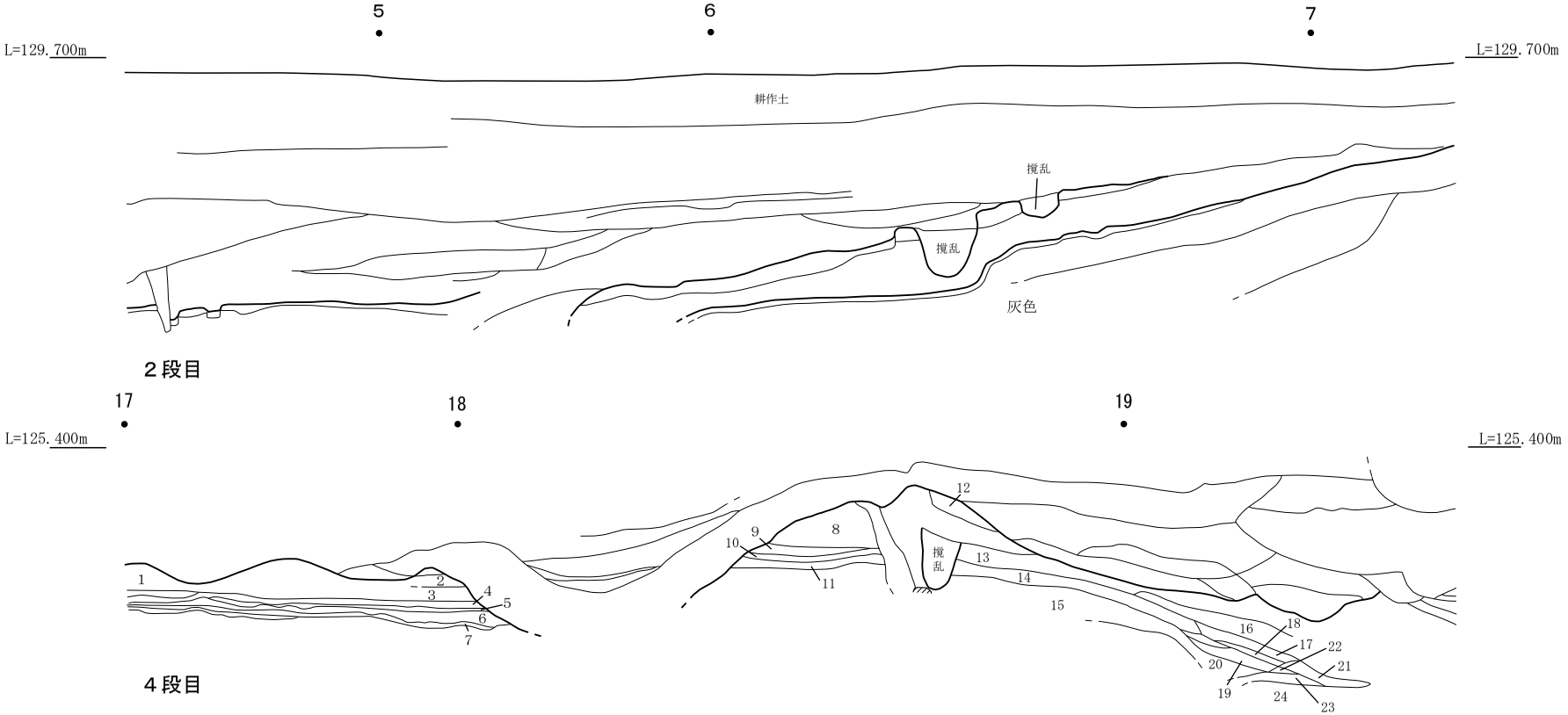


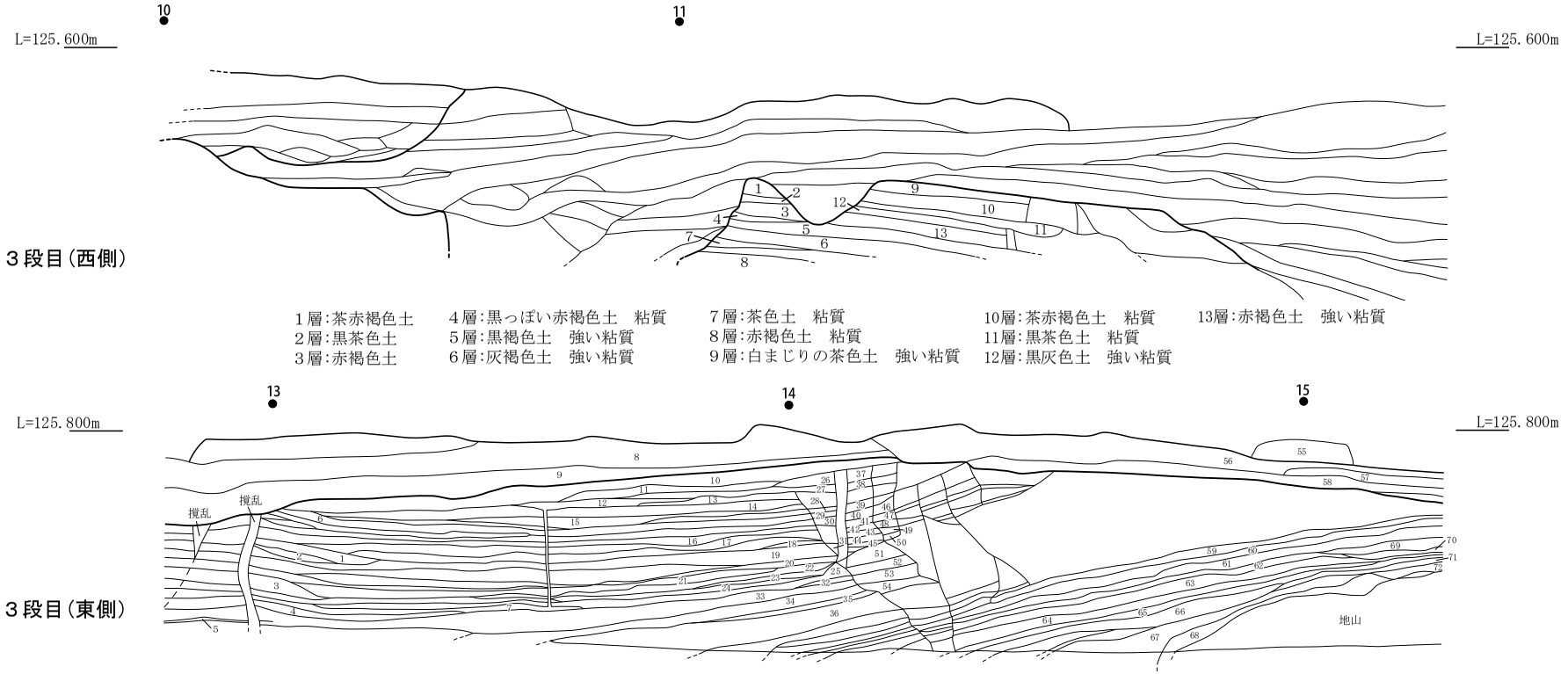
図6　深迫門跡 版築土塁土層断面図１（S=1/150）（「鞠智城跡Ⅱ」2012 第318図）



１層:白まじり茶色土　粘質
２層:灰黒色土　強い粘質
３層:茶灰色土　粘質
４層:黒茶色土　強い粘質
５層:黒灰色土　粘質
６層:白まじりの灰色土　強い粘質
７層:白まじりの茶色土　強い粘質
８層:黒茶色土　強い粘質
９層:赤褐色土＋黒茶色土　強い粘質
10層:黒灰色土　粘質
11層:白まじりの灰色土　強い粘質
12層:白まじりの茶色土
13層:赤褐色土　強い粘質
14層:灰赤褐色土　強い粘質
15層:赤褐色土
16層:白まじりの茶色土　粘質
17層:白まじりの灰色土　粘質
18層:白っぽいオレンジ色土　粘質
19層:灰褐色土　弱い粘質
20層:白まじりの灰褐色土
21層:白まじりの灰色土　粘質
22層:白っぽいオレンジ色土　粘質
23層:灰褐色土　粘質
24層:白まじりの灰褐色土　弱い粘質

0　2m

図7　深迫門跡 版築土塁土層断面図２（S=1/50）（「鞠智城跡Ⅱ」2012 第319図）



1層:茶赤褐色土
2層:黒茶色土
3層:赤褐色土
4層:黒っぽい赤褐色土　粘質
5層:黒褐色土　強い粘質
6層:灰褐色土　強い粘質
7層:茶色土　粘質
8層:赤褐色土　粘質
9層:白まじりの茶色土　強い粘質
10層:茶赤褐色土　粘質
11層:黒茶色土　粘質
12層:黒灰色土　強い粘質
13層:赤褐色土　強い粘質

1層:茶白色土　強い粘質
2層:灰茶色土　粘質
3層:灰褐色土　強い粘質
4層:橙褐色土　強い粘質
5層:茶色土　粘質
6層:茶橙色土　粘質
7層:茶橙色土　粘質
8層:褐色土　砂質
9層:灰褐色土　弱い粘質
10層:黒茶色土　弱い粘質
11層:灰橙色土　強い粘質
12層:白まじりの茶色土　強い粘質
13層:茶色土　粘質
14層:茶色土
15層:濃茶色土
16層:茶色土　粘質
17層:白まじりの茶色土　弱い粘質
18層:白まじりの茶色土　粘質
19層:褐橙色土　強い粘質
20層:灰橙色土　強い粘質
21層:茶橙色土　粘質
22層:灰褐色土　粘質
23層:茶色土　粘質
24層:白まじりの茶色土　強い粘質
25層:茶黒色土　強い粘質
26層:黒茶色土　粘質
27層:灰茶色土　粘質
28層:茶色土　粘質
29層:濃茶色土　粘質
30層:白まじりの茶色土　粘質
31層:白まじりの茶色土
32層:茶橙色土　粘質
33層:茶橙色土　粘質
34層:灰黒褐色土　粘質
35層:黒褐色土　粘質
36層:橙褐色土　強い粘質
37層:黒茶色土
38層:灰茶色土
39層:茶色土　粘質
40層:濃茶色土　粘質
41層:白まじりの茶色土　弱い粘質
42層:茶色土　粘質
43層:白まじりの茶色土　弱い粘質
44層:白まじりの茶色土　粘質
45層:白まじりの茶色土　強い粘質
46層:茶色土　弱い粘質
47層:茶色土　　粘質
48層:白まじりの茶色土
49層:茶色土
50層:白まじりの茶色土　粘質
51層:褐色土　強い粘質
52層:橙色土　強い粘質
53層:茶橙色土　粘質
54層:黒褐色土　粘質
55層:褐色土　砂質
56層:茶褐色土　弱い粘質
57層:灰茶褐色土　弱い粘質
58層:茶色土　弱い粘質
59層:茶色土　粘質
60層:橙色土　強い粘質
61層:白まじりの茶色土　強い粘質
62層:灰色土　強い粘質
63層:白まじりの茶色土　弱い粘質
64層:灰茶色土　強い粘質
65層:褐色土　粘質
66層:灰橙色土　粘質
67層:黒茶色土　強い粘質
68層:茶橙色土　強い粘質
69層:白まじりの灰色土　強い粘質
70層:茶色土　粘質
71層:黒茶橙色土　粘質
72層:灰茶褐色土　弱い粘質

0　2m

図8　深迫門跡 版築土塁土層断面図３（S=1/50）（「鞠智城跡Ⅱ」2012 第320図）

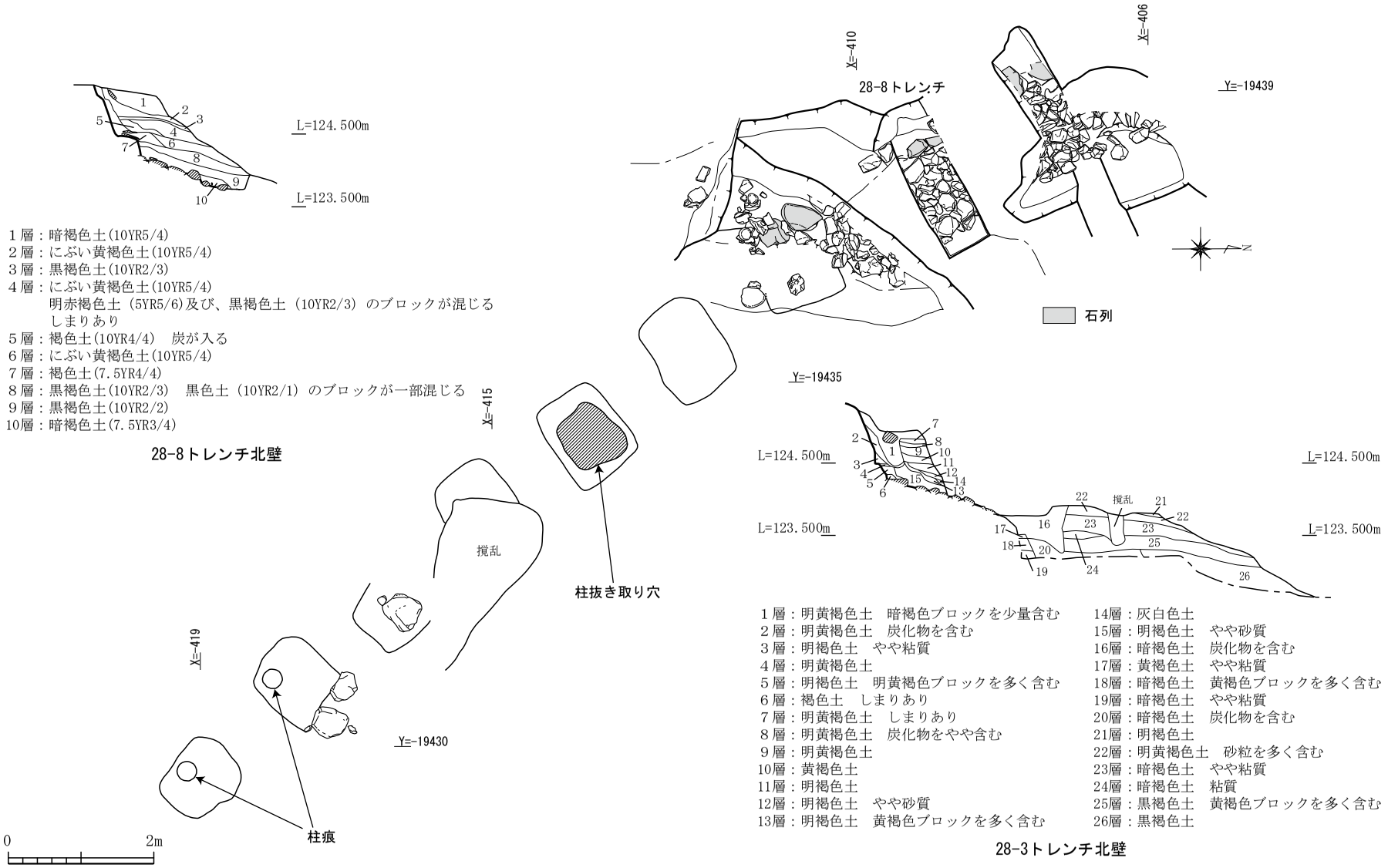
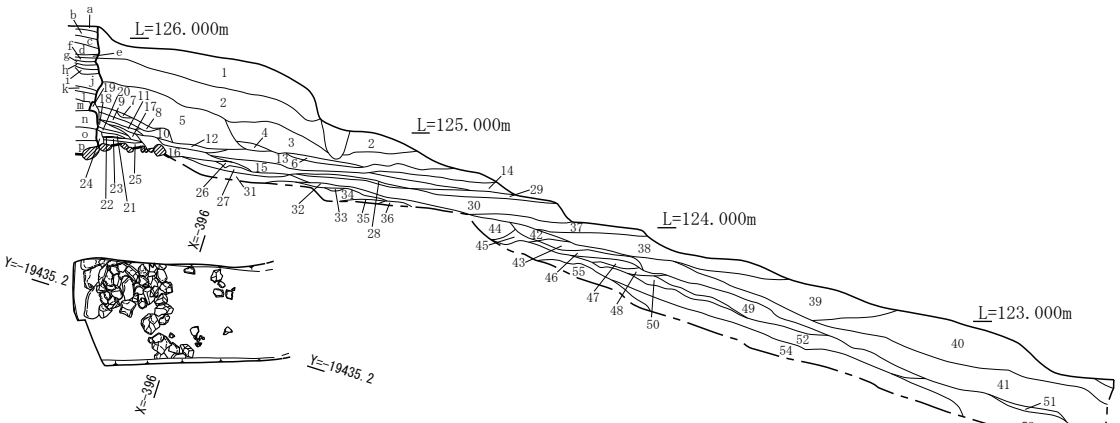


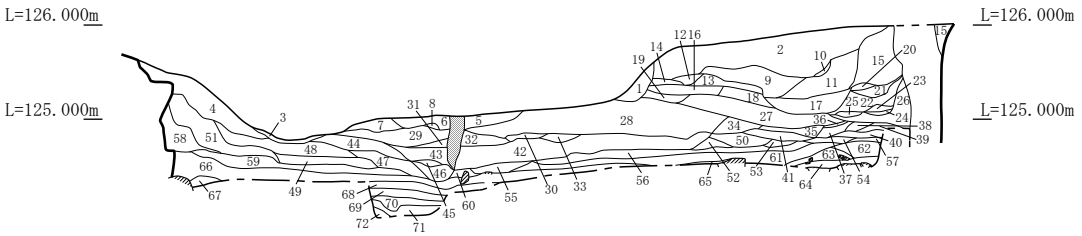
図9　深迫門跡 石列・柱穴・土層断面図（S=1/80)（「鞠智城跡Ⅱ」2012 第321図）



a層:暗褐色土(7.5YR3/4)
b層:橙色土(5YR6/8)
c層:黒色土(10YR2/1)
d層:暗褐色土(7.5YR3/4)
e層:黒色土(10YR2/1)
f層:明褐色土(7.5YR5/6)
g層:黒色土(10YR2/1)
h層:暗褐色土(7.5YR3/4)
i層:黒色土(10YR2/1)
j層:黒褐色土(10YR2/3)
k層:黒褐色土(10YR2/3)
l層:黒褐色土(10YR2/2)
m層:黒褐色土(10YR2/3)
n層:黒色土(10YR2/1)
o層:黒色土(10YR2/1)
p層:暗褐色土(7.5YR3/4)

1層:暗褐色土(7.5YR3/4)
2層:黒褐色土(10YR3/2)
3層:黒褐色土(10YR3/2)
4層:暗褐色土(10YR3/3)
5層:黒褐色土(10YR2/2)
6層:暗褐色土(10YR3/3)
7層:にぶい黄橙色土(10YR7/4)
8層:黒褐色土(10YR2/2)
9層:灰黄褐色土(10YR4/2)　炭が入る
10層:灰黄褐色土(10YR4/2)
11層:暗灰黄色土(2.5Y5/2)
12層:灰黄褐色土(10YR5/2)
13層:黒褐色土(10YR3/2)　炭及び3～5mmの礫が入る しまりあり
14層:黒褐色土(10YR3/2)
15層:黒褐色土(10YR3/2)　礫が入る
16層:黒褐色土(10YR3/2)
17層:にぶい黄褐色土(10YR4/3)
18層:にぶい黄褐色土(10YR5/4)
19層:暗褐色土(10YR3/4)
20層:にぶい黄褐色土(10YR5/3)
21層:黒褐色土(10YR3/2)
22層:黒色土(10YR2/1)
23層:黄褐色土(2.5Y5/3)
24層:黒褐色土(10YR3/2)
25層:黒褐色土(7.5YR5/3)
26層:灰黄褐色土(10YR4/2)
27層:にぶい黄褐色土(10YR3/2)
28層:にぶい黄褐色土(10YR7/4)
29層:黒褐色土(10YR3/2)　炭が入る
30層:黒褐色土(10YR3/2)　しまりあり
31層:黒褐色土(10YR3/2)
32層:黒褐色土(10YR3/2)
33層:明暗褐色土(10YR7/6)
34層:黒褐色土(10YR2/3)
35層:明褐色土(10YR5/6)
36層:にぶい黄褐色土(10YR5/4)
37層:にぶい黄褐色土(10YR5/4)
38層:黒褐色土(10YR3/2)　炭が入る
39層:黒褐色土(10YR2/3)
40層:明黄褐色土(10YR6/6)
41層:黒褐色土(10YR2/3)　しまりあり
42層:黒褐色土(10YR2/3)
43層:黒褐色土(10YR2/2)
44層:黒褐色土(10YR2/3)
45層:黒褐色土(10YR2/3)
46層:黒色土(10YR2/1)
47層:にぶい黄橙色土(10YR7/4)
48層:黒色土(10YR2/1)
49層:黒褐色土(10YR2/3)
50層:黒色土(10YR2/1)
51層:灰黄褐色土(10YR4/2)
52層:にぶい黄橙色土(10YR7/4)
53層:暗褐色土(10YR3/4)
54層:暗褐色土(10YR3/4)
55層:黒褐色土(10YR2/3)

28-4トレンチ西壁



1層:灰黄褐色土(10YR2/2)
2層:黒褐色土(10YR2/2)
3層:橙色土(7.5YR7/6)
4層:黒褐色土(7.5YR3/2)
5層:黒褐色土(10YR2/2)
6層:黒褐色土(10YR2/2)
7層:黒褐色土(10YR2/2)
8層:褐色土(7.5YR4/4)
9層:黒褐色土(10YR2/2)
10層:暗褐色土(10YR3/3)
11層:黒褐色土(10YR3/2)
12層:黒褐色土(7.5YR3/2)
13層:にぶい黄橙色土(10YR5/4)
14層:にぶい黄橙色土(10YR5/3)
15層:黒褐色土(10YR2/3)
16層:黒褐色土(7.5YR3/2)
17層:黒褐色土(7.5YR3/2)
18層:黒褐色土(10YR3/2)
19層:黒褐色土(10YR3/2)
20層:黒褐色土(10YR3/2)
21層:黒褐色土(10YR3/2)
22層:黒褐色土(10YR3/1)
23層:にぶい黄褐色土(10YR5/3)
24層:にぶい黄褐色土(10YR4/3)
25層:にぶい黄褐色土(10YR5/4)
26層:明暗褐色土(10YR6/6)
27層:黒褐色土(7.5YR3/1)
28層:黒褐色土(10YR2/3)
29層:黒褐色土(10YR2/2)
30層:黒褐色土(10YR3/1)
31層:黒褐色土(10YR2/2)
32層:黒褐色土(10YR3/2)
33層:黒褐色土(10YR3/1)
34層:暗褐色土(10YR3/3)
35層:灰黄褐色土(10YR4/2)
36層:にぶい黄褐色土(10YR5/3)
37層:灰黄褐色土(10YR5/2)　礫が入る
38層:黒褐色土(10YR3/2)
39層:暗灰黄色土(2.5Y4/2)　粘質あり
40層:灰黄褐色土(10YR4/2)
41層:褐灰色土(10YR5/1)
42層:黒褐色土(10YR3/2)
43層:黒褐色土(10YR3/3)
44層:黒褐色土(10YR2/2)
45層:黒褐色土(10YR2/3)
46層:黒褐色土(10YR3/1)
47層:暗褐色土(7.5YR3/3)
48層:暗褐色土(7.5YR3/3)
49層:黒褐色土(10YR3/1)
50層:黒褐色土(10YR3/2)
51層:橙色土(2.5YR6/6)
52層:黒褐色土(10YR3/2)
53層:浅黄橙色土(10YR8/4)
54層:灰黄褐色土(10YR5/2)　炭が入る
55層:黒褐色土(7.5YR3/2)
56層:灰色土(5YR5/1)　炭が入る
57層:明黄褐色土(10YR7/6)
58層:黒褐色土(10YR3/2)
59層:灰色土(5YR5/1)　炭が入る
60層:褐灰色土(10YR4/1)
61層:灰黄褐色土(10YR4/2)
62層:褐色土(7.5YR4/3)
63層:浅黄色土(2.5YR7/3)　粘質あり
64層:黒褐色土(7.5YR2/2)　強いしまりあり
65層:橙色土(7.5YR7/6)
66層:灰黄褐色土(10YR4/2)　68より暗い
67層:暗灰黄色土(2.5YR4/2)　粘質あり
68層:灰黄褐色土(10YR4/2)
69層:にぶい橙色土(7.5YR6/4)　強いしまりあり
70層:黒褐色土(10YR3/1)　強いしまりあり
71層:黒褐色土(10YR3/2)
72層:黒褐色土(10YR2/2)

28-5トレンチ西壁

0　2m

図10　深迫門跡 28-4・5トレンチ土層断面図（S=1/80）（「鞠智城跡Ⅱ」2012 第322図）

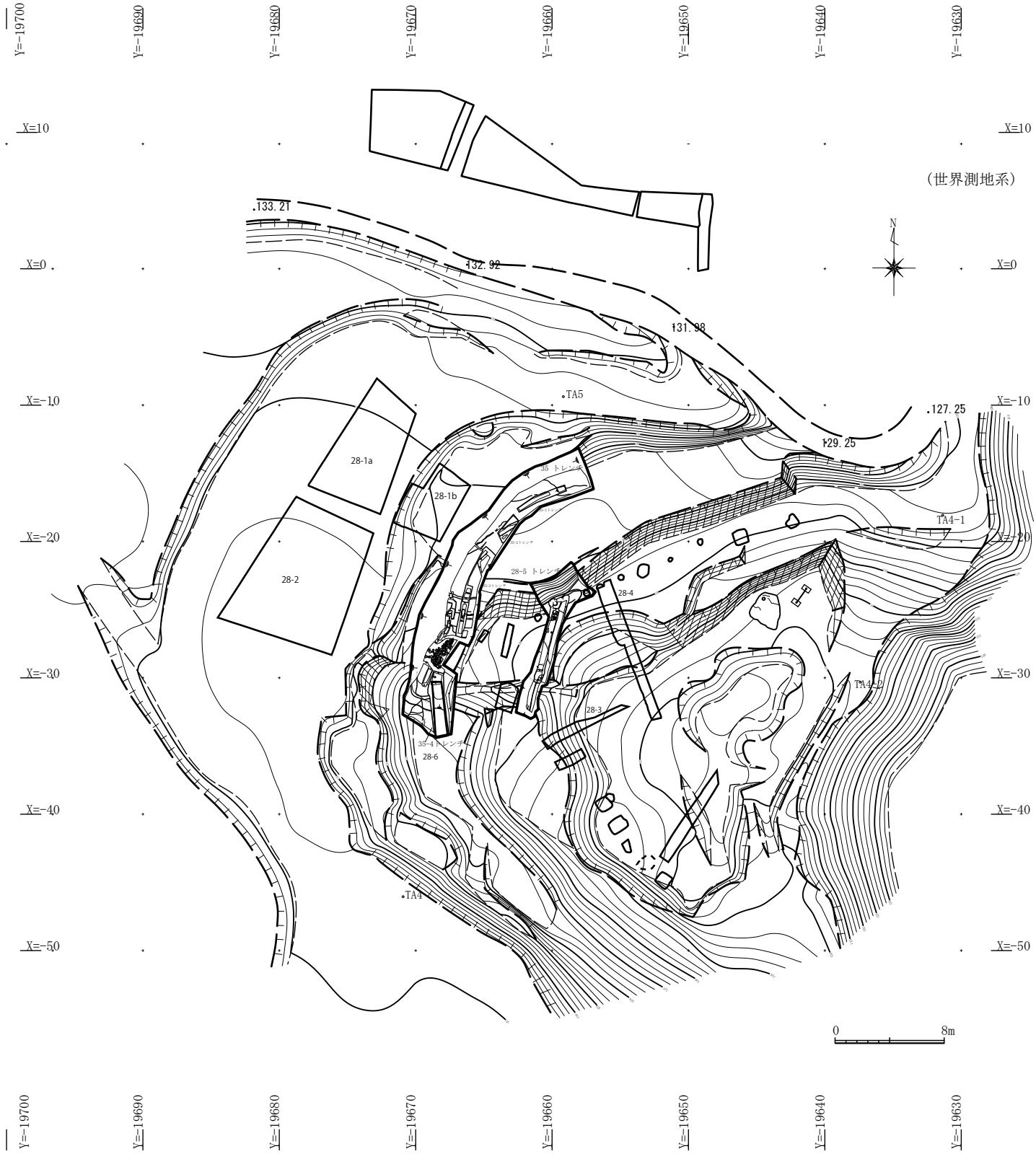


図11 深迫門跡 周辺第35・第36次調査時現況とトレンチ配置図（S=1/400）

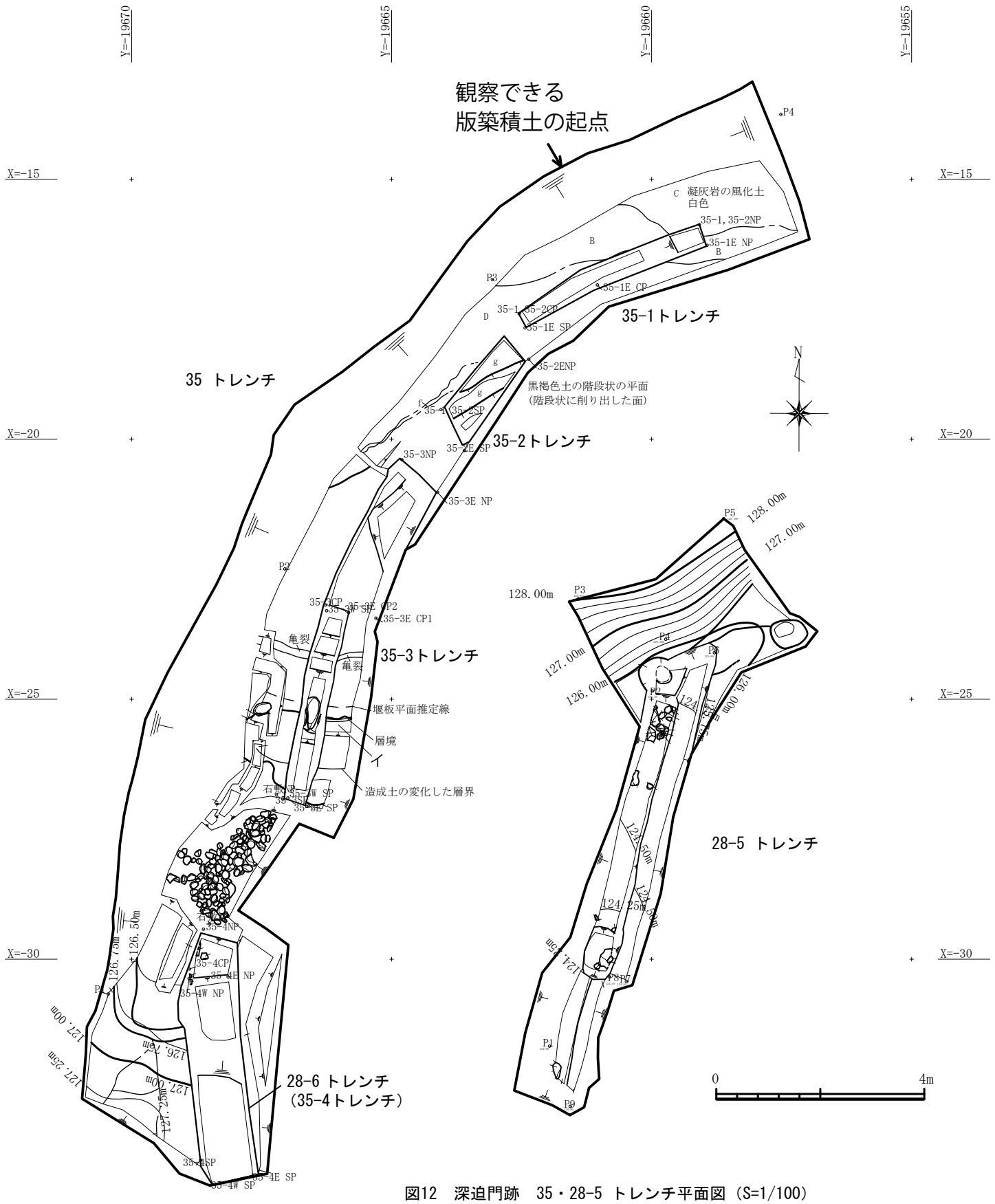
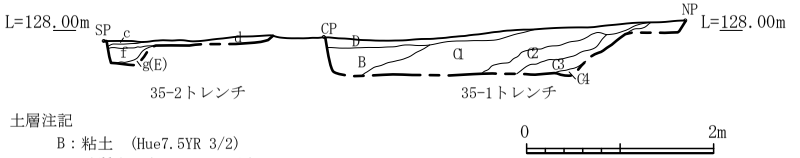


図12　深迫門跡　35・28-5 トレンチ平面図（S=1/100）



土層注記

B：粘土　(Hue7.5YR 3/2)
C1: 砂質土　(Hue7.5YR 4/3)
C2: 砂質土　(Hue10YR 3/4)　＊ C1からC4にかけてサラサラになる。
C3: 砂質土　(Hue7.5YR 3/4)
C4: 砂質土　(Hue7.5YR 3/4)

図13 35-1・35-2トレンチ土層断面図（S=1/80）

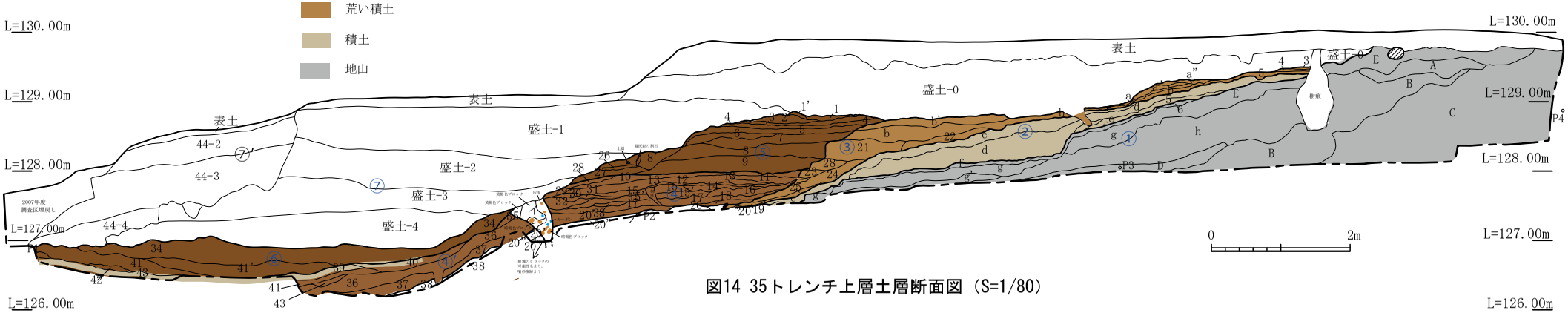
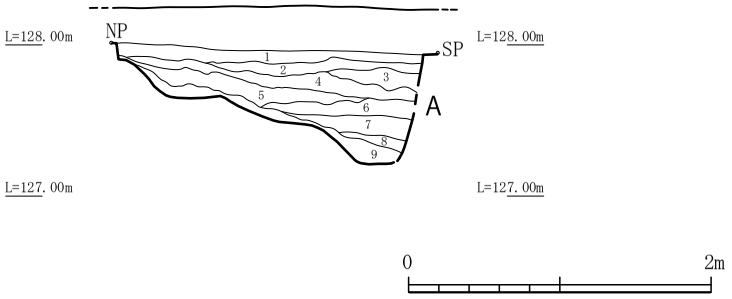


図14 35トレンチ上層土層断面図（S=1/80）

土層注記

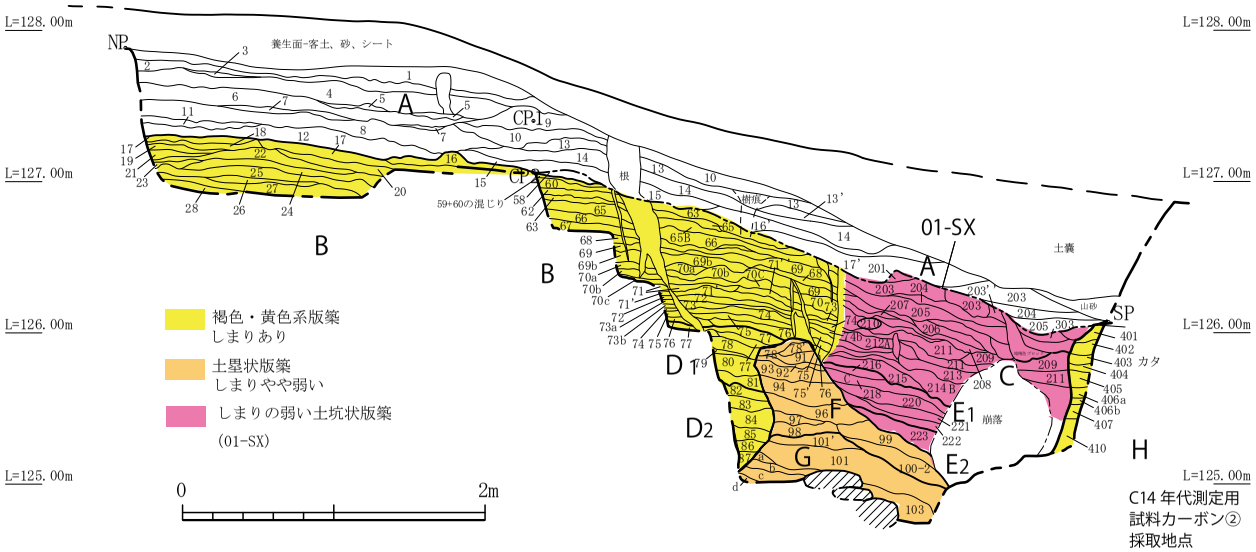
1：赤色粒　(Hue10YR 3/3)　黒色粒を含む。黒ニガブロック混。
1'：白ニガブロック混土　(Hue2.5Y 3/3)
2：暗褐色シルト　(Hue10YR 2/1) 黒色粒も含む。ブロック土。
3：暗褐色シルト　(Hue10YR 3/4) ブロック土。1mmくらいの赤黄褐色ローム の層を多く含む。
4：暗褐色シルト　(Hue5YR 3/2) ニガブロック土。
5：褐色ブロック土　(Hue7.5YR 3/2粘質土。
6：褐色シルト　(Hue10YR 4/2)
7：暗褐粘土　(Hue10YR 2/3) 5mm大のMn粒を多く含む(30%程度)。ブロック状 の土。ボロボロしている。
8：明褐粘　(Hue10YR 2/3) 点まじりのMnは少量。ブロック土。ややしまり弱い。
8'：暗褐色粘質土　(Hue5YR 3/1)　マンガン、白色粒を含む。ややブロック土。マンガンやや多し。
9：暗褐粘　(Hue5YR 1/3)　点まじりの白色粒少量。点まじりのMn少量。5mm大の赤褐色粒。
10：極暗褐色粘質土(Hue7.5YR 2/3) 砂粒。長石(白色)。マンガン粒。かたくしまる。粘質土。褐色粒を多く含む。
11：黒褐色土(Hue10YR 2/3) 1mm大の白色粒、Mn粒、褐色粒を多く含む。
12：黒褐色粘質土(Hue10YR 2/3) 白色粒、Mn、鉄分を含む。かたくしまる。粘質土。
(Hue7.5YR 2/3)　白色粒、Mn粒を含む。
13：暗褐粘土　(Hue10YR 3/3)赤褐色粒、白色(長石)粒、マンガン粒を含む。
14：暗褐色粘質土　(Hue5YR 1/3)赤褐色粒、長石、Mn粒を含む。
15：黒褐色土(Hue10YR 2/3) 1cm大の赤褐色粒。白色風化凝灰岩。Mn粒。(混入粒子が小さい)
15'：黒褐色土(Hue10YR 2/3) 2～3cm大の白色粒、赤褐色粒を多く含む。(混入粒子が大きい)
16：極暗褐色粘質土(Hue7.5YR 2/3) 色調は暗褐色。かたくしまる。1～1.5cm大の赤褐色白色粒(ASO-4)を所々に含む。
17：暗褐色土(Hue7.5YR 3/3)　1cm大白色粘、Mn、長石(1mm大)を多く含む。 0.5cm大の赤褐色粒。かたくしまる。
18：暗褐色粘質土　(Hue5YR 2/3)　2cm大の赤褐色粒。1mm大の白色粘。
＊　10～18はベースが黒色で混入物がありその割合で分層。
19：極暗褐色土(Hue7.5YR 2/3) 白色粒の点まじり。2cm大の赤褐色粒がまばらに入る。
20：黒褐色土(Hue10YR 3/2)白色粒・赤褐色粒(2mmくらい)を多く含む。
20'：極暗褐色粘質土(Hue7.5YR 2/3)1～2.5cm大の白色粒(ASO-4)を含み、1mm大の白色粒、Mnを多く含む。かたくしまる。粘質土。
20"：黒褐色粘質土　(Hue7.5YR 4/1)　黒色点混。(カーボン？)混。
20"'：粘質土　(Hue7.5YR 4/2)　1cmくらいの赤・白色粒混。
21：にぶい黄褐色土(Hue10YR 4/3)　褐色粘(明るい)1cm大の白色粒と点まじりのMn粒。
22：暗褐色土(Hue7.5YR 3/3)　褐色粘(明るい)、白色粘(点まじり)、赤褐色粒(5mm大)。
23：極暗褐色土粘質(Hue7.5YR 2/3)　白色粒、褐色粒(0.5～1cm)を多く含む。かたくしまる。粘質土層。
24：暗褐色粘質土(Hue7.5YR 3/3)　0.5～1cm白色粘土粒と褐色粒、0.1～0.2cm大のマンガン粒を多く含む。かたくしまる。粘質土層。
25：極暗褐色粘質土(Hue7.5YR 2/3)　色調はやや灰黒色を帯びる。帯状の酸化鉄、白色粒(長石？)を多く含む。かたくしまる。
26：褐色粘　(Hue10YR 2/3)点状マンガン粒を多く含む。かなりしまる。
27：暗褐シルト(ブロック状の土)　(Hue5YR 1/3)　しまり弱い。点状マンガン粒を少量含む。
28：明褐粘　(Hue7.5YR 3/3)　しまりあり。1cm大の赤褐色粘をまばらに含む。
29：黒褐色土(Hue10YR 3/2)　暗褐粘に3cm大の黄白色ブロックを含む。しまりあり。5mm大の白色粒を少量含む。
30：黒褐色土(Hue10YR 3/2)　暗褐粘に5mm大の黄白色ブロックを含む。しまりあり。5mm大の黄色ブロック。白色粒点まじり。
31：褐灰色土(Hue7.5YR 4/1)　暗褐粘に0.5～1cm大の黄白色ブロックを含む。しまりあり。白色粒点まじり。
32：暗褐粘　(Hue5YR 3/1)　しまる。白色粒を多く含む。2～3mm大カーボンを少量含む。
33：暗褐粘　(Hue10YR 3/2)　しまる。白色粒点まじり。3cm大の赤褐粒がまばらに、カーボンを少量含む。
34：褐色粘　(Hue7.5YR 3/1)　しまる。白色粒点まじり。Mnを少量、赤色粒をを少量含む。
35：褐色シルト　(Hue5YR 4/2)　しまる。1cm大の赤色粒をまばらに、5mm大の白色粒をまばらに含む。
36：暗褐粒　(Hue7.5YR 3/2)　しまる。白色粒点まじり。
37：褐色シルト　(Hue5YR 3/1)　しまる。2cm大の赤褐粒をまばらに含む。白色粒点まじり。
38：褐色シルト　(Hue5YR 3/1)　しまる。5mm大の黄褐色粒を少量含む。黒色粒、白色粒の点まじり。
39：褐色シルト　(Hue5YR 3/2)　ふつうにしまる。赤色粒、カーボンを含む。
40：褐色シルト　(Hue10YR 3/3)　しまる。少しブロック状の土。点状白色粒と赤褐粒(5mm大)、カーボンをまばらに含む。
41：黒褐色粘質土　(Hue7.5YR 3/1)　白色粒と赤色粒を含む。敷石が埋まっている層。
41'：黒褐色粘質土　(Hue5YR 3/1)　黒色粒、白色粒点混。
42：黒褐色粘質土　(Hue5YR 3/1)　赤褐色粒、白色粒を含む。
43：黒褐色粘質土　(Hue7.5YR 3/1)　白色粒、マンガンを含む。
44-2：粘質土　(Hue5YR 3/1)　白色粒を含む。
44-3：シルト　(Hue5YR 3/2)　白色粒を含む。
44-4：粘質土　(Hue5YR 3/1)　黄褐色ブロックを少量含む。
盛土-0：暗褐色シルト　(Hue7.5YR 4/2)　1cmくらいの礫、白色粒、スミ(炭化物)を含む。
盛土-1：褐色シルト　(Hue5YR 4/2)　やや砂質。
盛土-2：褐色シルト　(Hue5YR 3/1)　やや砂質。カーボン、赤色粒を含む。 ブロック土。しまりなし。
盛土-3：褐色シルト　(Hue7.5YR 3/2)　赤褐色粒、カーボンを含む。ブロック土。ややしまりない。
盛土-4：黒褐色粘質土　(Hue5YR 3/1)　礫、白色粒を多く含む。　ブロック土。
A：明黒褐色ブロック土(Hue10YR 3/3)
B：灰白色粘質土　(Hue10YR 4/3)　やや砂質を帯びる。
C：灰白色砂質シルト　(Hue10YR 4/3)
D：明褐色ブロック土　(Hue5YR 3/6)　粘土質。
E：黒褐色ブロック土　(Hue10YR 3/2)
＊　A～Eは地山。
a：明褐色粘質土　(Hue10YR 3/4)　(ローム層を含む)
a'：黄褐色粘質土　(Hue5YR 3/2)　褐色シルトを含む。白色点混。
a"：褐色粘質土　(Hue5YR 4/2)　黄褐色粘質土を含む。白色点混。
b：褐色粘質土　(Hue10YR 3/4)　(ローム層)
b'：黄褐色粘質土　(Hue7.5YR 4/1)　黄褐色粘質土に褐色シルトが混じる。
c：白色砂質土、混明褐色シルト、白色粘土(Hue5YR 3/2)
d：暗黄褐色ローム　(Hue7.5YR 2/3)
e：明黄褐色粘質土　(Hue7.5YR 3/2)　粘土(ローム層)
f：黒褐色ブロック土　(Hue10YR 3/1)
g(E)：黒褐色ブロック土　(Hue10YR 3/2)
g'：暗赤褐色(Hue5YR 3/2)



土層注記

1： 茶褐色シルト (Hue7.5Y 3/1) しまりあり。やや赤味。黒色粒を含む。ローム層中心。
2： (Hue5Y 4/2) 白色ブロック、黒色マンガン混。明褐色シルトに凝灰岩風化土。ピンク多し
3： (Hue5Y 4/4) 1～2cmの白色ブロック少量含む。黒色マンガン少量含む。スミ15mmくらい含むが撹乱か？
4： (Hue7.5YR 4/2) マンガン、2～3cmの白色粒を含む。
5： 明褐色粘土 (Hue10YR 4/2) 1cmくらいの白色粒。
6： (Hue10YR 4/2)
7： 粘質土 (Hue7.5YR 4/3) 砂質ブロックあり。褐色土。ややしまりなし。
8： 砂質土 (Hue2.5YR 3/1) 3～4mm大の凝灰岩ブロック、白色を多く含む。淡褐色土。白色土多い。風化土。
9： シルト (Hue7.5YR 3/1) やや砂質土。淡褐色土。ややしまりなし。
10： 黒褐色シルト (Hue7.5YR 3/1) やや砂質土。黒褐色土。しまりあり。 基本土層Ⅰに対応

図15 35-2トレンチ東壁土層断面図 (S=1/50)



土層注記

1： 赤褐色シルト (Hue10YR 3/4) 黒色(マンガン)点混。しまりあり。
2： 赤褐色シルト (Hue2.5YR 3/2) 白色ブロック、礫、赤色粒を多く含む。しまりあり。
3： 暗褐色シルト (Hue2.5YR 4/4) 黒色点混。白色粒点混。
4： 褐色シルト(粘質土) (Hue7.5YR 4/2) 5mmくらいの赤色粒、白色粒、マンガン粒を多く含む。
5： 黒褐色粘質土 (Hue2.5YR 3/2) 1～2mm大の白色粒を含む。
6： 褐色粘質土 (Hue10YR 3/4) マンガン3mmくらいの白色粒含む。
7： 暗褐色粘質土 (Hue10YR 3/3)
8： 褐色粘質土 (Hue5R 3/2) 5mmくらいのマンガン粒、白色粒を多く含む。
9： 黒褐色粘質土 (Hue5R 3/1) 硬くしまる。1～5mm大の赤色粒を所々に含む。色調は黒褐色。
10： 暗褐色粘質土 (Hue5YR 4/2) 肌白色粘主体の5～10mm大の黒褐粒、白色粒を含む。固くしまる。色調は肌色。
11： 黒褐色シルト(粘質土) (Hue7.5YR 4/2) 白色粒、褐色粒、Mn粒を多く含む層。しまる。
12： 暗褐色粘質土 (Hue2.5YR 4/1) 2～3mm大のMn粒多。3～5mm大の肌白色粘粒多。混入物多い層。
13： 暗褐色粘質土 (Hue2.5YR 4/1) Mn粒多く含む。5～10mm大の肌白色粘を多く含む。しまる。
13’ :褐色粘質土 (Hue7.5YR 3/2) 13に白色シルト粒を含む。
14： 黒褐色粘質土 (Hue5YR 3/2) 部分的に肌白色粘(1～5cm大)を所々に含む。しまる。色調は黒褐色。
15： 赤褐色(褐色)粘質土 (Hue2.5YR 3/2) 混入物多い。3～10mm大の褐色粒、白色粘、肌白色粘を多く含む。カーボンを点混に含む。マンガン粒少量。
16： 褐色粘質土 (Hue10YR 3/4) 5mm以上の白色粒を多く含む。マンガン粒少量。
16’ :褐色粘質土 (Hue7.5YR 4/2) 1cmくらいの白色粒を含む。
17： 暗褐色粘質土 (Hue7.5YR 4/1) 白色粒、マンガンを含む。
17’ :暗褐色粘質土 (Hue7.5YR 4/1) 黄褐色粒を多く含む。
18： 褐色シルト (Hue7.5YR 3/2) やや暗褐色。白色粒、マンガンを多く含む。
19： 暗褐色粘質土 (Hue5YR 3/2) 所々に肌白粘粒(2～10mm大)含む。
20： 褐色粘質土 (Hue5YR 4/2) 5mmくらいの白色粒、マンガンを含む。
21： 褐色粘質土 (Hue5YR 4/2) しまる。1cm以上の肌白色粒を含む。
22： 褐色粘質土 (Hue2.5YR 4/2) 赤色粒、マンガン粒を多く含む。
23： 暗褐色粒 (Hue5YR 4/2) 色調は茶(暗褐)。所々に肌白色粒(3～10mm大)含む。
24： 褐色粘質土 (Hue10YR 3/2) 赤色粒、白色粒、マンガン粒を少量含む。
25： 黒褐色粘質土 (Hue2.5YR 4/2) 赤色粒、Mn粒多い。肌白粘(1～3cm大)所々含む。
26： 暗褐色粘質土 (Hue5YR 3/1) マンガン、白色粒を多く含む。
27： 暗褐色粘質土 (Hue5YR 4/2) 混入物多し。Mn,灰色粒、肌白粘粒(1～3cm大)を所々に含む。
28： 黒褐色粘質土 (Hue2.5YR 3/1) 肌白粘粒(2～3cm大)を所々に含む。色調は黒褐色。
29： 暗褐色粘質土 (Hue5YR 3/2) 所々に3～30mm大の肌白色粘粒を含む。
58： 褐色粘質土 (Hue5YR 3/6) 上層暗褐色強い。白色粒点混。
60： 褐色粘質土 (Hue5YR 3/2) 3cmくらいの赤褐色粒を30%くらい含む。
62： 褐色シルト (Hue10YR 3/2) 黒色点混。61ほど含有物少ない。
63： 明褐色シルト (Hue10YR 3/3) 5mmくらいの黄褐色。
64： (明)褐色シルト (Hue7.5YR 4/2)
65： 暗褐色粘質土 (Hue10YR 3/2) (褐色シルトに暗褐色シルトブロック)赤褐色粒、黒色粒を含む。
66： 褐色シルト (Hue7.5YR 4/2) 粘質土。
67： 褐色シルト (Hue7.5YR 3/2) シルト、暗褐色シルトも混じる。
68： 粘質土 (Hue5YR 3/2) マンガンを少量含む。
69： 暗褐色粘質土 (Hue7.5YR 3/2) 黒色点混。褐色シルトがベースに暗褐色。
70： 暗褐色粘質土 (Hue7.5YR 3/3) 2～3cmくらいの白、黄褐色ブロックを含む。
71： 暗褐色粘質土 (Hue7.5YR 3/2) しまりあり。白色粒点混。
71’ :暗褐色粘質土 (Hue5YR 4/2) しまりあり。やや明るい。白色粒点混。
71” :暗褐色粘質土 (Hue5YR 3/1) 褐色が強い。白色粒点混。
72： 褐色粘質土 (Hue5YR 3/1) 白色粒点混。
73： 黄褐色粘質土 (Hue5YR 3/2) 白色粒点混。
74： 黒褐色粘質土 (Hue10YR 3/2)
75： 暗褐色シルト (Hue5YR 3/2) 5cmくらいの白色粒を含む。粘質。
75’ 暗褐色シルト (Hue5YR 3/1) 白色粒、黒色粒点混。
76： 褐色粘質土 (Hue10YR 3/3) 暗褐色シルト混。黄褐色粒、黒色粒混。
77： 暗褐色粘質土 (Hue5YR 3/1) 2mmくらいの白色粒を多く含む。
78： 褐色粘質土 (Hue5YR 3/1) 暗褐色ブロック混。白色粒含む。
78’ :褐色粘質土 (Hue5YR 3/1) 5cm程の暗褐色ブロック混。白色粒少量含む。
80： 褐色粘質土 (Hue7.5YR 4/2) 暗褐色ブロック5mm～4cmを少量含む。
81： 暗褐色粘質土 (Hue5YR 4/2) 5mm～1cmの灰褐色ブロックを含む。
82： 褐色シルト (Hue7.5YR 3/2) 黒褐色ブロック点混。
83： 褐色シルト (Hue5YR 3/2) 黒褐色点混。
84： 褐色シルト (Hue5YR 2/1) 黒褐色シルト。
85： 暗褐色シルト (Hue5YR 3/1) 褐色シルト混。
86： 褐色シルト (Hue5YR 3/2) やや暗褐色シルト、黒色、白色点混。
87： 褐色シルト (Hue5YR 3/1) ブロック混。
91： 暗褐色シルト (Hue10YR 4/2) 赤褐色、白色ブロックを多く含む。
92： 暗褐色シルト (Hue7.5YR 4/3) 白色粒点混。1cmくらいのものも含む。
93： 暗褐色シルト (Hue7.5YR 4/2) 白色砂質土がやや少ない。
94： 暗褐色シルト (Hue10YR 4/3) 白色砂質土を多く含む。
96： 褐色粘質土 (Hue10YR 4/3)
97： 暗褐色シルト (Hue7.5YR 4/3)
98： 暗褐色粘質土 (Hue7.5YR 4/1)
99： 白色砂質土 (Hue7.5YR 4/2) 粗砂に近い。
100-2： 褐色シルト (Hue10YR 4/2) 白色シルトを多く含む。3cmくらいの互層積み。ややしまりなし。
101： 白色砂質土 (Hue7.5YR 4/2) 3cmくらいの版築層。白色の砂質土が多い。
101’ : 白色砂質土 (Hue7.5YR 4/2) 3cmくらいの版築層。橙色のシルトが混じる。
103 :褐色粘質土 (Hue7.5YR 4/2)
201 :暗褐色粘質土 (Hue2.5YR 4/2) 白色点混。白色砂質土が多い。長石も多く含む。
203 :暗褐色粘質土 (Hue5YR 4/2) 白色、赤褐色点混。
203’ :暗褐色粘質土 (Hue5YR 4/2)黄褐色ブロック、白色、赤褐色点混。
203’’ :暗褐色粘質土 (Hue5YR 4/2) 黄褐色ブロック、黒褐色ブロック混。
204 :黒褐色粘質土 (Hue2.5YR 4/1) 2～3cmの赤褐色粒を多く含む。
205 :黒褐色粘質土 (Hue5YR 4/2) 1cmくらい赤褐色粒を少し含む。
206 :黒褐色粘質土 (Hue5YR 4/2) 赤褐色粒を多く含む。
207 :黒褐色粘質土 (Hue5YR 4/2) 赤褐色粒を少量含む。長石粒を含む。
208 :黒褐色粘質土 (Hue2.5YR 4/2) 3～4cmの赤褐色粒を50%含む。長石、鉄分を少量含む。
209 :黒褐色粘質土 (Hue5YR 4/2) 赤褐色点混多量に含む。
210 :黒褐色粘質土 (Hue5YR 4/2) 赤褐色、白色粒を少量含む。
211 :褐色シルト (Hue5YR 4/2) 白色粒少量。
212 :褐色シルト (Hue7.5YR 4/2) 白色、黄褐色シルト50%くらい含む。
213 :褐色シルト (Hue7.5YR 4/2) 白色、黄褐色シルト50%くらい含む。
214 :暗褐色シルト (Hue5YR 4/2) 白色、黄褐色シルト30%くらい含む。
215 :褐色シルト (Hue10YR 4/3) 赤褐色シルトを多く含む。
216 :淡褐色砂質土 (Hue7.5YR 4/1) 5mmくらいの白色粒を20%くらい含む。
218 :暗褐色シルト (Hue7.5YR 4/2) 粘質が強い。
220 :暗褐色粘質土 (Hue7.5YR 4/3)
221 :褐色砂質土 (Hue10YR 4/2) 2cmくらいの黄褐色ブロックを含む。
222 :褐色粘質土 (Hue7.5YR 4/2)
223 :黄褐色粘質土 (Hue7.5YR 4/3)
303 :褐色シルト (Hue7.5YR 4/2) 赤褐色粒、黄褐色粒混。3cmくらいのマンガンのブロックを含む。
401 :褐色シルト (Hue7.5YR 4/1) 赤褐色、黒色粒、白色粒を含む。
402 :暗褐色粘質土 (Hue5YR 3/2) マンガン、白色粒を含む。
403 :(黒)暗褐色粘質土 (Hue7.5YR 3/2)
404 :暗褐色粘質土 (Hue5YR 3/1) 白色粒、長石、マンガンを含む。粘質が強い。
405 :黒褐色シルト (Hue7.5YR 4/2) 明黄褐色ブロック混。
406 :暗褐色シルト (Hue5YR 4/2) 白色点混。
407 :褐色シルト (Hue7.5YR 4/2) やや明るい色。
408 :褐色シルト (Hue5YR 4/2) 白色点混。
409 :褐色粘質土 (Hue5YR 3/1) マンガンを含む。
410 :暗褐色粘質土 (Hue7.5YR 4/2)

a： 白色砂質
b： 淡褐色シルト
c： 白色砂質
d： 淡灰色シルト

図16 35-3トレンチ東壁土層断面図 (S=1/50)

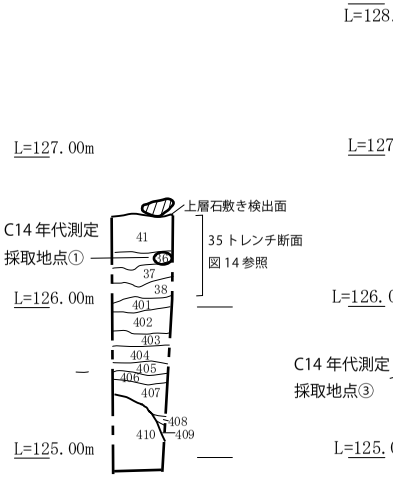


図17-2 35-3トレンチ南壁土層断面図 (S=1/50)

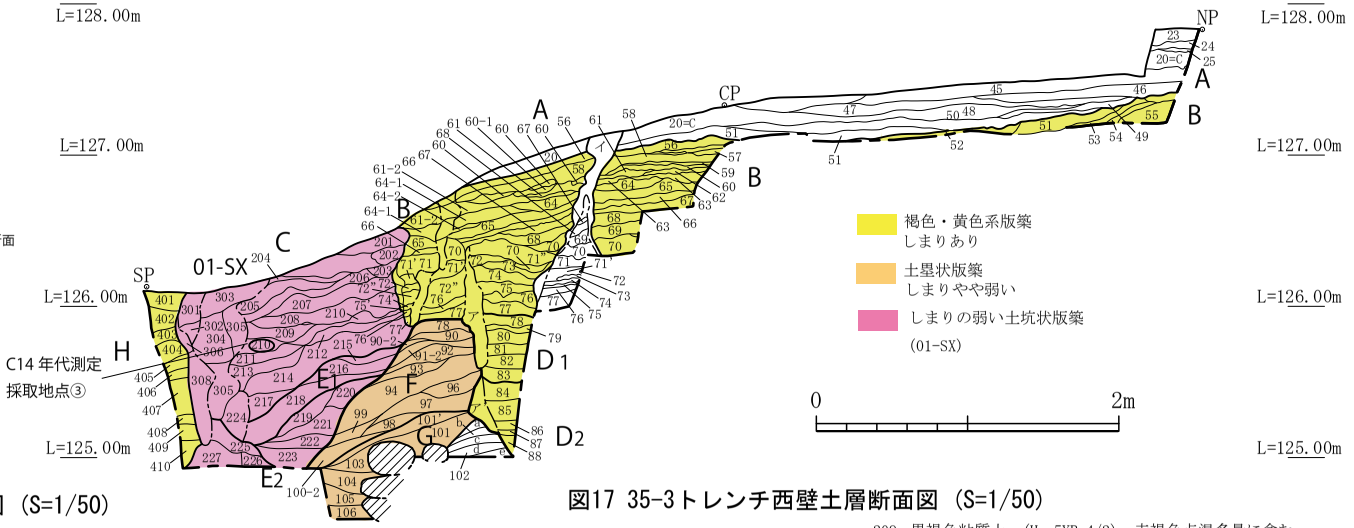
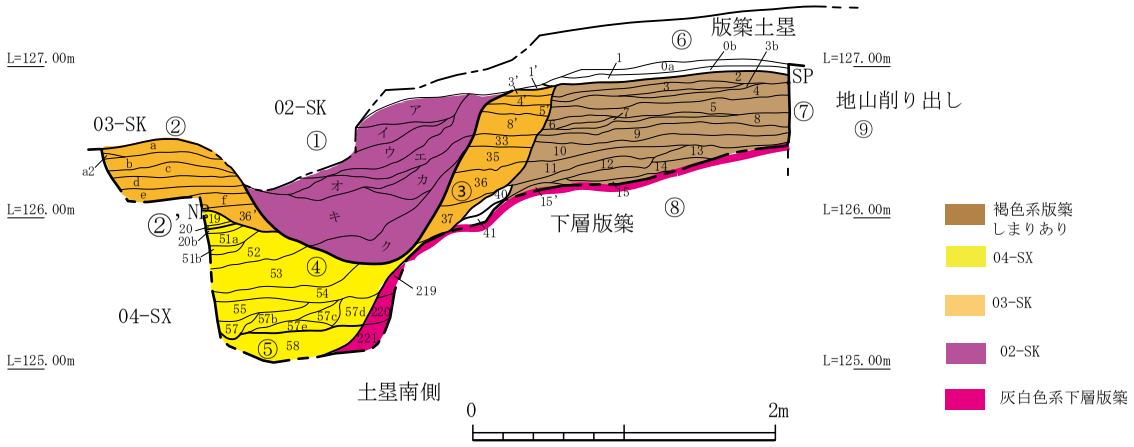


図17 35-3トレンチ西壁土層断面図 (S=1/50)

土層注記

45：暗褐色粘　(Hue5YR 4/2)　しまる。黒色粒(点)、白色粘(1～3cm大)を多く含む。
46：褐色粘　(Hue7.5YR 3/2)　ややしまる。2cm大の白色粒、黒色粒とMnは点状。
47：黒褐粘　(Hue7.5YR 3/2)　ややシルト質。しまりはふつう。白色点まじり。
48：褐色粘　(Hue7.5YR 4/2)　しまりあり。2cm大の白色粒がまばらに入る。黒色粒、赤褐色粒点まじり。
49：暗褐色粘土　(Hue5YR 3/2)　しまりあり。2～3cm大の赤褐色粒。1cmくらいの白色粒が混じる。
50：褐色シルト　(Hue7.5YR 3/2)　3～4cmの白色粒(凝灰岩風化土)を多く含む。マンガンを含む。
51：暗褐色粘質土　(Hue5YR 3/2)　2～3cmの白色粒をまばらに含む。
52：褐色粘質土　(Hue7.5YR 3/3)　黄褐色から白色の1cmくらいのブロックを多く含む。
53：(Hue10YR 4/3)　白色粒を基調に暗褐色土が混じる。黒色粒ごく少量点混。
54：褐色シルト　(Hue5YR 3/2)　やや砂質。黒色粒ごく少量。
55：白色砂質土　(Hue5YR 4/3)　凝灰岩風化土をベースに褐色シルトが混じる。
56：暗褐色粘質土　(Hue5YR 3/2)　白色粒点混。
57：暗褐色粘質土　(Hue5YR 4/2)　白色粒(1～2cm)を多く含む。
58：褐色粘質土　(Hue5YR 3/6)　上層暗褐色強い。白色粒点混。
59：暗褐色シルト　(Hue10YR 3/1)　やや砂質。白色粒点混。
60：褐色粘質土　(Hue5YR 3/2)　3cmくらいの赤褐色粒を30%くらい含む。
60-1：褐色粘質土　(Hue5YR 3/1)　黒色、白色点混。
61：褐色シルト　(Hue7.5YR 3/3)　1cmくらいの赤褐色粒を5%くらい含む。
61-2：暗褐色シルト　(Hue10YR 3/3)　1cmくらいの白色粒を含む。
62：褐色シルト　(Hue10YR 3/2)　黒色点混。61ほど含有物少ない。
63：明褐色シルト　(Hue10YR 3/3)　5mmくらいの黄褐色。
64：(明)褐色シルト　(Hue7.5YR 4/2)
64-1：褐色シルト　(Hue2.5YR 3/1)　1cmくらいの点混白色粒。
64-2：暗褐色シルト　(Hue5YR 3/1)　白色点混。
65：暗褐色粘質土　(Hue10YR 3/2)　(褐色シルトに暗褐色シルトブロック)　赤褐色粒、黒色粒を含む。
66：褐色シルト　(Hue7.5YR 4/2)　粘質土。
67：褐色シルト　(Hue7.5YR 3/2)　シルト、暗褐色シルトも混じる。
68：粘質土　(Hue5YR 3/2)　マンガンを少量含む。
69：暗褐色粘質土　(Hue7.5YR 3/2)　黒色点混。褐色シルトがベースに暗褐色。
70：暗褐色粘質土　(Hue7.5YR 3/3)　2～3cmくらいの白、黄褐色ブロックを含む。
71：暗褐色粘質土　(Hue7.5YR 3/2)　しまりあり。白色粒点混。
71'：暗褐色粘質土　(Hue5YR 4/2)　しまりあり。やや明るい。白色粒点混。
71"：暗褐色粘質土　(Hue5YR 3/1)　褐色が強い。白色粒点混。
72：褐色粘質土　(Hue5YR 3/1)　白色粒点混。
72"：褐色粘質土　(Hue5YR 3/1)　白色粒点混。黒色粒、白色粒1cmのものも含む。
73：黄褐色粘質土　(Hue5YR 3/2)　白色粒点混。
74：黒褐色粘質土　(Hue10YR 3/2)
74'：褐色粘質土　(Hue5YR 4/2)　白色粒点混。
75：暗褐色シルト　(Hue5YR 3/2)　5cmくらいの白色粒を含む。粘質。
75'：暗褐色シルト　(Hue5YR 3/1)　白色粒、黒色粒点混。
76：褐色粘質土　(Hue10YR 3/3)　暗褐色シルト混。黄褐色粒、黒色粒混。
77：暗褐色粘質土　(Hue5YR 3/1)　2mmくらいの白色粒を多く含む。
78：褐色粘質土　(Hue5YR 3/1)　暗褐色ブロック混。白色粒含む。
79：暗褐色粘質土　(Hue5YR 3/1)　1cmくらいの白色ブロックを含む。褐色ブロックを含む。
80：褐色粘質土　(Hue7.5YR 4/2)　暗褐色ブロック5mm～4cmを少量含む。
81：暗褐色粘質土　(Hue5YR 4/2)　5mm～1cmの灰褐色ブロックを含む。
82：褐色シルト　(Hue7.5YR 3/2)　黒褐色ブロック点混。
83：褐色シルト　(Hue5YR 3/2)　黒褐色点混。
84：褐色シルト　(Hue5YR 2/1)　黒褐色シルト。
85：暗褐色シルト　(Hue5YR 3/1)　褐色シルト混。
86：褐色シルト　(Hue5YR 3/2)　やや暗褐色シルト、黒色、白色点混。
87：褐色シルト　(Hue5YR 3/1)　ブロック混。
88：暗褐色シルト　(Hue7.5YR 3/1)　白色、黄褐色シルト点混。
90：暗褐色砂質土　(Hue7.5YR 4/2)
91：暗褐色シルト　(Hue10YR 4/2)　赤褐色、白色ブロックを多く含む。
91-2：暗褐色シルト　(Hue7.5YR 4/1)　白色粒が点混。
92：暗褐色シルト　(Hue7.5YR 4/3)　白色粒点混。1cmくらいのものも含む。
93：暗褐色シルト　(Hue7.5YR 4/2)　白色砂質土がやや少ない。
94：暗褐色シルト　(Hue10YR 4/3)　白色砂質土を多く含む。
96：褐色粘質土　(Hue10YR 4/3)
97：暗褐色シルト　(Hue7.5YR 4/3)
98：暗褐色粘質土　(Hue7.5YR 4/1)
99：白色砂質土　(Hue7.5YR 4/2)　粗砂に近い。
100：暗褐色シルト　(Hue7.5YR 4/1)　白色砂質土を含む。ややシルト質。
100-2：褐色シルト　(Hue10YR 4/2)　白色シルトを多く含む。3cmくらいの互層積み。ややしまりなし。
101：白色砂質土　(Hue7.5YR 4/2)　3cmぐらいの版築層。白色の砂質土が多い。
102：白色砂質土　(Hue7.5YR 4/2)　褐色シルトの互層。3cmぐらいの版築層。a,c白色層。b,d,e褐色層。
103：褐色粘質土　(Hue7.5YR 4/2)
104：暗褐色粘質土　(Hue7.5YR 4/1)　2～3cmの白色粒を多量に含む。
105：暗褐色粘質土　(Hue7.5YR 4/2)　2～3cmの白色粒を含むが上より少ない。
106：褐色粘質土　(Hue7.5YR 3/1)　白色ブロックを多く含む。
201：暗褐色粘質土　(Hue2.5YR 4/2)　白色点混。白色砂質土が多い。長石も多く含む。
202：暗褐色粘質土　(Hue7.5YR 4/2)　白色粒、黒色粒も含む。
203：暗褐色粘質土　(Hue5YR 4/2)　白色、赤褐色点混。
204：黒褐色粘質土　(Hue2.5YR 4/1)　2～3cmの赤褐色粒を多く含む。
205：黒褐色粘質土　(Hue5YR 4/2)　1cmくらい赤褐色粒を少し含む。
206：黒褐色粘質土　(Hue5YR 4/2)　赤褐色粒を多く含む。
207：黒褐色粘質土　(Hue5YR 4/2)　赤褐色粒を少量含む。長石粒を含む。
208：黒褐色粘質土　(Hue2.5YR 4/2)　3～4cmの赤褐色粒を50%含む。長石、鉄分を少量含む。
209：黒褐色粘質土　(Hue5YR 4/2)　赤褐色点混多量に含む。
210：黒褐色粘質土　(Hue5YR 4/2)　赤褐色、白色粒を少量含む。
211：褐色シルト　(Hue5YR 4/2)　白色粒少量。
212：褐色シルト　(Hue7.5YR 4/2)　白色、黄褐色シルト50%くらい含む。
213：褐色シルト　(Hue7.5YR 4/2)　白色、黄褐色シルト50%くらい含む。
214：暗褐色シルト　(Hue5YR 4/2)　白色、黄褐色シルト30%くらい含む。
215：褐色シルト　(Hue10YR 4/3)　赤褐色シルトを多く含む。
216：淡褐色砂質土　(Hue7.5YR 4/1)　5mmくらいの白色粒を20%くらい含む。
217：褐色シルト　(Hue5YR 4/2)　やや砂質。
218：暗褐色シルト　(Hue7.5YR 4/2)　粘質が強い。
219：暗褐色シルト　(Hue5YR 4/2)　やや砂質土を含む。
220：暗褐色粘質土　(Hue7.5YR 4/3)
221：褐色砂質土　(Hue10YR 4/2)　2cmくらいの黄褐色ブロックを含む。
222：褐色粘質土　(Hue7.5YR 4/2)
223：黄褐色粘質土　(Hue7.5YR 4/3)
224：暗褐色シルト　(Hue5YR 4/3)　マンガンブロック。
225：赤褐色シルト　(Hue5YR 4/3)　やや砂質。灰色の砂質土を多く含む。
226：赤褐色シルト　(Hue5YR 3/2)
227：褐色粘質土　(Hue7.5YR 4/3)
301：暗褐色シルト　(Hue5YR 3/1)　マンガンがほとんどブロック状。
302：暗褐色砂質土　(Hue7.5YR 3/2)
303：褐色シルト　(Hue7.5YR 4/2)　赤褐色粒、黄褐色粒混。3cmくらいのマンガンのブロックを含む。
304：褐色シルト　(Hue7.5YR 3/2)　マンガンおよび白色粒(3cmくらい)のものを少量含む。
305：淡褐色砂質土　(Hue7.5YR 4/2)　マンガンブロックを含む(白)。
306：暗褐色シルト　(Hue5YR 3/2)　白色シルト混多量。マンガン含む。
308：褐色シルト　(Hue5YR 4/2)　不純物が少ない。
401：褐色シルト　(Hue7.5YR 4/1)　赤褐色。黒色粒、白色粒を含む。
402：暗褐色粘質土　(Hue5YR 3/2)　マンガン、白色粒を含む。
403：(黒)暗褐色粘質土　(Hue7.5YR 3/2)
404：暗褐色粘質土　(Hue5YR 3/1)　白色粒、長石、マンガンを含む。粘質が強い。
405：黒褐色シルト　(Hue7.5YR 4/2)　明黄褐色ブロック混。
406：暗褐色シルト　(Hue5YR 4/2)　白色点混。
407：褐色シルト　(Hue7.5YR 4/2)　やや明るい色。
408：褐色シルト　(Hue5YR 4/2)　白色点混。
409：褐色粘質土　(Hue5YR 3/1)　マンガンを含む。
410：暗褐色粘質土　(Hue7.5YR 4/2)

ア：暗褐色粘質土　(Hue7.5YR 4/1)　2～3cmの黄褐色粒を少量含む。
ア'：暗褐色粘質土　(Hue7.5YR 5/1)　2～3cmの黄褐色ブロックを含む。
イ：褐色粘質土　(Hue7.5YR 3/3)　カーボンブロック、黄褐色ブロックを含む。

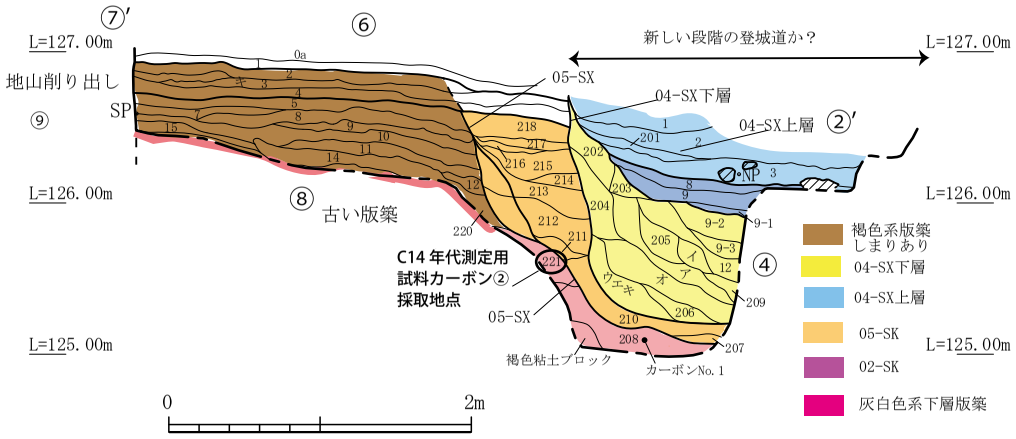


a： 灰褐色粘質土 (Hue7.5YR 4/2) 白色点混。
a2： 黒褐色粘質土 (Hue10YR 3/2)
b： 灰褐色粘質土 (Hue7.5YR 4/2)
c： 灰褐色粘質土 (Hue5YR 4/2)
d： 灰褐色粘質土 (Hue7.5YR 4/2) 白色、赤色点混。
e： 灰褐色粘質土 (Hue5YR 4/2)
f： 暗赤褐色粘質土(Hue5YR 3/2) 白色点混。スミまばら。
ア： 灰赤褐色粘質土 (Hue2.5YR 4/2) 暗褐色粒。
イ： 黄色粘質土 (Hue5YR 4/2) 暗褐色粒を含む。
ウ： 灰赤色粘質土 (Hue2.5YR 4/2) 暗褐色粒。
エ： 灰褐色粘質土 (Hue10YR 4/2)
オ： 灰褐色粘質土 (Hue5YR 4/2) 黄色、暗褐色粒が混じる。
カ： 灰褐色粘質土 (Hue5YR 4/2) 3㎜くらいの黄色ブロック。スミが混じる。
キ： 灰褐色粘質土 (Hue5YR 4/2) 白色粒、赤色粒混じる。
ク： 灰赤色粘質土 (Hue2.5YR 4/2) 10㎜の暗褐色ブロック。白色粒。

土層注記

0a： 粘質土 (Hue2.5YR 4/2) 白色粒。ポワポワ。しまりなし。
0b： 粘質土 (Hue10YR 4/2) 1の上層か？
1： 暗褐色粘質土 (Hue2.5YR 3/1) しまりあり。まばらに上層の黒色土ブロックを含む。
(この黒色土は石敷きの層。) 層位的には黒色土のすぐ下層になる。
1’： 暗褐色粘質土 (Hue2.5YR 3/1) しまりあり。上層の黒色土ブロックを１より多く含む。
2： 暗褐色粘質土 (Hue5YR 3/2) 上層よりややしまり強い。
2～3㎜大の黒色粒、肌灰色粒、カーボンをまばらに含む。
3： 暗褐色粘質土 (Hue5YR 4/2) しまる。点状に白色粒、黒色粒を含む。
部分的に塊(1cm大)。色調が明るい所もある。
上層(1)の石敷きより古い時代の遺構埋土と考えられる。
3’： 暗褐色粘質土 (Hue5YR 4/2) しまる。点状に白色粒、黒色粒を含む。
3b： 粘質土 (Hue5Y 4/2) 白色、黄色粒。
4： 暗褐色粘質土 (Hue2.5YR 3/2) しまる。点状の黒色粒、褐色粒、白色粘を含む。
所々に1～3cm大の白色粘土粒を含む。
4’： 暗褐色粘質土 (Hue2.5YR 3/2) しまる。点状の黒色粒、褐色粒、白色粘を含む。
白色粒４より多い。
5： 暗褐色粘質土 (Hue5YR 4/2) しまる。4より色調がやや暗めか？
まばらに3～8㎜大のカーボンを含む。点状に褐色粒、白色粒、黒色粘を含む。
5’： 暗褐色粘質土 (Hue5YR 4/3) しまる。
6： 褐色粘質土 (Hue7.5YR 3/3) しまる。橙色粘土体に2～5㎜大の黒色粒を含む。
7： 暗褐色粘質土 (Hue5YR 3/2) しまる。上層よりやや色調は暗い。
点状白色粒1～5㎜大の黒灰色粒を含む。
8： 暗褐色粘質土 (Hue5YR 3/2) しまる。混入物は点状の白色粒、黒色粒。
上下層と比較してやや粘性あり。硬化層といえるほどしまっていない。
8’： 暗褐色粘質土 (Hue5YR 3/１) しまる。混入物は点状の白色粒、黒色粒。
9： 褐色粘質土 (Hue5YR 3/3) しまる。2～5㎜大の灰白色粘土粒、点状の白色粒、黒色粒、
まばらに2～3㎜大のカーボンを含む。
10： 暗褐色粘質土 (Hue5YR 3/2) しまる。混入物は点状の白色粒、黒色粒。
11： 暗褐色粘質土 (Hue5YR 4/2) しまる。ゴリゴリは小さい。
12： 黒褐色粘質土 (Hue7.5YR 4/2) しまり強い。1～8cm大の黒褐ブロックを多く含む。
一気に厚く埋めた様相。
13：褐色粘質土(Hue7.5YR 4/3) 色調は肌白色。粘質土でややしまる。北側の地粘土と同じ層。
ASO-4由来の肌白色粘土主体に1～5cm大の暗褐色、灰色褐色ブロックや1cm未満の
黒色粒、白色粒などを多く含む。
14：灰褐色土(Hue5YR 4/2) やわらかい暗褐粘土に3～10cm大の硬い黒褐粘ブロックを含む。
ゴリゴリ多し。
15：淡白色粘質土 (Hue5YR 4/2) 3～5cmの暗褐色のブロックが混じる。(下層版築)
15’：淡白色粘質土 (Hue5YR 4/2) カーボン・朱色3～5cmの暗褐色のブロックが混じる。(下層版築)
19：淡褐色粘質土(Hue5YR 3/2) 白色点混。スミまばら。
20：暗褐色粘質土 (Hue5YR 4/2)
20b：淡褐色粘質土 (Hue5YR3/2) 白色点混。スミまばら。
33： 暗褐色粘質土 (Hue5YR 4/1) 5㎜大の褐色塊を多く含む。
35： 暗褐色粘質土 (Hue10YR 3/1) 白色粒点混。
36： 褐色粘質土 (Hue7.5YR 3/2) 1～2cm大の褐色塊と黒褐塊を含む。
37： 暗褐色粘質土 (Hue5YR 4/1) 5㎜大の褐色塊を多く含む。
40： 暗褐色粘質土 (Hue10YR 3/1) 白色粒点混。
41： 暗褐色粘質土 (Hue5Y 4/2) 3～5㎜大の黒褐塊はまばら、5～10㎜大の褐色塊を多く含む。
51a：暗褐色粘質土 (Hue5YR 3/2) 5㎜大の褐色粒を多く含む。
51b：暗褐色粘質土 (Hue5YR 3/2) 2～3㎜大の褐色粒を所々に含む。
52： 暗褐色粘質土 (Hue5YR 3/2) 2～3㎜の黒色粒と褐色粒を多く含む。
53： 暗褐色粘質土 (Hue5YR 3/1) 1㎜以下の白色粒点混。
54： 暗褐色粘質土 (Hue7.5YR 4/2) 混入物なし。
55： 暗褐色粘質土 (Hue10YR 3/2) 1㎜大の白色粒、褐色粒点混。2～3cm大の褐色塊を所々に含む。
57： 暗褐色粘質土 (Hue10YR 3/2) 55よりやや暗い1㎜大の白色粒、褐色粒点混。2～3cm大の褐色塊を所々に含む。
57b：粘質土 (Hue5Y 4/3) 暗褐ブロック混。
57c：粘質土 (Hue5YR 4/2) 黒色多い。オレンジブロック混。しまりがない。
57d：粘質土 (Hue5YR 4/3) ポワポワ。1㎜大の黒褐色塊。
57e：粘質土 (Hue5YR 4/2) 黒褐色ブロック多く含む。
58： 茶褐色粘質土 (Hue7.5YR 4/2) 白色ブロック状に混じる。(西壁208対応)
219：淡白色粘質土 (Hue5YR 4/2) 白色・朱色・3～5cmの暗褐色のブロックが混じる。(下層版築)
220：淡白色粘質土 (Hue5YR 4/2) 3～5cmのブロックが多い。カーボンが所々混じる。(下層版築)
221：淡白色粘質土 (Hue5YR 4/2) 朱色のブロックが混じる。１～3cmのカーボンが混じる。(下層版築)

図18 28-6(35-4)トレンチ東壁土層断面図 (S=1/50)



土層注記

0a： 粘質土 (Hue2.5YR 4/2) 白色粒。ポワポワ。しまりなし。
1： 暗褐色粘質土 (Hue2.5YR 3/1) しまりあり。まばらに上層の黒色土ブロックを含む。
(この黒色土は石敷きの層。) 層位的には黒色土のすぐ下層になる。
2： 暗褐色粘質土 (Hue5YR 3/2) 上層よりややしまり強い。
2～3㎜大の黒色粒、肌灰色粒、カーボンをまばらに含む。
3： 暗褐色粘質土 (Hue5YR 4/2) しまる。点状に白色粒、黒色粒を含む。
部分的に塊(1cm大)。色調が明るい所もある。
上層(1)の石敷きより古い時代の遺構埋土と考えられる。
4： 暗褐色粘質土 (Hue2.5YR 3/2) しまる。点状の黒色粒、褐色粒、白色粘を含む。
所々に1～3cm大の白色粘土粒を含む。
5： 暗褐色粘質土 (Hue5YR 4/2) しまる。4より色調がやや暗めか？
まばらに3～8㎜大のカーボンを含む。点状に褐色粒、白色粒、黒色粘を含む。
7： 暗褐色粘質土 (Hue5YR 3/2) しまる。上層よりやや色調は暗い。
点状白色粒1～5㎜大の黒灰色粒を含む。
8： 暗褐色粘質土 (Hue5YR 3/2) しまる。混入物は点状の白色粒、黒色粒。
上下層と比較してやや粘性あり。硬化層といえるほどしまっていない。
9： 褐色粘質土 (Hue5YR 3/3) しまる。2～5㎜大の灰白色粘土粒、点状の白色粒、黒色粒、
まばらに2～3㎜大のカーボンを含む。
9-1： 硬化層 (Hue5YR 3/3) 色調明るい。 ＊道路面と考えられる。
9-2： 硬化層 (Hue5YR 3/2)
9-3： 暗褐色粘質土 (Hue5YR 3/2) 灰白色粘を含みややザラザラ感あり。色調はやや明るい。しまる。
(Hue5YR 4/2) ASO-4由来の褐色土。ややザラザラ感あり。
10： 暗褐粘質土 (Hue5YR 3/2) しまる。混入物は点状の白色粒、黒色粒。
11： 暗褐粘質土 (Hue5YR 4/2) しまる。ゴリゴリは小さい。
12： 黒褐粘質土 (Hue7.5YR 4/2) しまり強い。1～8cm大の黒褐ブロックを多く含む。
一気に厚く埋めた様相。
14： 灰褐色土(Hue5YR 4/2) やわらかい暗褐粘土に3～10cm大の硬い黒褐粘ブロックを含む。
ゴリゴリ多し。
15： 淡白色粘質土 (Hue5YR 4/2) 3～5cmの暗褐色のブロックが混じる。(下層版築)
201： 灰褐色土(Hue7.5YR 4/2) カーボン、白色ブロック混。
202： 灰褐色土(Hue5YR 4/2) 白色、黒色点混。
203： 灰褐色土(Hue7.5YR 4/2) 黒色、白色点混。
204： 褐灰色土(Hue7.5YR 4/1) 黄褐色白色ブロックを多く含む。
205： 褐灰色土(Hue7.5YR 4/1) 暗褐ブロックを多く含む。
206： 灰褐色土(Hue5YR 4/2) 褐色ブロック点混。
207： 灰褐色土(Hue5YR 4/2) 橙色ブロック(5cm大)を含む。
208： 灰褐色土(Hue7.5YR 4/2) 茶褐色、白色ブロック状に混じる。
209： 褐灰色土(Hue7.5YR 4/1) 茶褐色ブロック混。
210： 灰褐色土(Hue7.5YR 4/2) 暗褐色ブロックが多く混じる。
211： 暗赤褐色土(Hue5YR 3/2) 白色ブロックが多く混じる。
213： 褐灰色土(Hue7.5YR 4/1) 赤褐色、黒色点混。
214： 褐灰色土(Hue7.5YR 4/1) 黄褐色と茶褐色ブロックを含む。
215： 灰黄褐色土(Hue10YR 4/2) 暗褐色ブロック(3cm)カーボン含む。
216： 褐灰色土(Hue7.5YR 4/1) 白色とマンガンを含む。
217： 褐灰色土(Hue7.5YR 4/1) 白色ブロックを多く含む。
218： 黒褐色土(Hue10YR 3/2) 黄褐色のブロックを含む。
220： 淡白色粘質土 (Hue5YR 4/2) 3～5cmのブロックが多い。カーボンが所々混じる。(下層版築)
221： 淡白色粘質土 (Hue5YR 4/2) 朱色のブロックが混じる。1～3cmのカーボンが混じる。(下層版築)
ア： 灰赤色粘質土 (Hue2.5YR 4/2) 暗褐色粒。
イ： 黄色粘質土 (Hue5YR 4/2) 暗褐色粒を含む。
ウ： 灰褐色粘質土 (Hue2.5YR 4/2) 暗褐色粒。
エ： 灰黄褐色粘質土 (Hue10YR 4/2)
オ： 灰褐色粘質土 (Hue5YR 4/2) 黄色、暗褐色粒が混じる。
キ： 灰褐色粘質土 (Hue5YR 4/2) 白色粒、赤色粒混じる。

図19 28-6(35-4)トレンチ西壁土層断面図(S=1/50)

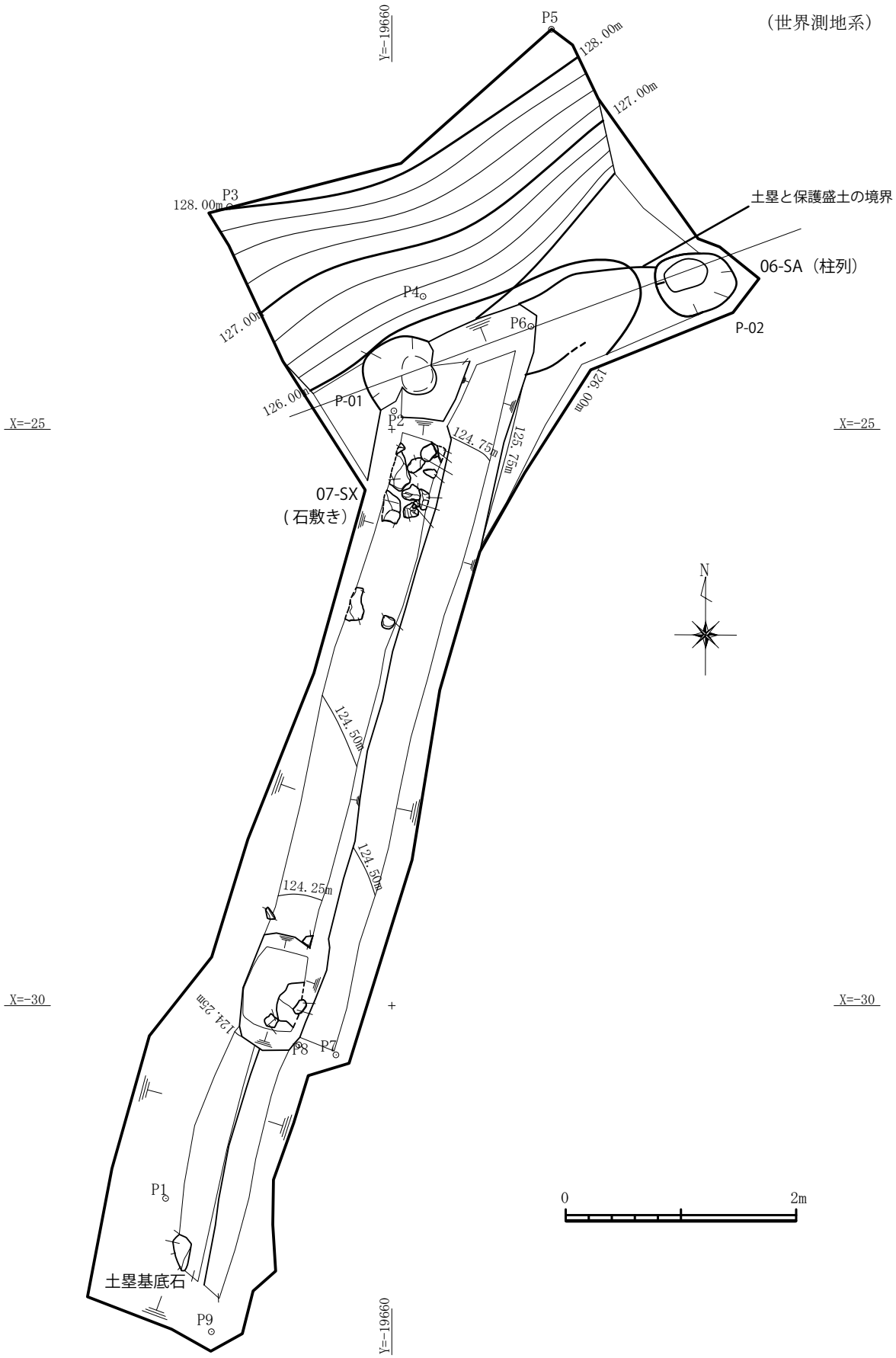
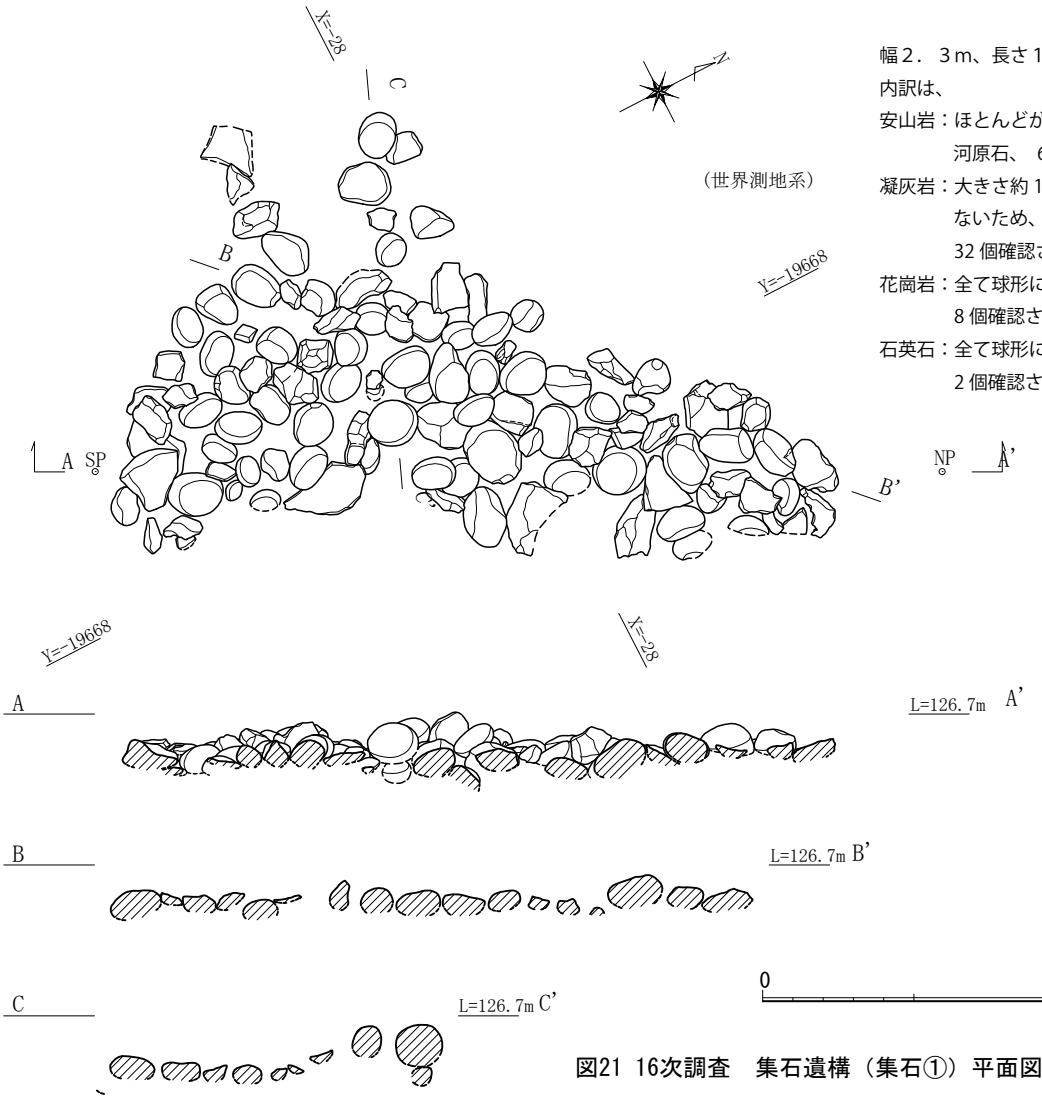


図20　深迫門跡　28-5 トレンチ平面図（S=1/50）



幅２．３m、長さ１．５mの中に１０６個の石が並べられていた。内訳は、

安山岩：ほとんどが球形に近い楕円形状の直径 15 ～ 20 ㎝大の河原石、 64 個確認され、全体の 60.4% を占める

凝灰岩：大きさ約 15 ～ 20 ㎝大の亜角礫や割石（角が部分的にないため、川原石を割っていると考えられる）、32 個確認され、全体の 30.2% を占める

花崗岩：全て球形に近い楕円形状の直径 10 ～ 15 ㎝大の河原石 8 個確認され、全体の 7.5% を占める

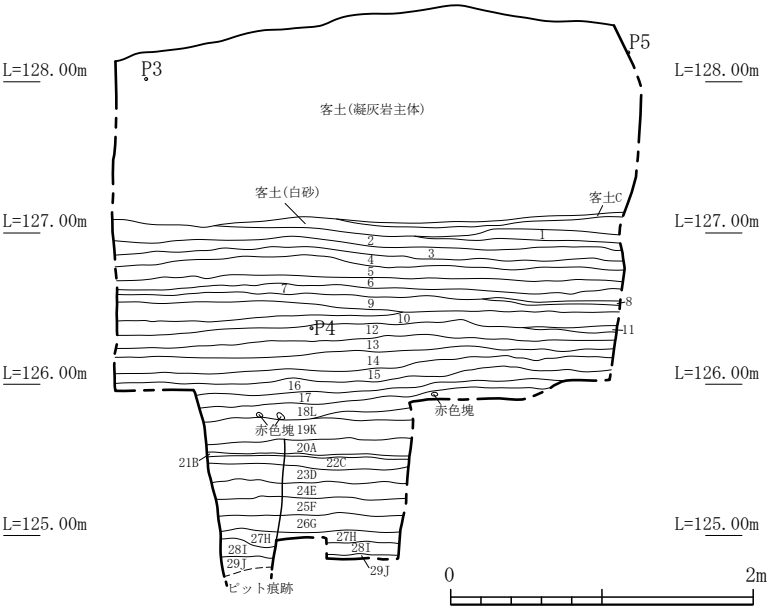
石英石：全て球形に近い楕円形状の直径 10 ～ 20 ㎝大の河原石 2 個確認され、全体の 1.9% を占める

全体的に河川から採取してきた球形に近い楕円形状の石を選択して敷き詰めている状況である。特に安山岩はその傾向が強いと推定できる。これらの石は菊池川水系で採取できるもので、深迫門から近い支流は初田川、木野川、内田川、迫間川があり、いずれも２～３ｋmの距離にある。

これらの河川から選択的に石を採取してきて並べていると推定できる。

緩斜面の道路に大きな石を並べることで雨水の排水や通行が可能となることが考えられよう。

図21 16次調査　集石遺構（集石①）平面図・断面図・断面見通し図（S=1/25）



土層注記

1：　暗褐色粘質土　(Hue5YR 3/2)　2～3㎜大の赤褐粘を所々に含む。
2：　暗褐色粘質土　(Hue5YR 3/2)　白色粒所々に点混。
3：　褐色粘質土　(Hue7.5YR 3/2)　1～2cm大の褐色塊と黒褐塊を含む。
4：　暗褐色粘質土　(Hue5YR 4/1)　5㎜大の褐色塊を多く含む。
5：　暗褐色粘質土　(Hue10YR 3/1)　白色粒点混。
6：　暗褐色粘質土　(Hue5Y 4/2)　3～5㎜大の黒褐塊はまばら、5～10㎜大の褐色塊を多く含む。
7：　暗褐色粘質土　(Hue5YR 3/2)　5㎜大の褐色粒を多く含む。
8：　暗褐色粘質土　(Hue5YR 3/2)　2～3㎜大の褐色粒を所々に含む。
9：　暗褐色粘質土　(Hue5YR 3/2)　2～3㎜大の黒色粒と褐色粒を多く含む。
10：暗褐色粘質土　(Hue5YR 3/1)　1㎜以下の白色粒点混。
11：暗褐色粘質土　(Hue7.5YR 4/2)　混入物なし。
12：暗褐色粘質土　(Hue10YR 3/2)　1㎜大の白色粒、褐色粒点混。2～3cm大の褐色塊を所々に含む。
13：暗褐色粘質土　(Hue5YR 3/2)　1～2㎜大の褐色粒を所々に含む。
14：暗褐色粘質土　(Hue5YR 3/1)　5～10㎜大の褐色塊と黒色塊を多く含む。非常に硬い。
15：暗褐色粘質土　(Hue5YR 3/2)　1㎜大の白色粒を所々に含む。
16：暗褐色粘質土　(Hue5YR 3/2)　1㎜大の白色粒が点混。
17：暗褐色粘質土　(Hue5YR 3/2)　2～3cm大の褐白色塊を所々に含む。
18L：暗褐色粘質土　(Hue5YR 3/2)　白色粘を多く含む。2～5cm大の赤色塊を含む。
19K：暗褐色粘質土　(Hue2.5YR 4/2)　白色粒を多く含む。
20A：灰肌色粒　(Hue5YR 3/2)　白色粒、黒色粒点混。
21B：暗褐色粘質土　(Hue5YR 3/1)　所々に褐白色ブロックを含む。
22C：暗褐色粘質土　(Hue5YR 3/1)　上層より褐白色ブロックを多く含む。
23D：暗褐色粘質土　(Hue5YR 3/2)　5～10㎜大の褐白粒を多く、白色粒、黒色粒点混。
24E：暗褐色粘質土　(Hue5YR 4/2)　含有物は上層と同じだが色調がやや明るい。
25F：暗褐色粘質土　(Hue5YR 3/2)　5㎜大の白色粒、カーボンを所々に含む。
26G：暗褐色粘質土　(Hue5YR 3/2)　2～3cm大の褐白ブロック、2～3㎜大の白色粒、カーボンを所々に含む。
27H：暗褐色粘質土　(Hue5YR 4/2)　白色粒、褐色粒点混。
28I：黒褐色粘質土　(Hue5YR 3/1)　混入物なし。
29J：暗褐色粒　(Hue5YR 4/2)　2～3cm大の白色粒を多く含む。

図22 28-5トレンチ北壁土層断面図（S=1/50）

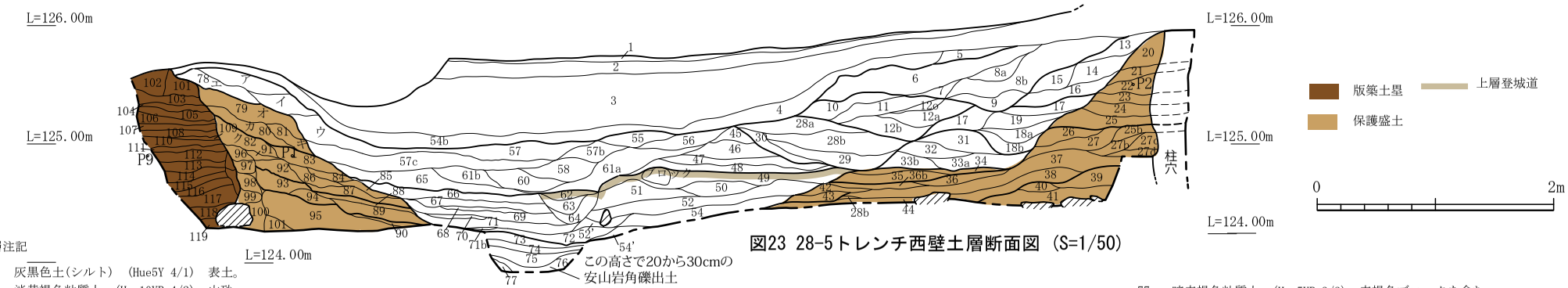


図23 28-5トレンチ西壁土層断面図 (S=1/50)

土層注記

1： 灰黒色土(シルト) (Hue5Y 4/1) 表土。
2： 淡黄褐色粘質土 (Hue10YR 4/2) 山砂。
3： 褐色粘質土 (Hue10YR 3/2) 山砂混。山砂と黒色ブロック混。
4： 褐色粘質土 (Hue5YR 3/2) 2～3cmのブロック混。暗褐色ブロック。
5： 褐色シルト (Hue5YR 3/1) 2cmくらいのブロックを含む。
6： 褐色シルト (Hue5YR 3/2) 2～3cmのブロック状の土。しまる。
7： 褐色シルト (Hue5YR 4/2) 2～3cmのブロック土。明褐色を含む。
8a： 暗褐色シルト(粘質土) (Hue7.5YR 3/1) 赤色粒、スミ点混。
8b： 褐色ブロック土 (Hue5YR 3/2) 4～5mmの赤褐色(白色)ブロックを含む。スミも含む。
9： 明褐色粘質土 (Hue10YR 3/3) 白色点混。ブロック土。
10： 淡黄褐色シルト (Hue5YR 3/2) 白色粒。スミを含む。
11： 黒(暗)褐色シルト (Hue5YR 3/1) 茶褐色ブロック(1cm)を含む。
12a： 灰褐色シルト (Hue10YR 3/2) 白色粒2～3cmを含む。
12b： 褐色シルト (Hue7.5YR 3/2) 3cm以上の白色ブロック、スミを含む。
12c： 暗褐色シルト (Hue5YR 4/2) 黄色ブロック(2cm程の)を含む。
13： 暗褐色シルト (Hue10YR 3/2) 白色粒、マンガン黒色粒(スミか？)。
14： 淡褐色シルト (Hue10YR 3/3) 2cmくらいの白色粒を含む。
15： 暗褐色シルト (Hue7.5YR 3/1) 黄褐色ブロックを含む。
16： 褐色シルト (Hue5YR 3/2) 2cm以上の暗褐色ブロック、白色粒を含む。
17： 暗褐色ブロック土 (Hue7.5YR 3/2) 白色、赤色点混。
18a： 褐色シルト (Hue5YR 4/2) 暗褐色ブロック、白ブロック(2～3cm)を含む。
18b： 褐色シルト (Hue5YR 3/2) 暗褐色ブロック(2～3cm)を含む。
19： 褐色シルト (Hue5YR 3/2) 白色、赤褐色点混。
20： 明褐色粘質土(シルト) (Hue5YR 3/2) 1cmくらいの白色粒、黒色粒を含む。
21： 暗褐色シルト (Hue7.5YR 4/2) 白色粒多し。暗褐色ブロック。
22： 褐色シルト (Hue7.5YR 3/1) 1cmの白色粒。黒色粒を多く含む。
23： 暗褐色シルト (Hue5YR 4/2) 白色粒を多く含む。
24： 褐色シルト (Hue7.5YR 4/4) 黒色点混。青色点混。1～2cmの白色粒を点混。
25： 褐色シルト (Hue7.5YR 4/3) 3cmの白色ブロック。赤色粒混。
25b： 褐色粘質土 (Hue7.5YR 4/6) 1cmくらいの白色粒、黒色粒点混。
26： 褐色シルト(ブロック土) (Hue7.5YR 4/4) 1cmくらいの白色粒。2cmくらいの暗褐色粒を含む。
27： にぶい橙色シルト
27b： 褐色シルト (Hue7.5YR 4/6) 2cmくらい白色粒。黒色白色点混。
27c： にぶい橙色シルト (Hue7.5YR 6/4) 暗褐色ブロック(1cm),白色粒を含む。
27d： にぶい橙色シルト (Hue7.5YR 7/4) 黒色点混。
28a： 淡褐色シルト (Hue5YR 3/2) 白色ブロック、暗褐色ブロックを含む。
28b： 暗褐色シルト(ブロック土) (Hue5YR 4/2) 2cm暗褐色ブロック、1cm白色粒、赤色粒を含む。
29： 褐色シルト (Hue5YR 4/2) 5mmくらいの白色粒、3mmくらいの暗褐色ブロックを含む。
30： 褐色シルト (Hue7.5YR 4/1) 暗褐色粘質ブロック多し。
31： 褐色シルト (Hue7.5YR 4/2) 白色粒、暗褐色粒を含む。
32： 褐色シルト (Hue5YR 4/2) 黄褐色シルト混。赤色点混。黒色粒。
33a： 灰褐色砂質土 (Hue10YR 4/2) 茶褐色ブロック(鉄分)1cmくらいのを含む。
33b： 暗褐色粘質土 (Hue7.5YR 4/2) マンガンを含む。
34： 褐色粘質土 (Hue5YR 4/2) 1cmくらいの白色粒、赤褐色粒を含む。
35： 褐色シルト (Hue5YR 4/2) 2cmくらいの白色粒、黒色粒混入多し。
36： 褐色シルト (Hue5YR 4/2) 白色ブロック多し。34、35より混入物少ない。
37： 褐色シルト (Hue7.5YR 4/2) 5mmくらいのカーボンを含む。
38： 褐色粘質土 (Hue7.5YR 4/2) 5mmくらいの暗褐色ブロック多し。
38b： 褐色粘質土 (Hue7.5YR 4/2) 白色粒が極めて多い。
39： 暗褐色砂質土 (Hue7.5YR 4/1) カーボン、白色粒を含む。
40： 暗褐色砂質土 (Hue7.5YR 3/2) 赤色粒、黒色粒点混。
41： 暗褐色粘質土 (Hue5YR 4/2) カーボン、赤色粒、白色粒(5mm)、茶褐色ブロック(1～3cm)。
42： 淡褐色シルト (Hue10YR 4/1) 黒色点混。
43： にぶい褐色シルト (Hue10YR 4/2) 赤色、黒色点混。
44： にぶい褐色シルト (Hue7.5YR 4/1) 白色粒を含む。
45： 褐色シルト(ブロック土) (Hue10YR 4/4) 3mmの赤色、白色粒、1cmの暗褐色ブロックを含む。
46： 灰褐色シルト (Hue7.5YR 4/3) 黄褐色、白色ブロック、暗褐色ブロック(1cm)を多く含む。
47： 淡灰褐色シルト (Hue7.5YR 3/1) 赤褐色、黒色粒を多く含む。
48： にぶい灰褐色シルト (Hue7.5YR 4/1) 1cmの赤褐色粒、白色粒点混。
49： 暗褐色ブロック土 (Hue10YR 4/1)
50： 暗褐色粘質ブロック土 (Hue10YR 4/3) やや黄味を帯びる。黒色点混。
51： 明褐色粘質ブロック土 (Hue10YR 4/1) 白色、黒色点混。
52： 暗褐色粘質ブロック土 (Hue7.5YR 4/2) 赤色、スミ点混。
52'： 灰褐色砂質土 (Hue5YR 4/2) 白色ブロックを含む。
53： 灰褐色粘質土 (Hue5YR 3/2) 黒色、黄色点混。
54： 茶褐色シルト (Hue5YR 4/2) 黒色、白色点混。
54'： 灰褐色シルト (Hue5YR 4/2) スミ、白色粒混。
55： 褐色シルト (Hue7.5YR 4/1) 白色点混。
56： 褐色シルト (Hue7.5YR 4/2) 黒色、赤褐色、白色点混。
57： 明褐色シルト (Hue7.5YR 3/2) 暗褐色シルト混。
57b： 灰赤色シルト (Hue2.5YR 4/2) 赤褐色、白色点混。
58： 灰褐色シルト (Hue5YR 4/2) 白色点混。
60： 灰褐色シルト (Hue5YR 4/2) 1cmくらい赤褐色、白色ブロック。
61a： 灰赤色シルト (Hue2.5YR 4/2) 黄褐色ブロック。
61b： 灰褐色シルト (Hue5YR 4/2) 白色、スミ混。
62： 灰褐色シルト (Hue7.5YR 4/2) 白色点混。
63： 淡灰褐色シルト (Hue5YR 4/2) 白色点混。1cmくらいの赤褐色ブロック混。
64： 黒褐色シルト (Hue5YR 3/1) 1cmくらいのマンガン、暗褐色ブロック混。
65： 灰褐色シルト (Hue5YR 4/2) 灰黄褐色、白色、スミ混。
66： 褐灰色砂質土 (Hue7.5YR 4/2)
67： 灰褐色砂質土 (Hue5YR 4/2) 鉄分を多く含む。
68： 灰褐色砂質土 (Hue5YR 4/2) 鉄分を含む。
69： 灰褐色砂質土 (Hue5YR 4/2) 鉄分を多く含む。
70： 灰褐色砂質土 (Hue7.5YR 4/2) 鉄分を多く含む。
71： 灰褐色砂質土 (Hue5YR 4/2) 鉄分を多く含む。
71b： 灰褐色砂質土 (Hue7.5YR 4/2) 鉄分を多く含む。
72： 灰褐色砂質土 (Hue5YR 4/2) 鉄分を多く含む。
73： 暗黄色砂質土 (Hue5YR 4/3) 暗褐色ブロックを含む。
74： 灰褐色砂質土 (Hue5YR 4/2)
75： 灰褐色粘質土 (Hue7.5YR 4/2) 暗褐色、白色、褐色ブロックが混じった埋土。やや粘質土。
76： 暗褐色粘質土 (Hue7.5YR 3/3) 黄褐色ブロック混。
77： 暗赤褐色粘質土 (Hue5YR 3/2) 赤褐色ブロックを含む。
78 エ： 灰褐色シルト (Hue7.5YR 4/2) 黄褐色ブロック、白色点混。
79 オ： 黄褐色粘質土 (Hue5YR 4/2) スミ多し。
80 カ： 黄褐色粘質土 (Hue5YR 4/3) 暗褐色ブロック(2～3cm)を含む。
81 キ： にぶい赤褐色粘質土 (Hue5YR 4/3) 灰褐色ブロック多し。
82 ク： 灰褐色粘質土 (Hue5YR 4/2) 灰褐色ブロック多し。
83： にぶい赤褐色粘質土 (Hue5YR 4/3)
84： 灰褐色粘質土 (Hue7.5YR 4/2) 鉄分、黒色点混。83の一部。
85： 灰褐色砂質土 (Hue5YR 4/2) 白色土含む。
86： 白色系砂質土 (Hue7.5YR 4/2)
87： 灰褐色砂質土 (Hue7.5YR 4/2) 白色ブロック、スミ混。
88： 灰褐色砂質土 (Hue5YR 4/2) シルトに近い黄色。
89： 淡褐色土 (Hue7.5YR 4/3) 白色ブロック。
90： 暗褐色粘質土 (Hue5YR 3/2)
91： にぶい赤褐色シルト (Hue5YR 4/3) スミ、白色混。
92： 灰褐色粘質土 (Hue5YR 4/2) スミ、白色粒を含む。
93： 灰褐色シルト (Hue5YR 4/2) 白色粒多量。やや黄色。
94： 灰褐色シルト (Hue5YR 4/2) 白色粒の混じり少ない。
95： 褐色シルト (Hue7.5YR 4/3) 5cmくらいのブロック、カーボン3cmくらいを含む。
96： 褐色粘質土 (Hue7.5YR 5/4) 2～3cm大の黒色粒所々に入る。
97： 褐色粒土 (Hue7.5YR 4/6) 1cm大の黒色粒所々に入る。白色粒点混。
98： 褐色粒土 (Hue7.5YR 4/6) 1cm大の黒色粒やや多く入る。白色粒点混。
99： 褐色粘質土 (Hue7.5YR 4/6) 白色粒、黒色粒、褐色粒多く混入。
100： 灰褐色粘質土 (Hue7.5YR 4/2) ところどころ白色粒。
101： 黄褐色粘質土 (Hue7.5YR 4/2) スミ、白色ブロック混。
102： 褐灰色粘質土 (Hue7.5YR 4/1) 5cmくらいの白色粒。
103： 灰褐色粘質土(暗褐) (Hue7.5YR 4/2) ガチガチ。
104： 黄褐色粘質土 (Hue7.5YR 4/2)
105： にぶい赤褐色粘質土 (Hue5YR 4/3) 黄色。
106： 暗褐色粘質土 (Hue5YR 4/2) 黒色。
107： にぶい赤褐色粘質土 (Hue5YR 4/3) 黄色。
108： 暗褐色粘質土 (Hue5YR 4/2) 黒色。
109： にぶい赤褐色粘質土 (Hue5YR 4/3) 黄色。
110： 暗褐色粘質土 (Hue5YR 4/2) 黒色。
111： にぶい赤褐色粘質土 (Hue5YR 4/3) 黄色。
112： 暗褐色粘質土 (Hue5YR 4/2) 黒色。＊暗褐色と黄色のサンドイッチ
113： にぶい赤褐色粘質土 (Hue5YR 4/3) 黄色。(5～4層)
114： 暗褐色粘質土 (Hue5YR 4/2) 黒色。
115： にぶい赤褐色粘質土 (Hue5YR 4/3) 黄色。
116： 暗褐色粘質土 (Hue5YR 4/2) 黒色。
117： 暗褐色粘質土 (Hue5YR 4/2) 黒色。
117b： 暗褐色粘質土
118： 灰褐色粘質土 (Hue7.5YR 4/2)
119： 灰褐色粘質土 (Hue5YR 4/2)

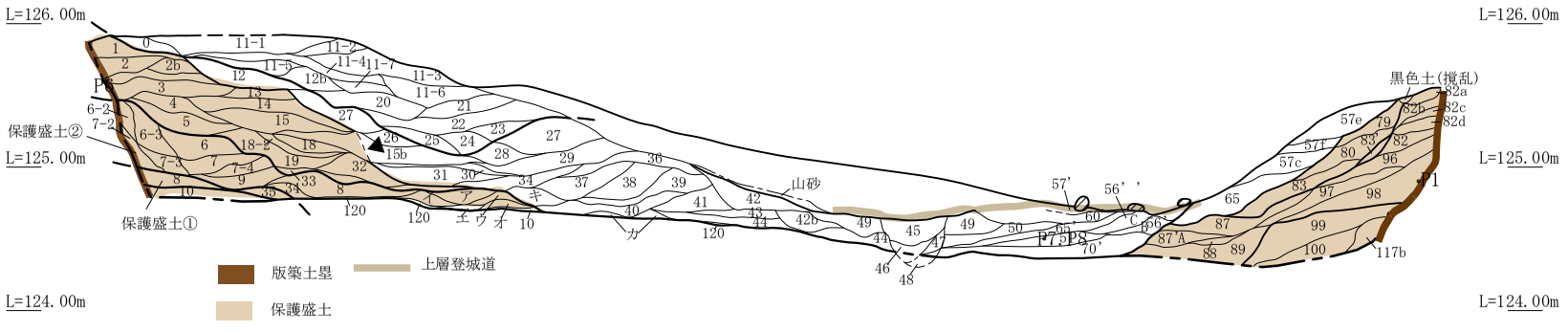


図24 28-5トレンチ東壁土層断面図 (S=1/50)

土層注記

0： 褐色シルト (Hue5YR 3/1) 暗褐色ブロックを多く含む。
1： 暗褐色粘質土 (Hue10YR 3/3) 黒色、赤褐色の粒子を含む。
2： 暗褐色粘質土 (Hue10YR 3/4) 3㎜大の白色粒を多く含み、黒褐色粒もあり。
3： 褐色粘質土 (Hue10YR 3/4) 5㎜大の白色粒,黒色粒、赤褐色粒(やや小さい)を含む。
4： 暗褐色粒 (Hue10YR 3/1) 1cm大の白色粒、赤色粒を、2cm大の暗褐色ブロックを含む。
5： 淡褐色粒 (Hue5YR 4/2) 2cm大の暗褐色粒、5㎜大の白色粒、小さい黒色粒を含む。
6： 淡褐色粒 (Hue7.5YR 3/2) 2cm大の白色粒を、黒褐色粒、赤褐色粒は点混。
6-2：明褐色粘質土 (Hue7.5YR 3/1) 赤褐色、白色点混。
6-3：明褐色シルト (Hue5YR 4/2) 白色点混の多い黒色。
7： 暗褐色粒 (Hue10YR 4/2) なし。
7-2：黄褐色シルト (Hue5YR 3/2) 白色、黒色点混。
7-3：黄褐色シルト (Hue5YR 3/1) 白色、黄色点混。
7-4：暗黄褐色ブロック土 (Hue10YR 3/3) 白色、黄色点混。
8： 明褐色シルト (Hue7.5YR 3/2) 赤色粒、黒色粒点混。
9： 褐色粘質土 (Hue5YR 3/2) 黒色粒、白色粒点混。
10： 暗褐色シルト (Hue5YR 4/2) 黄褐色ブロックを顕著に含む。
11： 褐色粘質土 (Hue7.5YR 4/2) 黒色粒、白色粒点混。
11-1：褐色粘質土 (Hue7.5YR 3/4) 黒色、赤色点混。1cmくらいの暗褐色ブロックを含む。
11-2：暗褐色ブロック土 (Hue10YR 3/2) 黒色粒(マンガン)を多く含む。
11-3：褐色粘質土 (Hue7.5YR 3/1) 1cmくらいの黒色粒を多く含む。
11-4：褐色粘質土 (Hue10YR 3/2) 5㎜くらいの黒色(暗褐)粒を多く含む。
11-5：暗褐色粘質ブロック土 (Hue5YR 4/2) 黄褐色ブロックを含む。赤色点混。
11-6：暗褐色粘質ブロック土 (Hue5YR 4/2) 暗褐色ブロック(1cm)、白色粒点混。
11-7：褐色粘質土 (Hue10YR 3/2) 黒色粒を含む。
12： 暗褐色粒 (Hue10YR 2/3) 白色粒、黒色粒点混。一部1cm大の白色粒あり。
12b：暗黄褐色シルト (Hue5YR 3/1) 黒色ブロック、4cmくらいの白色ブロック混。
13： 褐色粘質土 (Hue7.5YR 5/2) 白色粒、黒色粒点混。
14： 暗褐色粘質土 (Hue7.5YR 4/2) 3㎜くらいの白色粒、赤色粒を含む。
15： 褐色粒 (Hue5YR 4/2) 1cm大の白色粒、赤褐色粒、黒色粒点混。
15b： 褐色シルト (Hue7.5YR 4/2) 白色粒、暗褐色粒を含む。やや褐色。西壁の31層。
16： 暗褐色粘質土 (Hue5YR 4/2) 黒色粒点混。
17： 褐色粘質土 (Hue7.5YR 4/2) 白色粒点混。赤褐色、黒褐色点混。
18： 暗褐色粘質土 (Hue7.5YR 4/4) 3cmくらいの白色粒を多数含む。赤褐色、黒色粒点混。
19： 暗褐色粘質土 (Hue7.5YR 4/3) 1cmくらいの白色粒、赤褐色、黒色粒点混。西壁の27層と同層。
20： 褐色粘質土 (Hue10YR 3/3) 黒色、白色、赤褐色ブロック混。
21： 褐色粘質土 (Hue7.5YR 3/1) 赤褐色点混。1cmくらいの暗褐色ブロック混。
22： 褐色粘質土 (Hue10YR 3/2) 白色ブロック(1cm)、暗褐色ブロック混。
23： 暗褐色粘質土 (Hue10YR 3/4) 1cmくらいの暗褐色ブロック混。
24： にぶい褐色粘質土 (Hue10YR 4/2) 暗褐色、白色1cmくらいのブロック混。
25： 淡黄褐色シルト (Hue5YR 4/2) 黒色点混。
26： 暗褐色粘質土 (Hue7.5YR 4/1) ブロックが多い。
27： 褐色粘質土 (Hue5YR 4/2) 1cmくらいの白色粒、1cmくらいの暗褐色粒を含む。
28： にぶい褐色シルト (Hue5YR 4/2) 白色粒、赤色粒を含む。
29： 淡褐色シルト(粘質土) (Hue7.5YR 4/2) 白色粒(1cm)を含む。
30： にぶい褐色シルト (Hue7.5YR 4/1) 白色粒点混。
31： 褐色粘質土 (Hue7.5YR 4/1) 白色粒、黒色粒点混。
32： 暗褐色粘質土 (Hue7.5YR 4/1) 白色粒、黒色粒点混。
33： にぶい褐色粘質土 (Hue7.5YR 4/2) 白色粒1cmを含む。
34： 淡褐色シルト (Hue7.5YR 4/2) 混入物少ない。白色粒少し含む。
35： 淡褐色シルト (Hue7.5YR 4/2) 白色粒、赤色粒多く含む。
36： 淡褐色シルト (Hue7.5YR 4/2) 1cm白色粒、暗褐色マンガン？を含む。
37： にぶい褐色粘質土 (Hue7.5YR 4/2) 白色粒少ない。
38： にぶい褐色ブロックシルト (Hue7.5YR 4/2) 白色粒、黄褐色粒多し(5㎜くらい)。
39： 暗褐色粘質土 (Hue7.5YR 4/1) 不純物少ない。
40： 淡褐色粘質土 (Hue5YR 4/2) 3cmくらいの白色粘土を含む。西壁の47’層と同層。
41： にぶい褐色粘質土 (Hue7.5YR 4/2) 白色点混。暗褐色ブロック(1cmくらい) を含む。
42： 暗褐色粘質土 (Hue10YR 3/4) 1cmくらいの白色粒20%。
42b：粘質土 (Hue7.5YR 3/2) 1cmくらいの白色粒50%以上含む。
43： 黄褐色シルト (Hue10YR 3/4) 暗褐色ブロック、白色粒を含む。
44： 褐色粘質土 (Hue10YR 4/2) 5㎜～1cmの白色粒、暗褐色ブロックを含む。
45： 灰褐色シルト (Hue7.5YR 4/2) 白色点混。
46： 暗黄褐色シルト (Hue7.5YR 3/2) 白色(5㎜)混。
47： 暗褐色粘質土(ブロック土) (Hue7.5YR 4/1) 白色(5㎜)含む。
48： 茶褐色シルト (Hue10YR 3/4) 鉄分含む。

*45・46・47・48 溝か？登城道、側溝か？

49： 茶褐色シルト (Hue7.5YR 4/2) 白色、黒色点混。
50： 暗褐色粘質土 (Hue5YR 3/1) スミ、白色5㎜くらいのを含む。
51： 灰褐色粘質土 (Hue7.5YR 3/2) 白色粒,暗褐色ブロック。
56’： 暗褐色砂質土 (Hue7.5YR 3/4) 白色粒点混。
56’’： 暗褐色砂質土 (Hue7.5YR 3/3) 白色粒点混。5㎜大のカーボンも含む(1ヶ所)。
57’：黒褐色ブロック土 (Hue7.5YR 4/1) 褐色混。
57c： 暗褐色シルト (Hue7.5YR 3/4) 1～8cm大の黒褐色ブロックを所々に含む。
3～10㎜大の白色粒も所々に含む。
57e： 暗褐色シルト (Hue7.5YR 3/4) 色調が暗く硬くしまる。白色粒、褐色粒点混。
57f： 暗褐色シルト (Hue7.5YR 3/4) 3～5㎜大の赤色粒を所々に含む。
60’：暗褐色シルト (Hue2.5YR 4/2) 黄褐色ブロック混。
65： 暗褐色シルト (Hue10YR 3/3) 黄褐色ブロックと暗褐色ブロックの混じった土。
65’：白色シルト (Hue5YR 5/3)
66’：褐色シルト (Hue7.5YR 4/1) スミ混。白色粒混。
70’：淡褐色シルト (Hue5YR 4/2) スミ混。白色粒混。
79： 黄褐色粘質土 (Hue5YR 4/2) スミ多し。
80： 黄褐色粘質土 (Hue5YR 4/3) 暗褐色ブロック(2～3cm)を含む。
82： 粘質土 (Hue5YR 4/2) 灰褐色ブロック多し。
82a：粘質土 (Hue5YR 4/2) カーボン含む。
82b：粘質土 (Hue5YR 4/2) 少し明るい。白色赤褐色5㎜を含む。
82c：灰褐色シルト (Hue5YR 4/2) 混入物点混。白色赤褐色。
82d：灰褐色シルト(Hue5YR 4/3) 暗褐色粒1～2㎜。黒色。
83： にぶい赤褐色粘質土 (Hue5YR 4/3)
83’：にぶい赤褐色粘質土 (Hue5YR 4/3) やや砂質。黄褐色、暗褐色シルト混。
87： 灰褐色砂質土 (Hue7.5YR 4/2) 白色ブロック、スミ混。
87’：暗褐色粘質土 (Hue5YR 4/2) やや砂質。 白色粒。
88： 砂質土 (Hue5YR 4/2) シルトに近い黄色。
89： 淡褐色土 (Hue7.5YR 4/3) 白色ブロック。
96： 褐色粘質土 (Hue7.5YR 5/4) 2～3cm大の黒色粒所々に入る。
97： 褐色粘質土 (Hue7.5YR 4/6) 1cm大の黒色粒所々に入る。白色粒点混。
98： 褐色粘質土 (Hue7.5YR 4/6) 1cm大の黒色粒やや多く入る。白色粒点混。
99： 褐色粘質土 (Hue7.5YR 4/6) 白色粒、黒色粒、褐色粒多く混入。
100： 灰褐色粘質土 (Hue7.5YR 4/2) 所々白色粒。
117b： 暗褐色粘質土 (Hue5YR 4/1) きれい。混入物少ない。土塁の一部。
ア： 褐色粘質土 (Hue5YR 3/2) 白色粘ブロック、暗褐ブロックを多く含む。
イ： 褐色シルト (Hue5YR 3/1) 暗褐、カーボン、白色粒を含む。
ウ： 褐色シルト (Hue5YR 4/2) 暗褐粒、白色粒を含む。
エ： 褐色粘質土 (Hue5YR 4/2) 白色と暗褐のブロック含む。
オ： 褐色粘質土 (Hue5YR 4/2) 白色、暗褐色ブロックを含む。エと同質。
カ： 暗褐色ブロック土 (Hue5YR 4/2) 白色ブロックを少量含む。
キ： 褐色シルト (Hue2.5YR 4/2) 暗褐色ブロック、白色ブロックを含む。
A： 暗褐色砂質土 (Hue7.5YR 3/4) 白色粒点混。5～10mm大のカーボン所々(2ヶ所)に含む。3㎜大のマンガンも所々に含む。
B： 暗褐色砂質土 (Hue7.5YR 3/4) 白色粒点混。
C： 暗褐色砂質土 (Hue7.5YR 3/3) 白色粒点混。5㎜大のカーボンも含む(1ヶ所)。
120：褐色シルト (Hue5YR4/2) 白色粒。やや灰色混。7cmくらいの整地層
西壁48層と同層。

写 真 図 版

写1：上空から深迫門・長者原広場を望み、不動岩を遠望する（南東より）

写2：35トレンチ（2段目土層断面）全景（南より）

写3：35トレンチ（2段目）集石遺構（登城道）検出状況　近景（東より）

写4：35-3トレンチ（2段目）版築土層断面　近景（南より）

写5：35-3トレンチ（2段目）01-SX 検出状況（南西より）

写6：35-3トレンチ内の列石検出状況遠景（南西より）

写7：35-3トレンチ内の列石検出状況近景（南西より）

写8：28-6（35-4トレンチ）（2段目）土層状況（南西より）

写9：28-6（35-4トレンチ）（2段目）土層状況（北東より）

写10：28-5トレンチ（3段目）近景（南より）

写11：28-5トレンチ（3段目）全景（南西より）

写12：28-5トレンチ（3段目）北側版築土塁（南東より）

写13：28-5トレンンチ（3段目）集石遺構検出状況
（北東より）

写14：28-5トレンンチ北側土塁前面敷石検出全景
（南東より）

写15： 28-5トレンチ（3段目）北西側断面状況（東より）

写16：28-5トレンチ（3段目）南東側断面・南側版築土塁検出状況（北より）

写17：28-5トレンチ（3段目）北西側断面・南側版築土塁検出状況（南東より）

写18：16次調査 北側土塁検出状況（南東より）

写 20：28 次調査 28-4 トレンチ（3 段目）
基底石・敷石検出状況（東より）

写19：28次調査 28-4トレンチ（3段目）
基底石・敷石検出状況（南より）

報告書抄録

ふりがな	きくちじょうあと
書　　名	鞠智城跡
副 書 名	第３５・３６次調査報告
巻　　次	1
シリーズ名	熊本県立装飾古墳館分館　歴史公園鞠智城・温故創生館
シリーズ番号	
編 著 者 名	亀田　学、廣田　静学、岡本　真也
編 集 機 関	熊本県教育委員会
所 在 地	〒862-8570　熊本県水前寺６丁目 18 番 1 号 TEL.096-333-2706　FAX096-384-7220
発行年月日	令和 4 年（2022 年）3 月 31 日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
鞠智城跡	熊本県（くまもとけん）菊池市 木野字深迫	43210	152,153	33° 00′ 10″‘	130° 47′ 00″	20210114 ～ 20220121	約 60 ㎡	遺跡整備

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
鞠智城跡	山城	古代	版築土塁、基底石、配石、不明土坑	土師器（小片）、布目瓦	

要約	鞠智城跡の東側の深迫門跡周辺の調査を実施した。 ２段目の法面と平坦部では版築土塁を再確認したが、場所により緻密な積み土を行っている場所とそうでない場所があった。また、土のしまり方も同様であった。 土塁の基底石と考えられる３段積の石列が確認され、東西に繋がることが想定される。3段目の再発掘では基底石の城外側に配石が連続することが想定された。 門の正確な位置は不明であるが、鞠智城Ⅴ期またはそれ以降の時期と推定される登城道と考えられる石敷きが東西方向に確認できた。 また、不明の土坑が門想定地の左右で確認され、その検証のために来年度も継続調査を実施することとした。

鞠智城跡
—第３５・３６次調査報告—

令和４年（2022年）３月31日
編集　熊本県立装飾古墳館分館
発行　歴史公園鞠智城温故創生館
〒861-0425 熊本県山鹿市菊鹿町米原443-1
印刷　株式会社　啓文社
〒861-3102 熊本県上益城郡嘉島町下六嘉1765

発 行 者：熊本県教育委員会
所　　属：装飾古墳館
発行年度：令和３年度
（2021 年度）

この電子書籍は 鞠智城跡 第35・36次調査報告 を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：鞠智城跡 第35・36次調査報告
発行：熊本県教育委員会
〒862-8609　熊本市中央区水前寺6丁目18番1号
電話： 096-383-1111
URL：http://www.pref.kumamoto.jp/
電子書籍制作日：西暦2022年6月15日

なお、熊本県文化財保護協会が底本を頒布している場合があります。詳しくは熊本県文化財保護協会にお問い合わせください。

熊本県文化財保護協会
URL：http://www.kumamoto-bunho.jp/